

# 飯田市議会要覧

『暮らし豊かな いいだの<sup>あす</sup>未来を 市民とともに』  
～ 市民のしあわせに貢献する議会 ～

令和8年6月

飯田市議会事務局

# 飯田市市民憲章

わたくしたちの飯田市は、美しい自然に恵まれ、長い歴史と尊い伝統文化に  
つまれた人情豊かなまちとして知られ、伊那谷の中心都市として躍進してい  
ます。

わたくしたちは、このまちの市民としての誇りをもち、明るく健康で豊かな  
市民生活を築くために、全市民のねがいをこめてこの憲章をかかげ、たがいに  
はげましあい、手をとりあって進みます。

わたくしたちは

- 1 自然を大切にし、美しい環境の飯田市をつくります。
- 2 心身をきたえ、健康で明るい飯田市をつくります。
- 3 伝統を生かし、文化の香り高い飯田市をつくります。
- 4 善意を広め、思いやりの心で幸せな飯田市をつくります。
- 5 楽しく働き、豊かな産業の飯田市をつくります。

(昭和52年7月5日 施行)

---

市章 ～市章の象形～  
平仮名「い」を組み合わせ  
「田」を形どり「いいだ」  
を象形する。



# 目次

<b>I 沿革</b>	
1 沿革	1
2 人口と世帯の推移	4
3 飯田市自治基本条例	6
<b>II 市議会の構成</b>	
1 構成	13
2 議員名簿	15
3 正副議長及び各委員会委員名簿	16
4 監査委員及び南信州広域連合議会議員名簿	16
5 議会選出の各種委員等	17
6 各会派及び各会派の代表者氏名	19
<b>III 市議会の活動</b>	
1 市議会の活動状況	
(1) 市議会招集回数 10 か年比較表	20
(2) 議会開会状況	20
(3) 議会審議状況	21
2 報酬・その他	22
3 定期刊行物	23
4 市議会会議録	23
5 議会事務局の事務分掌	24
<b>IV 飯田市の概要</b>	
1 令和8年度飯田市各会計及び一般会計当初予算の概要	25
2 飯田市行政組織機構図	29
3 職員の定数	30

## 【 資料編 】

### V 市議会のあゆみ

1	市議会議員選挙執行状況	31
2	歴代市議会議員	
(1)	歴代議長	32
(2)	歴代副議長	33
(3)	歴代総務常任委員会正副委員長	34
(4)	歴代社会文教常任委員会正副委員長	35
(5)	歴代産業建設常任委員会正副委員長	36
(6)	歴代予算決算常任委員会正副委員長	37
(7)	歴代建設環境常任委員会正副委員長	37
(8)	歴代議会運営委員会正副委員長	38
(9)	歴代監査委員（議会選出）	39
(10)	歴代事務局長	40
(11)	歴代市議会議員	41
3	1年間の記録	
(1)	付議事件及び議決結果一覧表	48
(2)	議会において執行した選挙・選任等	58
(3)	委員会活動開催状況	58
(4)	請願陳情	59
(5)	定例会の質問事項	61
(6)	本会議等傍聴状況	104
4	市議会のあゆみ（昭和46年から）	105

### VI 参考資料

1	都市宣言	125
2	市政提携に関する覚書	129
3	友好都市締結	129
4	飯田市の主要年表	130

# I 沿 革

## 1-1 飯田市の沿革

飯田市は、長野県の最南端に位置する伊那谷の中心都市である。諏訪湖に源を発し、伊那谷を南下して太平洋に注ぐ天竜川の全長のほぼ中央に位置し、東に南アルプス国立公園、西に中央アルプス県立公園をひかえ、豊かな自然、優れた景観及び四季に富んだ暮らしやすい温暖な気候に恵まれている。天竜川沿いに形成された日本有数の段丘に位置する市街地から南アルプスの山懐に抱かれる遠山郷までにわたる658.66平方キロメートルの市域に94,193人（令和7年4月1日現在）の人口を擁し、地域に根ざした特色ある住民活動や産業活動等が幅広く展開されている。

現在の飯田市街は飯田城の城下町であり、街並みの様相から「小京都」と呼ばれてきたが、昭和22年4月に市街地の3分の2を焼失する大火に見舞われた。以後面目を改め、防火モデル都市、さらに近年は環境モデル都市として注目されている。

近世の太宰春台、近代の菱田春草、田中芳男、河竹繁俊、日夏耿之介等学芸の士の生誕地であり、りんご並木のまち、人形劇のまちとして親しまれ、名勝天龍峡があり、豪快な天竜川下りが楽しめるほか、遠山郷の霜月まつり、各地に伝わる獅子舞など、伝統文化が豊富な地である。

昭和12年4月1日に飯田町と上飯田町が合併して市制を施行、以来、15町村と合併し、今日の飯田市の市域を成している。



「伊那谷の夜明け」とまで言われ、多くの市民が期待していた中央自動車道西宮線は、昭和50年8月23日に中津川一駒ヶ根間が開通し、昭和57年11月10日に全線開通となり、飯田地方と中京圏、首都圏との経済、文化の交流が飛躍的に拡大した。

また、東海地域と飯田を結ぶ三遠南信自動車道においては、平成6年3月29日に矢筈トンネルが、平成20年4月13日には飯田山本IC—天龍峡IC間、平成30年3月11日には飯喬道路龍江—飯田上久堅・喬木富田IC間、令和元年11月17日には天龍峡IC—龍江IC間が開通、令和6年には青崩峠トンネル（仮称）の本坑が貫通し、全線開通を目指しての建設が進行している。

天龍峡IC—龍江IC間には、文化財保護法により国の重要文化財に指定される「名勝天龍峡」があり、この名勝の歴史ある良好な景観との

調和を図るため、峡谷のV字地形に収まり、背後のスカイラインを阻害しない「鋼上路式アーチ橋」の天龍峡大橋を整備した。名勝地を横断する自動車専用道の架橋事業は前代未聞の

プロジェクトであった。

令和3年3月28日には、リニア中央新幹線開業時の広域観光支援を目的に、中央自動車道からのアクセスとして座光寺スマートインターチェンジが開通した。

リニア中央新幹線については、平成25年9月にルート及び長野県駅が飯田市上郷飯沼に設置される計画が公表され、令和4年8月には中央アルプストンネル松川工区本線トンネルの掘削工事が開始となった。JR東海から当初予定されていた2027年開業の延期が発表されたが、長野県の南の玄関口、また、三遠南信地域の北の玄関口にふさわしいリニア駅とその周辺整備に向けた準備が進められている。

激的に近くなる首都圏と中京圏との連結地域として、ますます本市の果たす役割が期待される。

## 1-2 市議会の沿革

飯田市議会は、昭和31年に1市7か村を廃し、その区域をもって市制を施行したことに伴い、旧市村の議員が引き続き市議会議員（総員149人）として在任、同年10月8日に臨時会が開かれ、初代議長に代田源六郎氏、初代副議長に伊藤清氏が選出された。

市議会議員の定数は、昭和32年3月12日の定例会において「飯田市議会議員の選挙区及び各選挙区における議員の数に関する条例」（小選挙区制）を可決。以後、議員定数の見直しと合併による増員などの変遷を経てきた。

平成19年5月、新しい時代にふさわしい地方議会の在り方を模索する中で、市民にとってわかりやすく開かれた議会を目指し「議会改革検討委員会」を設置した。委員会では、「議員の在り方の変革を目指して」ほか5項目を議論する中、平成21年4月19日執行の議員選挙から定数を29人から23人に削減し、常任委員会の所属についても複数所属とし、一人の議員が二つの常任委員会に所属することとした。平成25年4月21日執行の議員選挙後は委員会活動をさらに充実させるため、議員は一つの常任委員会に所属することとした。

飯田市議会の取り組みとして最も注目されるのは、「飯田市自治基本条例」の制定である（平成19年4月施行）。その端緒は、平成15年5月の政策立案型議会への転換を目指した議会議案検討委員会の設置にある。翌16年5月には市民を委員として「わがまちの“憲法”を考える市民会議」が発足。同会議は条例の制定に向けた研究を行い、その成果を最終答申書にまとめ、議長に提出した。これを受け市議会では翌17年5月に自治基本条例特別委員会を設置し、二度にわたる地区懇談会及び議会によるパブリックコメントの実施を経た後、平成18年9月に条例案を議会議案として提案し、全会一致で可決した。

この条例の制定を契機に、平成20年度から「議会による行政評価」がスタートするとともに、開かれた議会を実現するため「議会報告会」を毎年開催している。平成23年1月には、条例中の「議会の役割」について議会による検証が始まり、平成24年3月には、「議会改革・運営ビジョン」として取りまとめ、常設の機関として「議会改革推進会議」を設置するに至った。議会改革推進会議では、課題を整理し、平成25年3月に「議会改革・運営ビジョン実現に向けた取組み（まとめ）」として集約している。

その後、平成25年4月には議会報告会を含む広報広聴活動を充実させるため、「広報広聴委員会」を設置した。

平成30年12月、議会による予算決算審査のあり方についての研究を目的とした予算決算審査検討プロジェクトが発足した。以降、約半年間にわたるプロジェクト会議等を経て、令和元年5月の臨時会において、常任委員会として「予算決算委員会」を設置するとともに、「議会による行政評価」を予算決算委員会の所管とした。飯田市総合計画の「いいだ

未来デザイン2028」に掲げられた前年度の戦略計画を中心に基本目標ごとの評価及び検証を行い、令和元年9月に市長へ提言書を提出した。

令和2年度においては、基本目標及び戦略計画を評価対象とした政策的評価と、決算審査を政策へつなげる事務事業評価の2層式による議会行政評価の取り組みを行い、「いいだ未来デザイン2028」の中期計画の策定に向けて提言書を市長に提出した。

令和3年2月の第1回定例会から「議会機能の強化」を目的に、議会ICT化を推進するため、タブレット端末を活用した議案審議を開始した。

令和4年2月の第1回定例会では、市議会委員会等の会議におけるオンライン会議の実施への対応として、災害や感染症まん延防止の点から、委員会などの会議においてオンライン会議を実施するため、飯田市議会委員会条例や会議規則などの改正を行った。このことで、非常事態においても議会の機能が維持できる体制を整えることができた。

令和4年3月には、「地方議会成熟度評価モデル」の導入に向けて、大正大学の江藤俊昭教授を招き「キックオフ講演会」を開催。議会改革・運営ビジョンの策定から10年が経ち、社会環境が変化するなかで、これまでの制度・運用を再確認するとともに、議会の理想的な姿を明確にして議会改革を進める「地方議会成熟度評価モデル」に全議員で取り組み、飯田市議会に期待される役割（ミッション）や飯田市議会が実現すべき理想的な姿（ビジョン）などを明確にした「飯田市議会プロフィール」を作成した。

現在、議会が目指す理想的な姿を実現するため「新・議会改革運営ビジョン」の公表を目指し、ロードマップの作成に取り組んでいる。

また、令和5年10月には、地方自治法で常任委員会による主体的な活動として位置づけられている所管事務調査について、常任委員会が専門性と特性を生かし、その機能を十分発揮できるように「常任委員会における所管事務調査ガイドライン」を策定した。

令和6年度の議会による行政評価では、「いいだ未来デザイン2028中期計画」の最終年にあたることから、「後期計画策定」に向け、執行機関側から「中期計画の振り返り」とともに、「後期計画の素案（基本目標の枠組み）」について説明を受け、予算決算委員会各分科会及び必要に応じて連合会議による専門的な評価を行い、予算決算委員会全体会で最終とりまとめをして、市長へ提言書を提出した。

また、予算決算委員会準備会を政策会議へと発展的な組織変更を行った。

令和7年4月の市議会議員一般選挙が83年ぶりの無投票となったため、議会報告・意見交換会で市民の皆さんから寄せられた意見をもとに、議会の在り方に関し、あらためて議論し、議会の在るべき姿について一定の認識を共有するために「議会の在り方検討委員会」を設置した。

人形劇フェスタのイメージキャラクター「ぼお」です。太り気味の妖精でリンゴ並木に住んでいるそうです。



## 2 人口と世帯の推移

(単位：世帯・人・km<sup>2</sup>)

年 月	世帯数	人口	男	女	面積
昭和31. 9	14,627	69,235			199.78
昭和36. 3	16,018	69,538			206.07
昭和39. 3	19,179	79,541			293.03
昭和54. 4	20,870	77,860	36,794	41,066	〃
昭和59. 4	21,872	78,665	37,331	41,334	〃
昭和60. 4	26,458	92,132	43,776	48,356	299.23
昭和63. 4	26,709	92,050	43,810	48,240	〃
平成 1. 4	26,824	91,846	43,778	48,068	〃
平成 2. 4	27,033	91,806	43,721	48,085	298.90
平成 3. 4	27,277	91,723	43,739	47,984	〃
平成 4. 4	27,467	91,612	43,695	47,917	〃
平成 5. 4	27,732	91,684	43,819	47,865	〃
平成 6. 4	32,507	106,104	50,754	55,350	325.35
平成 7. 4	32,829	106,233	50,841	55,392	〃
平成 8. 4	33,183	106,472	50,991	55,481	〃
平成 9. 4	33,577	106,495	50,971	55,524	〃
平成10. 4	33,975	106,695	51,142	55,553	〃
平成11. 4	34,233	106,464	51,093	55,371	〃
平成12. 4	34,519	106,479	51,135	55,344	〃
平成13. 4	34,870	106,456	51,093	55,363	〃
平成14. 4	35,056	106,161	50,947	55,214	〃
平成15. 4	35,382	106,078	50,893	55,185	〃
平成16. 4	35,382	105,846	50,728	55,118	〃
平成17. 4	35,807	105,411	50,511	54,900	〃
平成18. 4	37,190	107,593	51,640	55,953	658.76
平成19. 4	37,395	106,993	51,253	55,740	〃
平成20. 4	37,787	106,770	51,138	55,632	〃
平成21. 4	37,682	105,867	50,693	55,174	〃
平成22. 4	37,801	105,372	50,407	54,965	658.73
平成23. 4	37,886	104,771	50,146	54,625	〃
平成24. 4	38,087	104,291	49,931	54,360	〃
平成25. 4	39,040	105,750	50,445	55,305	〃
平成26. 4	39,108	104,954	50,076	54,878	〃
平成27. 4	39,358	104,284	49,884	54,400	658.66
平成28. 4	39,656	103,712	49,623	54,089	〃
平成29. 4	39,711	103,023	49,343	53,680	〃
平成30. 4	39,735	102,012	48,859	53,153	〃
平成31. 4	39,896	101,111	48,630	52,481	〃
令和 2. 4	39,962	100,008	48,150	51,858	〃
令和 3. 4	40,064	98,921	47,709	51,212	〃
令和 4. 4	40,076	97,750	47,145	50,605	〃
令和 5. 4	40,151	96,557	46,679	49,878	〃
令和 6. 4	40,257	95,400	46,179	49,221	〃
令和 7. 4	40,345	94,193	45,613	48,580	〃
令和 8. 4	40,464	93,092	45,104	47,988	〃

※平成25.4以後は住民基本台帳法の改正により外国人を含む数字

### 特記事項

- ・昭和31年 9月 : 飯田市、座光寺村、松尾村、竜丘村、三穂村、伊賀良村、山本村及び下久堅村の1市7か村を合併
- ・昭和36年 3月 : 川路村を編入合併
- ・昭和39年 3月 : 上久堅村、千代村及び龍江村を編入合併
- ・昭和59年12月 : 鼎町を編入合併
- ・平成 5年 7月 : 上郷町を編入合併
- ・平成17年10月 : 上村及び南信濃村を編入合併

- ・平成22年 2月 : 天龍村との境界を修正
- ・平成26年10月 : 国土地理院が、計測方法を変更したことによる面積の修正

# 飯田市自治基本条例

平成18年9月21日条例第40号

一部改正：平成23年11月30日条例第25号

一部改正：平成25年3月25日条例第2号

一部改正：令和2年12月25日条例第39号

## 目次

### 前文

- 第1章 総則（第1条—第3条）
- 第2章 自治の基本原則（第4条—第7条）
- 第3章 市民等の役割（第8条—第10条）
- 第4章 地域自治（第11条—第15条）
- 第5章 市政運営（第16条—第21条）
- 第6章 市議会の役割（第22条—第27条）
- 第7章 市の執行機関の役割（第28条—第34条）
- 第8章 住民投票（第35条）
- 第9章 条例の見直し（第36条）

### 附則

わたくしたちの住む飯田市は、美しい自然に恵まれ、地域の風土に根付いた伝統や文化に支えられた人情豊かなまちとして知られ、伊那谷の中心都市として躍進しています。

わたくしたちは、これまで互いに助け合い協力し、特色のある地域活動やまちづくりを実践してきました。

わたくしたちは、分権型社会や少子高齢社会の到来により、社会構造が大きく変化する中で、まちづくりに進んで参加する「ムトス」の精神を、次の時代へ確実に引き継がなくてはなりません。

わたくしたちは、飯田市市民憲章にうたわれた市民としての心構えと理念を尊重し、協働して、市民が主体の住みよいまちづくりを推進するため、ここに、新たな自治の仕組みを定める飯田市自治基本条例を制定します。

## 第1章 総則

### （目的）

第1条 この条例は、本市の自治の基本的な原則及びまちづくりに関する市民、市議会及び市の執行機関の役割を明らかにするとともに、市政運営についての基本的な指針を定めることにより、市民が主体のまちづくりを協働して推進することを目的とします。

### （条例の位置付け）

第2条 この条例は、自治及び市政に関する基本的な原則を定めた最高規範であり、市民及び市は、この条例を誠実に遵守するものとします。

2 市は、条例、規則等を解釈し、又は制定、改廃する場合には、この条例の趣旨を尊重し、この条例に定める事項との整合性を図ります。

3 市は、基本構想等の計画の策定、政策の立案及び実施に当たっては、この条例の趣旨を尊重

し、この条例に定める事項との整合性を図ります。

(用語の定義)

第3条 この条例において使用する用語の意義は、次のとおりとします。

- (1) 市民 市内に住所を有する人(以下「住民」といいます。)、市内で働き、若しくは学ぶ人又は市内において活動する人若しくは団体をいいます。
- (2) 市民組織 市民により自主的に形成され、まちづくりのために、互いに協力し多様な活動を行う組織をいいます。
- (3) 事業者 市内で、事業を営む個人及び法人その他の団体をいいます。
- (4) 市 市議会及び市の執行機関で構成する地方公共団体をいいます。
- (5) 市の執行機関 市長、教育委員会、選挙管理委員会、監査委員、公平委員会、農業委員会及び固定資産評価審査委員会をいいます。
- (6) まちづくり 「ムトス」の言葉に象徴される、まちを活気のある明るく住みよくするための事業や活動を総称します。
- (7) 自治 市民が市政に参加し、その意思と責任に基づき市政が行われることのほか、地域の公共的活動を自ら担い、主体的にまちづくりを推進することをいいます。
- (8) 協働 まちづくりのために、市民と市とが情報を共有し、それぞれの役割を担いながら対等の立場で協力し、共に考え行動することをいいます。
- (9) 基本構想 本市における総合的かつ計画的な行政の運営を図るための基本となる考え方をいいます。

## 第2章 自治の基本原則

(自治の基本原則)

第4条 市民と市とは、この章に掲げる自治の原則に基づき、協働して自治を推進するものとします。

(市民主体の原則)

第5条 まちづくりは、市民一人ひとりが主体となり、市民相互及び市と協調することにより推進します。

2 市民は、地域社会の一員として尊重され、その個性や能力を十分発揮することができます。

(情報共有の原則)

第6条 まちづくりは、市政についての情報が市民に公開され、市民が市政について意見を提出し、その情報や意見を市民と市とが共有することにより推進します。

(参加協働の原則)

第7条 まちづくりは、市民に市政への多様な参加の場と機会とが保障され、市民と市とが適切に役割分担し、協働することにより推進します。

## 第3章 市民等の役割

(市民の権利)

第8条 市民は、まちづくりの主体として、まちづくりに参加する権利を有します。

2 市民は、市政に関する計画や政策の立案段階から参加する権利を有し、意見を述べる事が

できます。

- 3 市民は、市政についての情報を知る権利を有し、市に対し市が保有する情報の公開を求めることができます。

(市民の役割)

第9条 市民は、まちづくりの主体として、市と協働し、地域社会の発展に寄与するよう努めます。

- 2 市民は、互いの活動を尊重し、自らの発言と行動に責任を持つものとします。

(事業者の役割)

第10条 事業者は、地域社会の一員として、地域社会との調和を図るとともに、従業員の行う地域活動にも配慮し、まちづくりに寄与するものとします。

## 第4章 地域自治

(市民組織の尊重)

第11条 市は、市民組織の自主性及び自立性を尊重し、市民組織が活動するために必要な支援を行います。

- 2 市民は、市民組織がまちづくり推進の主要な担い手であることを認識し、市民組織を尊重し、守り育てるものとします。

(地域自治の推進)

第12条 市は、地域の特性と自主性が生かされた、個性豊かで魅力ある地域のまちづくりを推進するため、自治の基本原則に基づき、分権によるまちづくりの仕組みを目指します。

(地域自治区)

第13条 市は、市民に身近な事務事業を市民の意見を反映させて処理するとともに、地域の自治を促進するため、法律に基づく地域自治区を設けます。

- 2 地域自治区に置かれる地域協議会は、地域の住民により構成され、地域の意見を調整し、協働によるまちづくりを推進します。

(まちづくりのための委員会等)

第14条 市は、市民組織が地域のまちづくりに取り組むため組織する委員会等の自主的及び自立的な運営を尊重します。

(自治活動組織)

第15条 市民は、地域社会の一員として、自治活動組織（地域市民により形成され、まちづくりに取り組む市民組織をいいます。）の役割について理解を深め、協力するとともに、自治活動組織への加入に努めます。

- 2 市民は、可能な範囲内で、自治活動組織の活動に参加し、地域社会において個性や意欲を発揮することができるものとします。
- 3 自治活動組織は、地域市民の加入や参加が促進されるために必要な環境づくりに努めます。

## 第5章 市政運営

(協働して行う市政運営)

第16条 市は、市政に関する計画や政策の立案段階から市民の参加を促進し、市民と協働して市政運営を行います。

2 市は、市民の多様な参加の機会を整備し、協働のまちづくりを推進し、自治の拡充を図ります。

(市民意見の公募)

第17条 市は、別に定めるところにより、重要な計画及び政策の策定又は変更について事前に案を公表し、市民の意見を求めます。

2 市は、市民から提出された意見を尊重し、意見についての考え方を公表します。

(附属機関の委員の任命)

第18条 市の執行機関は、特定事項について審議又は調査等を行う附属機関に、市民の多様な意見が反映されるように委員を任命します。

(情報の公開)

第19条 市は、公正で開かれた市政の実現を図るため、市政についての情報の公開に関する総合的な施策に基づき、積極的に情報を公開します。

2 市は、市民の必要とする情報について、適切かつ速やかな提供に努めます。

(個人情報の保護)

第20条 市は、市民の個人情報に関する権利を保障するとともに、個人情報を適正に管理します。

(基本構想等)

第21条 市は、まちづくりの理念に基づき、市議会の議決を経て基本構想を定め、総合的かつ計画的な市政運営に努めます。

2 市は、基本構想、基本計画その他市の施策の基本となる計画を策定するに当たっては、市民参加の機会を保障します。

## 第6章 市議会の役割

(市議会の責務)

第22条 市議会は、市民の代表機関として、市という団体の意思決定機関であり、法律若しくはこれに基づく政令又は条例の定めるところにより議決の権限を行使し、市民の意思が的確に反映されるよう活動します。

2 市議会は、市の執行機関の活動を監視、評価することにより、適正な行政運営の確保に努めます。

3 市議会は、政策の立案、提言の内容の充実を図るための調査研究活動に努めます。

4 市議会は、合議体として論点、課題等について議論を深めるため、議員相互間の自由な討議を重んじて活動します。

(開かれた議会運営)

第 23 条 市議会は、市議会が保有する情報を公開するとともに、会議及び委員会等を公開し、並びに議会活動について市民に説明することにより、市民との情報の共有に努めます。

2 市議会は、市民の意見を聞くため議会活動への市民参加を推進し、市民に開かれた議会運営に努めます。

3 市議会は、市民への議会活動の報告、市民との意見交換の場の開催等を通じ、前 2 項に規定する事項の実現に努めます。

(市議会議長の責務)

第 24 条 市議会議長は、市議会を代表し、公正中立に職務を遂行するとともに、円滑かつ効率的な議会運営を図るよう努めます。

2 市議会議長は、市議会に関する事務を統一的に処理するため、議会事務局の職員を適切に指揮監督し、職員の能力の向上を図るよう努めます。

(市議会議員の責務)

第 25 条 市議会議員は、市民の意向把握や情報収集に努め、市民全体の利益を優先して政策提言を行います。

2 市議会議員は、政治倫理の確立に努め、公正かつ誠実に責務を遂行し、市民の負託にこたえます。

3 市議会議員は、市議会の役割及び責務を自覚し、その誠実な遂行のため自己研鑽に努めます。

(政策の調査、審議のための機関)

第 26 条 市議会は、政策の調査、立案のために必要な専門的事項に係る調査、審議を、学識経験を有する者等に求めることができます。

2 市議会は、前項の学識経験を有する者等の指定に当たっては、市民の多様な意見が反映されるようにします。

(市議会事務局職員の責務)

第 27 条 市議会事務局職員は、市議会の持つ権能が十分発揮されるよう、全力をあげて市議会の活動を補佐します。

2 市議会事務局職員は、職務の遂行に必要な知識と能力の向上に努めます。

## 第 7 章 市の執行機関の役割

(市長の責務)

第 28 条 市長は、市の代表者として公正かつ誠実に市政を運営します。

2 市長は、自治の基本原則に基づき、市の計画及び政策の策定、実施、評価等を行います。

(市の執行機関の責務)

第 29 条 市の執行機関は、条例、予算その他の議会の議決に基づく事務及び法令、規則その他の規程に基づく事務を適正に管理、執行します。

(市の執行機関の組織運営)

第 30 条 市の執行機関は、行政組織について効率的かつ機能的なものとするとともに、相互の連携を図り、最小の経費で最大の行政効果を上げるよう運営します。

2 市の執行機関は、職員を適切に指揮監督し、職員の能力の向上を図るよう努めます。

(説明責任)

第31条 市の執行機関は、行政運営の透明性を高めるため、市政について、市民に分かりやすく説明する責任を果たします。

2 市長その他の執行機関は、市議会に対して、市政に関する意思決定の過程及び行政運営の状況を随時報告するものとします。

(行政評価)

第32条 市の執行機関は、市の施策や事務事業の執行状況を、基本構想等に基づき検証し、継続的な見直しを行い、効果的に執行します。

2 市の執行機関は、施策や事務事業の達成状況を公表し、市民から理解を得られる行政運営を進めます。

(財政状況の公表)

第33条 市長は、市の財源の確保とその効率的かつ効果的な運用により、財政の健全性に努めます。

2 市長は、財政状況を市民にわかりやすく公表するように努めます。

(市の執行機関の職員の責務)

第34条 市の執行機関の職員は、全体の奉仕者として、公平、公正かつ誠実に、全力をあげて職務を遂行します。

2 市の執行機関の職員は、職務の遂行に必要な知識と能力の向上に努めます。

## 第8章 住民投票

(住民投票)

第35条 市は、市政の特に重要な事項について、直接住民の意思を確認する必要があるときは、市議会の議決を経て住民投票を実施することができます。

2 市は、住民投票の結果を尊重します。

3 住民投票の実施に関し必要な事項は、その都度条例で定めます。

## 第9章 条例の見直し

(条例の見直し)

第36条 市は、社会の変化に対応して、本条例が第1条の目的を達成するために必要があるときは、条例の見直しを行います。

附 則

この条例は、平成19年4月1日から施行します。

附 則 (平成23年11月30日条例第25号)

この条例は、公布の日から施行する。

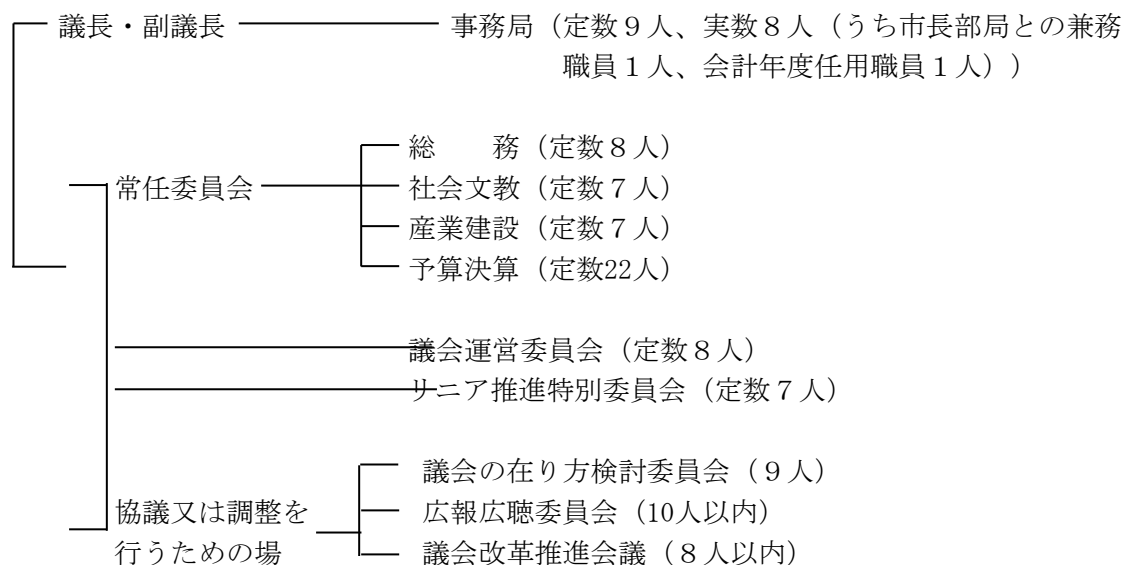
附 則 (平成25年3月25日条例第2号)

この条例は、公布の日から施行する。

附 則（令和 2 年 12 月 25 日条例第 39 号）  
この条例は、公布の日から施行する。

## II 市議会の構成（令和8年5月31日現在）

### 1 構成



#### (1) 常任委員会

##### ア 所管事項

- (ア) 総務委員会：総務部、企画部、市民協働環境部、危機管理部、会計管理者、選挙管理委員会、監査委員、公平委員会及び固定資産評価審査委員会の所管に属する事項並びに他の委員会の所管に属さない事項
- (イ) 社会文教委員会：福祉部、こども未来健康部及び教育委員会の所管に属する事項並びに病院事業に関する事項
- (ウ) 産業建設委員会：リニア推進部、産業経済部、建設部、上下水道局、水道局及び農業委員会の所管に属する事項
- (エ) 予算決算委員会：予算及び決算並びに基本構想に関する事項

イ 任期 2年

#### (2) 議会運営委員会

##### ア 所管事項

- (ア) 議会の運営に関する事項
- (イ) 議会の会議規則、委員会条例等に関する事項
- (ウ) 議長の諮問に関する事項

イ 任期 2年

#### (3) リニア推進特別委員会

##### ア 所管事項

リニア推進ロードマップの取組を確認し、リニア駅前広場整備の進捗状況、整備後の活用方法の検討状況及びリニア本線工事等による市民生活への影響について継続的な調査に関する事項

イ 任期 2年

#### (4) 議会の在り方検討委員会（協議又は調整を行うための場）（令和7年12月19日設置）

##### ア 所管事項

- (ア) 議会の在り方に関し、あらためて議論し、議会の在るべき姿について一定の認識を共有する。
  - (イ) 前(ア)の議論を通して、適正な議員定数の在り方について一定の方向性を確認し、合わせて議会・議員に関する条例等の制定に関する方向性を確認する。
- イ 任期 令和7年第4回定例会から令和9年第1回定例会（令和8年度末）まで

(5) 広報広聴委員会（協議又は調整を行うための場）

ア 所管事項

- (ア) 議会広報紙の編集及び発行に関する事項
- (イ) 議会ホームページの管理運営に関する事項
- (ウ) テレビジョン放送及びインターネットを活用した会議公開に関する事項
- (エ) 会議傍聴の推進に関する事項
- (オ) 市民への講座等の開催に関する事項
- (カ) 市民への議会活動の報告、市民との意見交換の場の企画運営その他市民からの意見の取扱いに関する事項
- (キ) その他議会の広報に関する事項

イ 任期 2年

(6) 議会改革推進会議（協議又は調整を行うための場）

ア 所管事項

- (ア) 飯田市議会の改革に関する調査研究
- (イ) 議会改革・運営ビジョン（平成24年3月22日決定）の実践状況の検証
- (ウ) 議長又は議会運営委員会から諮問された事項に関する調査審議
- (エ) その他推進会議の設置の目的のために必要な事項

イ 任期 2年

(7) 議員

ア 任期 令和7年4月28日から令和11年4月27日まで

イ 条例定数 23人

ウ 現員数 23人

(ア) 党派別

公明党 3人 日本共産党 2人 日本維新の会 1人 参政党 1人  
無所属 16人

(イ) 会派別

会派きぼう 10人 新政いいだ 7人 公明党 3人 日本共産党 2人  
無会派 1人

## 2 議員名簿

番号	氏名	会派	期数	郵便番号	住所	電話
1	大平 雲龍	会派きぼう	1	395-0024	飯田市東栄町(事務所)	080-5108-0040
2	水月 レイ	会派きぼう	1	395-0004	飯田市上郷黒田	090-9665-6126
3	森本 紘司	新政いいだ	1	395-0043	飯田市通り町	0265-22-0833
4	正木 利幸	新政いいだ	1	395-0001	飯田市座光寺	0265-24-5766
5	岡本 恒和	新政いいだ	1	395-0061	飯田市正永町	0265-53-8767
6	岡村 弘子	公明党	1	399-2565	飯田市桐林	0265-26-8231
7	野崎 直仁	—	1	395-0157	飯田市大瀬木	0265-49-0257
8	遠山 雄	会派きぼう	1	395-0157	飯田市大瀬木	070-4080-4217
9	片町 元彦	会派きぼう	1	399-1311	飯田市南信濃和田	0260-31-0552
10	松岡 秀治	会派きぼう	1	395-0151	飯田市北方	0265-25-7341
11	長谷部春生	会派きぼう	2	395-0825	飯田市松尾城	0265-28-8100
12	佐々木博子	新政いいだ	2	395-0806	飯田市鼎上山	0265-52-2260
13	小平 彰	新政いいだ	2	395-0803	飯田市鼎下山	0265-22-1256
14	宮脇 邦彦	公明党	2	395-0152	飯田市育良町	0265-53-4465
15	市瀬 芳明	日本共産党	2	399-2565	飯田市桐林	0265-26-6324
16	関島 百合	会派きぼう	2	395-0813	飯田市毛賀	0265-23-7479
17	福澤 克憲	会派きぼう	3	395-0025	飯田市東中央通	0265-53-1285
18	竹村 圭史	会派きぼう	4	395-0244	飯田市山本	0265-25-2247
19	清水 勇	会派きぼう	6	399-2221	飯田市龍江	0265-27-2569
20	下平 恒男	新政いいだ	2	399-2561	飯田市駄科	0265-26-8045
21	清水優一郎	新政いいだ	3	399-2223	飯田市千栄	0265-27-4858
22	小林 真一	公明党	3	399-2601	飯田市虎岩	0265-29-8167
23	古川 仁	日本共産党	4	395-0803	飯田市鼎下山	0265-53-3792

### 年齢別議員数

(令和8年5月31日現在)

年齢	25～29歳	30～39歳	40～49歳	50～59歳	60～69歳	70歳以上	計
人員	0	3	5	7	7	1	23

### 当選回数別議員数

(令和8年5月31日現在)

当選回数	1回	2回	3回	4回	5回	6回	7回	計
人員	10	7	3	2	0	1	0	23

3 正副議長及び各委員会委員名簿

(1) 議長及び副議長

(令和7年5月12日改選)

議 長	竹村 圭史	副 議 長	清水 優一郎
-----	-------	-------	--------

(2) 委員会・協議又は調整を行うための場

(令和7年5月13日改選)

◎印……委員長 ○印……副委員長

委 員 会 名	委 員			
総務委員会 (8人)	◎福澤 克憲 片町 元彦	○市瀬 芳明 佐々木博子	岡本 恒和 関島 百合	岡村 弘子 清水優一郎
社会文教委員会 (7人)	◎下平 恒男 松岡 秀治	○宮脇 邦彦 長谷部春生	水月 レイ 古川 仁	森本 紘司
産業建設委員会 (7人)	◎小林 真一 野崎 直仁	○小平 彰 遠山 雄	大平 雲龍 清水 勇	正木 利幸
予算決算委員会 (22人)	◎清水優一郎	○小林 真一	ほか議長を除く全議員	
議会運営委員会 (8人)	◎佐々木博子 福澤 克憲	○長谷部春生 清水 勇	小平 彰 下平 恒男	宮脇 邦彦 小林 真一
リニア推進特別委員会 (7人)	◎小平 彰 野崎 直仁	○小林 真一 遠山 雄	大平 雲龍 清水 勇	正木 利幸
議会の在り方検討委員会 (9人)	◎佐々木博子 宮脇 邦彦 小林 真一	○長谷部春生 市瀬 芳明	森本 紘司 福澤 克憲	小平 彰 清水 勇
広報広聴委員会 (9人)	◎関島 百合 岡本 恒和 市瀬 芳明	○長谷部春生 岡村 弘子	水月 レイ 野崎 直仁	森本 紘司 松岡 秀治
議会改革推進会議 (8人)	◎古川 仁 岡村 弘子	○佐々木博子 片町 元彦	大平 雲龍 長谷部春生	正木 利幸 関島 百合

4 監査委員及び南信州広域連合議会議員名簿

(1) 監査委員 (選任に同意)

(令和7年5月13日選任)

推 薦 基 準	氏 名
議員から1人を推薦 市長が議会の同意を得る。	清水 勇

## (2) 南信州広域連合議会議員

(令和7年5月13日選任)

推薦基準	任期	氏名
議員から12人 正副議長(2) 3常任委員長(3) 会派按分(7)	4年(議員の任期) (2年で改選)	竹村 圭史 清水 優一郎 福澤 克憲 下平 恒男 小林 真一 佐々木 博子 小平 彰 宮脇 邦彦 市瀬 芳明 関島 百合 清水 勇 古川 仁

3常任…総務、社会文教、産業建設

## 5 議会選出の各種委員等

## (1) 附属機関等の委員名簿

(令和7年5月13日選任)

名称	推薦基準	任期	氏名
民生委員推薦会 (2人)	社文正副委員長	在職期間	下平 恒男 宮脇 邦彦
都市計画審議会 (5人以内)	総務委員長 社会文教委員長 産業建設委員長 産業建設副委員長 リニア推進特別委員長	在職期間	福澤 克憲 下平 恒男 小林 真一 小平 彰
国民保護協議会 (3人)	3常任委員長	在職期間	福澤 克憲 下平 恒男 小林 真一
防災会議 (3人)	3常任委員長	在職期間	福澤 克憲 下平 恒男 小林 真一
土地利用計画審議会	都市計画審議会 委員	在職期間	福澤 克憲 下平 恒男 小林 真一 小平 彰

3常任…総務、社会文教、産業建設

## (2) その他の団体の役員

(令和7年5月13日選任)

名称	推薦基準	任期	氏名
天竜川上流治水促進 期成同盟会	議長	在職期間	【理事】竹村 圭史
一般国道151号(飯田～豊 橋)改良促進期成同盟会	議長	在職期間	【理事】竹村 圭史
一般国道153号改良期成 同盟会	議長	在職期間	【理事】竹村 圭史
国道153号飯田南バイパス 整備促進期成同盟会	議長	在職期間	【理事】竹村 圭史
長野県南部国道連絡会	議長	在職期間	【会員】竹村 圭史
JR飯田線活性化期成同 盟会	議長 (南信州広域連合議長)	在職期間	【副会長】竹村 圭史

リニア中央新幹線建設 促進飯伊地区期成同盟会 (7人)	正副議長 監査委員 3 常任・リニア 推進特別委員長	在職期間	【副会長】竹村 圭史 【監事】清水 勇 【理事】清水優一郎 下平 恒男 福澤 克憲 小平 彰 小林 真一
国道152号整備促進 期成同盟会 (2人)	議長 産建委員長	在職期間	【理事】竹村 圭史 小林 真一
国道256号改良促進 期成同盟会 (3人)	正副議長 産建委員長	在職期間	【理事】竹村 圭史 清水優一郎 小林 真一
国道418号整備促進 期成同盟会 (4人)	正副議長 産建正副委員長	在職期間	【理事】竹村 圭史 清水優一郎 小林 真一 小平 彰
三遠南信自動車道飯喬道 路3工区建設促進期成同 盟会 (5人)	正副議長 産建正副委員長 地区出身議員 下久堅・千代・龍江	在職期間 在任期間	【顧問】竹村 圭史 清水優一郎 小林 真一 小平 彰 【地区】清水 勇
三遠南信道路建設促進 南信地域期成同盟会 (3人)	正副議長 監査委員	在職期間	【副会長】竹村 圭史 【理事】清水優一郎 【監事】清水 勇
主要地方道飯島飯田線 改良促進期成同盟会 (14人)	正副議長 産建正副委員長 地区出身議員 橋北・橋南・羽場・ 丸山・東野・座光寺・ 伊賀良・鼎・上郷	在職期間 在任期間	【監事】竹村 圭史 【理事】清水優一郎 小林 真一 小平 彰 【地区】水月 レイ 森本 紘司 正木 利幸 岡本 恒和 野崎 直仁 松岡 秀治 佐々木 博子 宮脇 邦彦 福澤 克憲 古川 仁
主要地方道飯田南木曾線 改良促進期成同盟会 (7人)	正副議長 産建正副委員長 地区出身議員 橋北・橋南・羽場・ 丸山・東野	在職期間 在任期間	【理事】竹村 圭史 【監事】清水優一郎 【理事】小林 真一 小平 彰 【地区】福澤 克憲 森本 紘司 岡本 恒和
飯田市遠山郷国道整備促 進期成同盟会 (1人)	地区出身議員 上村・南信濃	在任期間	【顧問】片町 元彦
市内国道256号・竜峡五地 区県道改良促進期成同盟 会 (9人)	地区出身議員 松尾・下久堅・上 久堅・千代・龍江 ・竜丘	在任期間	【顧問】大平 雲龍 岡村 弘子 長谷部 春生 市瀬 芳明 関島 百合 清水 勇 下平 恒男 清水優一郎 小林 真一
県道親田中村線・県道田中 乱線改良促進期成同盟会 (5人)	地区出身議員 川路・三穂・山本 ・伊賀良	在任期間	【顧問】野崎 直仁 松岡 秀治 宮脇 邦彦 福澤 克憲 竹村 圭史
南信州東部軸道路整備 促進期成同盟会	議長	在職期間	【理事】竹村 圭史
松尾浄化管理センター 連絡協議会	正副議長 産建委員長 地区出身議員 松尾	在職期間	【委員】竹村 圭史 清水優一郎 小林 真一 【地区】大平 雲龍 長谷部春生 関島 百合

3 常任・・・総務、社会文教、産業建設

## (3) 議員による任意の団体

名 称	基準	任期	氏 名
森林・林業・林産業活性化 促進議員連盟 (林業活性化推進飯田市 議員連盟)	各会派1 ※5名以上の会 派は2	2年	【会 長】 古川 仁 【副会長】 松岡 秀治 【幹 事】 森本 紘司 岡本 恒和 岡村 弘子 遠山 雄 【監 事】 清水 勇 【会 員】 議員有志
飯伊地区森林・林業・林 産業活性化促進議員連盟	※R7・8年は飯 田市議会から 副会長及び監 事を選出	2年	【副会長】 【監 事】 【会 員】 議員有志
スポーツ振興議員連盟	各会派1 ※5名以上の会 派は2	2年	【会 長】 小平 彰 【副会長】 長谷部春生 【幹事長】 市瀬 芳明 【事務局長】 正木 利幸 【幹 事】 片町 元彦 岡村 弘子 【会計監査】 清水 勇 【会 員】 賛同議員
三遠南信、浜松湖西・豊橋 道路建設促進議員協議会	賛同議員	在任期間	【会 員】 賛同議員

## 6 各会派及び各会派の代表者氏名

会 派 名	代表者名	議員数	会 派 名	代表者名	議員数
会 派 き ぼ う	清水 勇	10	新 政 い い だ	下平 恒男	7
公 明 党	小林 真一	3	日 本 共 産 党	古川 仁	2
無 会 派	野崎 直仁	1			

### Ⅲ 市議会の活動

#### 1 市議会の活動状況

##### (1) 市議会招集回数10か年比較表

区 分		年 次									
		平成 28	平成 29	平成 30	令和 元 2	令和 3	令和 4	令和 5	令和 6	令和 7	
招集回数	定例会	4	4	4	4	4	4	4	4	4	4
	臨時会	0	1	0	1	2	4	2	1	2	1
会期日数		98	100	99	97	108	106	102	111	118	100
本会議日数		17	19	17	19	18	23	19	19	18	19
議案件数		172	173	194	198	176	173	153	164	200	198

##### (2) 議会開会状況（令和7年1月から令和7年12月まで）

	会 議	会 期	会期日数	本会議日数
1	第1回定例会	令和7年 2月27日 ～ 3月21日	23	4
2	第1回臨時会	令和7年 5月12日 ～ 5月13日	2	2
3	第2回定例会	令和7年 6月 5日 ～ 6月27日	23	4
4	第3回定例会	令和7年 9月 2日 ～ 9月29日	28	4
6	第4回定例会	令和7年11月26日 ～ 12月19日	24	5
計			100	19

## (3) 議会審議状況（令和7年1月から令和7年12月まで）

区分		会別	第1回 定例会	第1回 臨時会	第2回 定例会	第3回 定例会	第4回 定例会	計
市長 提出議案	予算・決算		19		3	20	17	40
	条例		21		3	12	12	27
	その他		22	11	4	15	12	42
	計(A)		62	11	10	47	41	109
議員又は 委員会 提出議案	条例		3					0
	その他		1		1	1		2
	計(B)		4	0	1	1	0	2
報告	専決処分		1	2		1		3
	その他				12	1	2	15
	計(C)		1	2	12	2	2	18
審議件数(A+B+C)			67	13	23	50	43	129
議決状況	原案可決（同意・ 認定・承認を含む）		66	11	11	48	43	113
	報告（議決を要し ないもの）		1	2	12	2	2	18
	修正可決							0
	否決							0
	継続審査							0
	審議未了							0

## 2 報酬その他

### (1) 報酬

(令和8年4月1日時点)

役 職	報酬月額	役 職	給料月額
議 長	499,000 円	市 長	925,000 円
副議長	436,000 円	副市長	760,000 円
議 員	407,000 円	教育長	669,000 円
改定日	平成 11 年 4 月 1 日	改定日	平成 27 年 12 月 24 日

### 報酬額の改定推移

(単位：千円)

種 別	改定年月日									
	S61 4.1	S62 4.1	S63 4.1	H 1 4.1	H 3 4.1	H 4 4.1	H 5 4.1	H 7 10.1	H 9 7.1	H11 4.1
議 長	331	339	352	369	413	437	469	485	494	499
副 議 長	278	285	296	310	352	372	410	424	432	436
議 員	259	266	277	290	325	343	383	396	403	407

### (2) 期末手当

6 月期支給額 報酬×1.45×175/100

12 月期支給額 報酬×1.45×175/100

### (3) 費用弁償

(6)の表の規定に基づき往復の交通費のみ支給する。

### (4) 研修旅費

議 員 1 人 当 た り 年 額	
常 任 委 員 会	実 費
議 会 運 営 委 員 会	実 費
特 別 委 員 会	実 費
広 報 広 聴 委 員 会	実 費
議 会 改 革 推 進 会 議	実 費

### (5) 政務活動費

議員 1 人当り年額140,000円

## (6) 飯田市議員等の旅費額

(令和8年4月1日改正)

区分	その他の交通費		宿泊費基準額（1夜につき）
	交通機関のある場合	移動に要する費用が算定できない場合（1kmにつき）	
市議会正副議長及び議員、教育委員会委員、選挙管理委員会委員、公平委員会委員、監査委員、農業委員会委員、農地利用最適化推進委員、固定資産評価審査委員会委員、選挙長及び固定審査評価員	実費	37円	国家公務員等の旅費支給規程（昭和25年大蔵省令第45号。以下「省令」という。）別表第2に規定する指定職職員等に係る宿泊費基準額の額

## 3 定期刊行物

## (1) 飯田市議会だより

ア 創刊 昭和46年4月1日

イ 発行回数 年4回（4月、7月、10月及び1月（定例会終了の翌月））。

ウ 発行部数 各31,000部

エ 印刷 オフセット印刷（A4版 1回平均12ページ）160号から表紙、裏表紙のみカラー刷り

## (2) 飯田市議会要覧

ア 発行回数 年1回（例年6月発行）

イ 発行部数 50部

## 4 市議会会議録

## (1) 各定例会及び臨時会の会議録

ア 発行回数 年4回（次回定例会の招集日までに発行）

イ 発行部数 各34部

ウ 印刷 オフセット印刷（A4版）

## (2) 全員協議会、常任委員会及び特別委員会の会議録

発行部数 1部

## (3) 会議録検索システム

ア 平成4年第2回定例会以降の本会議、全員協議会、各委員会のデータが検索可能

イ 平成15年11月から、インターネットによる会議録検索に対応

## 5 議会事務局の事務分掌

### (1) 庶務係

- ア 公印の管理に関する事。
- イ 文書の收受、発送及び保存に関する事。
- ウ 予算及びその経理に関する事。
- エ 議員の身分、人事、福利厚生、共済等に関する事。
- オ 議員の報酬、費用弁償等に関する事。
- カ 議長会等に関する事。
- キ 儀式及び交際に関する事。
- ク 議会関係各室の管理に関する事。
- ケ 職員の人事、服務、給与等に関する事。
- コ 議決証明等に関する事。
- サ 物品の出納保管に関する事。
- シ 議会乗用車の管理に関する事。
- ス 他の係の所管に属さない事項に関する事。

### (2) 議事係

- ア 本会議に関する事。
- イ 常任委員会、特別委員会、協議会等に関する事。
- ウ 議会において行う選挙等に関する事。
- エ 公聴会、参考人等に関する事。
- オ 議案その他付議事件に関する事。
- カ 議員の出欠席に関する事。
- キ 議事日程及び諸報告に関する事。
- ク 請願及び陳情に関する事。
- ケ 会議録その他の会議記録の調製及び保管に関する事。
- コ 議会の傍聴に関する事。
- サ その他議事に関する事。

### (3) 調査係

- ア 議会、委員会等から命じられた事項の調査に関する事。
- イ 市政の調査及び研究に関する事。
- ウ 各種資料の収集、整理及び発行に関する事。
- エ 議員の研修に関する事。
- オ 条例、規則等の制定及び改廃に関する事。
- カ 法令等の調査研究に関する事。
- キ 議会広報に関する事。
- ク 照会事項の回答に関する事。
- ケ 議会図書室に関する事。
- コ 視察に関する事。

令和8(2026)年度 飯田市各会計予算の総額

単位:千円、%

会計名		予算額		増減		主な内容
		8年度(A)	7年度(B)	(A)-(B) (C)	(C)/(B)	
一	一般会計	55,640,000	56,070,000	△ 430,000	△ 0.8	
国民健康保険特別会計	事業勘定	8,212,600	8,176,300	36,300	0.4	保険給付費 5,816,890 事業費納付金 2,101,886 総務費 166,620 保健事業費 84,309
	直診勘定	44,900	39,900	5,000	12.5	南信濃診療所 三穂診療所 上村歯科診療所
後期高齢者医療特別会計		1,977,200	1,806,000	171,200	9.5	後期高齢者医療広域連合納付金 1,937,094
介護保険特別会計		11,957,900	11,790,400	167,500	1.4	保険給付費 11,268,302 地域支援事業費 343,624
地方卸売市場事業特別会計		19,800	17,200	2,600	15.1	卸売市場費 18,618
駐車場事業特別会計		53,500	53,800	△ 300	△ 0.6	市営駐車場運営管理 52,489
墓地事業特別会計		20,300	36,300	△ 16,000	△ 44.1	霊園運営管理 17,649
介護老人保健施設事業特別会計		873,800	831,500	42,300	5.1	施設管理費 787,721 施設事業費 84,791
ケーブルテレビ放送事業特別会計		—	113,000	△ 113,000	皆減	特別会計廃止
病院事業会計		19,397,700	17,548,100	1,849,600	10.5	収益の収入 15,917,000 収益の支出 16,672,800 資本の収入 2,009,400 資本の支出 2,724,900
水道事業会計		4,866,900	4,637,700	229,200	4.9	収益の収入 2,367,300 収益の支出 2,220,600 資本の収入 1,574,900 資本の支出 2,646,300
下水道事業会計		6,042,400	5,941,900	100,500	1.7	収益の収入 3,442,300 収益の支出 3,318,800 資本の収入 1,664,800 資本の支出 2,723,600
特別会計の計		53,467,000	50,992,100	2,474,900	4.9	
合計		109,107,000	107,062,100	2,044,900	1.9	

令和8(2026)年度 一般会計 歳入

単位:千円、%

区 分	予 算 額		(A)の 構成比	増 減		増減(A)-(B)の主な内容
	8年度(A)	7年度(B)		(A)-(B) (C)	(C)/(B)	
1 市 税	14,168,100	13,752,500	25.5	415,600	3.0	市民税 373,000 固定資産税 75,000 市たばこ税 △21,000 軽自動車税 △22,400
2 地方譲与税	532,000	545,000	1.0	△ 13,000	△ 2.4	自動車重量譲与税 9,000 森林環境譲与税 △4,000 地方揮発油譲与税 △18,000
3 利子割交付金	14,500	8,000	0.0	6,500	81.3	
4 配当割交付金	77,000	76,000	0.1	1,000	1.3	
5 株式等譲渡所得割交付金	80,000	80,000	0.1	0	0.0	
6 法人事業税交付金	259,000	256,000	0.5	3,000	1.2	
7 地方消費税交付金	3,160,000	2,860,000	5.7	300,000	10.5	※消費税率10%に引上げによる増収分1,723,636千円 は全額を社会保障施策に充当 (充当内訳:社会福祉 1,431,450千円 社会保険 281,545千円 保健衛生 10,641千円)
8 自動車税環境性能割交付金	—	51,000	0.0	△ 51,000	皆減	廃止
9 地方特例交付金	300,000	128,000	0.5	172,000	134.4	住宅借入金等特別税額控除減収補てん 特例交付金 77,000 自動車税減収補填特例交付金 51,000 軽自動車税減収補填特例交付金 35,000
10 地方交付税	12,500,000	12,100,000	22.5	400,000	3.3	普通交付税 100,000 特別交付税 300,000
11 交通安全対策特別交付金	11,000	11,000	0.0	0	0.0	
12 分担金及び負担金	180,884	252,979	0.3	△ 72,095	△ 28.5	分担金 △196 負担金 △71,899
13 使用料及び手数料	542,617	540,631	1.0	1,986	0.4	使用料 173 手数料 △6,071 証紙収入 7,884
14 国庫支出金	8,401,555	9,555,335	15.1	△ 1,153,780	△ 12.1	国庫補助金 △1,122,178 国庫負担金 △32,570 委託金 968
15 県支出金	3,895,605	3,684,758	7.0	210,847	5.7	県補助金 180,746 県負担金 58,085 委託金 △27,984
16 財産収入	254,202	236,171	0.5	18,031	7.6	財産運用収入 38,654 財産売却収入 △20,623
17 寄附金	722,000	556,000	1.3	166,000	29.9	総務費寄附金 170,000 商工費寄附金 △1,000 教育費寄附金 △3,000
18 繰入金	2,325,117	2,288,072	4.2	37,045	1.6	基金繰入金 47,808 特別会計繰入金 921 財産区繰入金 △11,684
19 繰越金	500,000	500,000	0.9	0	0.0	
20 諸収入	3,138,620	2,851,954	5.6	286,666	10.1	雑入 268,780 受託事業収入 14,854 貸付金元利収入 2,582 市預金利子 450
21 市債	4,577,800	5,736,600	8.2	△ 1,158,800	△ 20.2	民生債 172,300 商工債 △311,800 総務債 △318,300 土木債 △375,900
合 計	55,640,000	56,070,000	100.0	△ 430,000	△ 0.8	

令和8(2026)年度 一般会計 目的別歳出

単位:千円、%

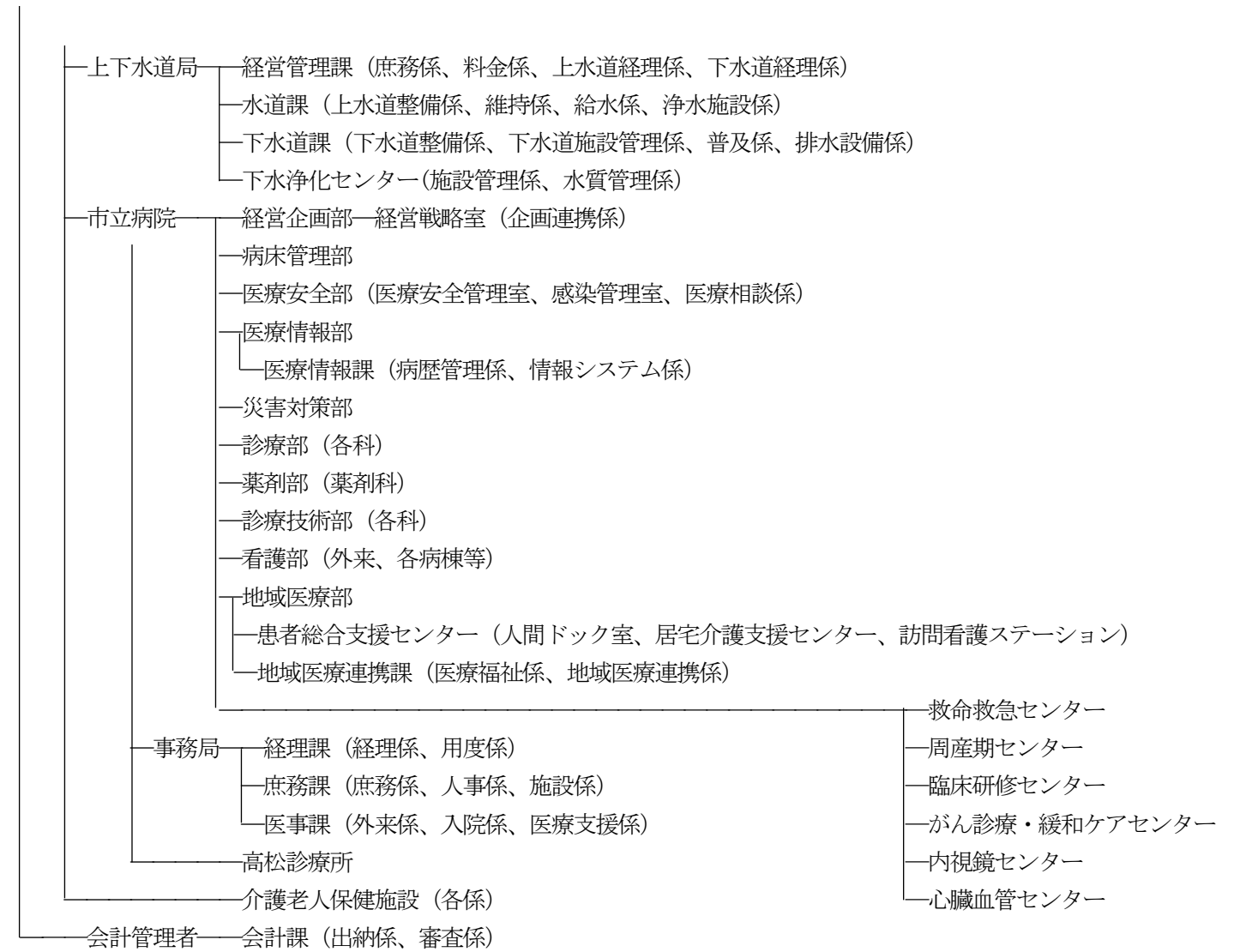
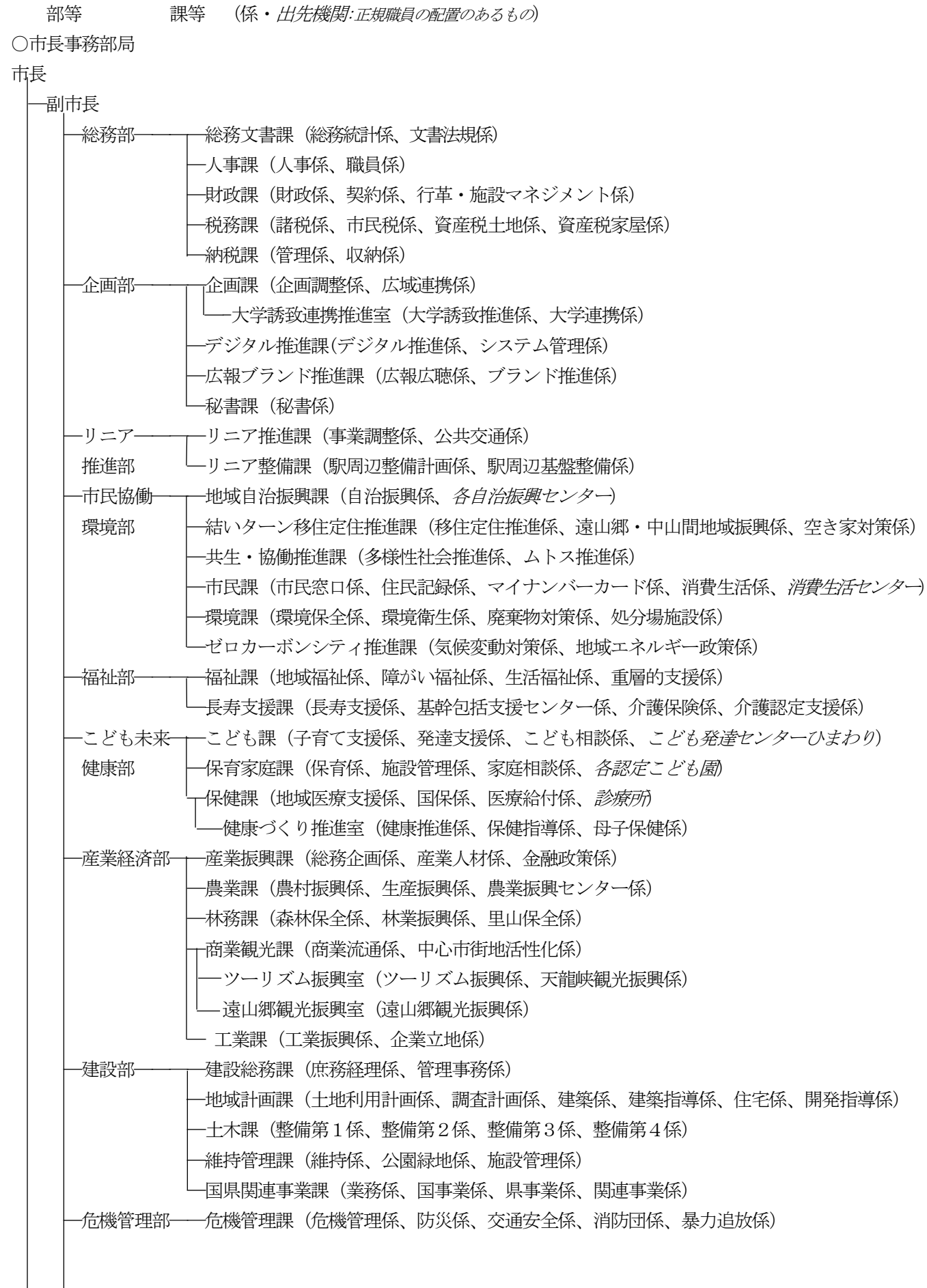
区 分	予 算 額		(A)の 構成比	増 減		増減(A)-(B)の主な内容
	8年度(A)	7年度(B)		(A)-(B) (C)	(C)/(B)	
1 議 会 費	270,920	275,228	0.5	△ 4,308	△ 1.6	会計年度任用職員人件費 206 議会一般経費 △276 議員人件費 △1,690 事務局職員人件費 △2,548
2 総 務 費	6,672,083	7,859,224	12.0	△ 1,187,141	△ 15.1	人件費 398,565 ふるさと飯田応援隊募集事業費 77,083 住民情報システム管理費 △197,677 リニア駅周辺整備事業費 △525,310 調整給付金給付事業費 △549,173
3 民 生 費	18,822,048	18,288,278	33.8	533,770	2.9	民間保育所等運営費 205,775 南信濃福祉の里運営事業費 175,430 公立認定こども園施設整備事業費 100,684 児童センター・児童クラブ運営費 △82,991 上村デイサービスセンター運営事業費 △156,508
4 衛 生 費	6,213,198	5,640,121	11.2	573,077	10.2	病院事業会計負担金 288,550 脱炭素先行地域づくり事業費 142,188 救急告示医療機関支援事業費 135,140 人件費 △39,675 エネルギーコスト削減促進事業費 △68,300
5 労 働 費	209,059	222,792	0.4	△ 13,733	△ 6.2	会計年度任用職員人件費 273 労働諸費 75 雇用対策事業費 △2,019 勤労者福祉センター管理費 △4,817 人件費 △7,100
6 農 林 水 産 業 費	1,745,431	1,703,443	3.1	41,988	2.5	市田柿振興事業費 78,165 森林公園一般経費 61,771 森林資源活用推進事業費 44,386 林道改良事業費(補助) △77,853 林道開設事業費 △110,000
7 商 工 費	3,717,011	3,478,687	6.7	238,324	6.9	産業用地整備事業費 463,253 産業団地管理事業費 83,844 工業振興事業費 82,490 地域産業等振興事業費 △65,846 道の駅遠山郷施設整備事業費 △475,123
8 土 木 費	5,802,679	6,037,334	10.4	△ 234,655	△ 3.9	地方創生道整備推進交付金事業費 120,700 社会資本整備総合交付金事業費 (道路整備) 84,900 道路自然災害防止事業費 △157,500 河川自然災害防止事業費 △285,800
9 消 防 費	1,390,767	1,384,203	2.5	6,564	0.5	南信州広域連合負担金(消防) 24,403 消防団詰所整備事業費 22,324 住宅倒壊防止対策事業費 6,185 水防費 △17,993 消防体制強化整備事業費(単独) △19,544
10 教 育 費	6,100,091	6,359,637	11.0	△ 259,546	△ 4.1	文化会館施設整備事業費 326,211 学校給食一般経費 283,257 社会体育学校開放施設整備費 △133,063 体育施設改修費 △169,530 小学校施設長寿命化改修事業費 △813,100
11 災 害 復 旧 費	13,000	265,000	0.0	△ 252,000	△ 95.1	土木施設災害関連事業費 △100,000 土木施設補助災害復旧事業費 △152,000
12 公 債 費	4,562,950	4,473,788	8.2	89,162	2.0	利子 90,892 元金 △1,730
13 諸 支 出 金	80,763	42,265	0.1	38,498	91.1	地域振興基金積立金 11,961 中山間地域振興基金積立金 9,901 公共施設等整備基金積立金 7,137 減債基金積立金 3,432 ふるさと基金積立金 2,584
14 予 備 費	40,000	40,000	0.1	0	0.0	
合 計	55,640,000	56,070,000	100.0	△ 430,000	△ 0.8	

令和8(2026)年度 一般会計 性質別歳出

単位:千円、%

区 分	予 算 額		(A)の 構成比	増 減		増減(A)-(B)の主な内容
	8年度(A)	7年度(B)		(A)-(B) (C)	(C)/(B)	
1 人 件 費	9,506,950	8,867,475	17.0	639,475	7.2	職員給与 439,127 会計年度任用職員人件費 174,457 保健施設人件費 67,013 認定こども園人件費 23,825 臨時統計調査費 △32,003
2 扶 助 費	10,561,641	10,343,081	19.0	218,560	2.1	民間保育所等運営費 205,604 総合支援訓練等給付事業費 25,263 総合支援介護給付事業費 24,948 児童手当費 △29,065 要保護・準要保護児童援助費 △34,493
3 公 債 費	4,562,950	4,473,788	8.2	89,162	2.0	利子 90,892 元金 △1,730
4 物 件 費	6,615,178	6,491,240	11.9	123,938	1.9	情報通信技術活用教育推進事業費 171,483 妊婦健診事業費 76,600 森林資源活用推進事業費 44,863 戸籍住民基本台帳事務費 △49,990 住民情報システム管理費 △191,622
5 維 持 補 修 費	835,617	845,944	1.5	△ 10,327	△ 1.2	道路メンテナンス事業費 30,000 林道管理事業費 24,246 道路補修事業費 10,547 道路維持管理事業費 △4,331 橋りょう補修事業費 △71,573
6 補 助 費 等	8,880,528	9,194,941	16.0	△ 314,413	△ 3.4	学校給食一般経費 283,170 脱炭素先行地域づくり事業費 142,944 救急告示医療機関支援事業費 135,140 都市構造再編集中支援事業費(市街地整備) △181,531 調整給付金給付事業費 △500,000
7 積 立 金	85,712	46,197	0.1	39,515	85.5	地域振興基金積立金 11,961 中山間地域振興基金積立金 9,901 公共施設等整備基金積立金 7,137 減債基金積立金 3,432 ふるさと基金積立金 2,584
8 投 資 ・ 出 資 金	574,541	354,547	1.0	219,994	62.0	病院事業会計負担金 209,600 水道費 10,394
9 貸 付 金	1,535,750	1,531,404	2.8	4,346	0.3	奨学金貸与事業費 4,560 福祉医療費貸付金事業費 △214
10 繰 出 金	4,226,118	4,189,743	7.6	36,375	0.9	後期高齢者医療関係一般経費 37,796 後期高齢者医療特別会計繰出金 33,897 介護老人保健施設事業特別会計繰出金 32,259 介護保険特別会計繰出金 30,093 ケーブルテレビ放送事業特別会計繰出金 △86,658
11 投 資 的 経 費	8,215,015	9,691,640	14.8	△ 1,476,625	△ 15.2	
普通建設費	8,202,015	9,526,640	14.8	△ 1,324,625	△ 13.9	
補 助	3,375,505	4,827,256	6.1	△ 1,451,751	△ 30.1	社会資本整備総合交付金事業費(道路整備) 88,400 地方創生道整備推進交付金事業費 78,300 林道開設事業費 △105,710 リニア駅周辺整備事業費 △535,943 小学校施設長寿命化改修事業費 △813,100
単 独	4,826,510	4,699,384	8.7	127,126	2.7	産業用地整備事業費 480,654 文化会館施設整備事業費 325,786 南信濃福祉の里運営事業費 173,661 河川自然災害防止事業費 △285,800 道の駅遠山郷施設整備事業費 △455,591
災 害 復 旧 費	13,000	165,000	0.0	△ 152,000	△ 92.1	
補 助	0	152,000	0.0	△ 152,000	△ 100.0	土木施設補助災害復旧事業費 △152,000
単 独	13,000	13,000	0.0	0	0.0	
12 予 備 費	40,000	40,000	0.1	0	0.0	
合 計	55,640,000	56,070,000	100.0	△ 430,000	△ 0.8	

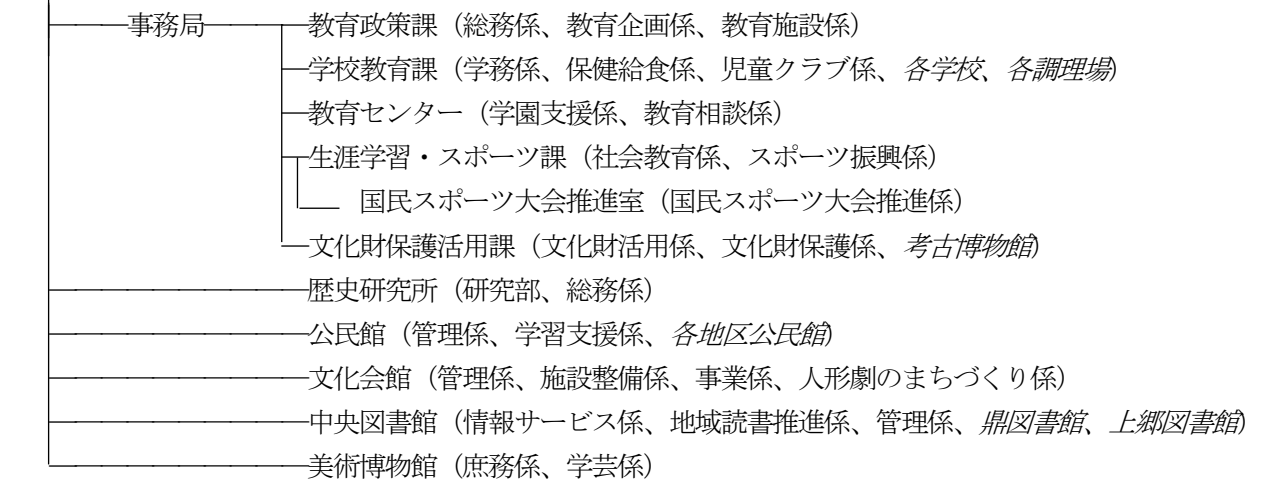
飯田市行政組織機構図 (R8. 4. 1)



○市議会、行政委員会

市議会—事務局 (庶務係、議事係、調査係)

教育委員会



選挙管理委員会—事務局 (選挙係、啓発係) 公平委員会— (事務職員)

監査委員—事務局 (監査係) 固定資産評価審査委員会— (書記)

農業委員会—事務局 (農地係、振興係)

### 3 職員の定数

(令和8年4月1日現在)

	区 分	定 数 (人)	実 数 (人)
1	市長の事務部局の職員	755	733
2	議会の事務部局の職員	9	7
3	教育委員会の事務部局及び教育機関の職員	150	131
4	選挙管理委員会の事務部局の職員	5	2
5	公平委員会の事務部局の職員	2 (市長部局職員兼務2)	0
7	監査委員の事務部局の職員	4	3
8	農業委員会の事務部局の職員	16 (市長部局職員兼務8)	6
9	固定資産評価審査委員会の事務部局の職員	2 (市長部局職員兼務2)	0
10	病院事業の職員	750	724
11	水道事業の職員	32	23
	<b>小 計</b>	<b>1,725</b>	<b>1,629</b>
市長部局付派遣職員			
12	(財)南信州・飯田産業センター		4
13	(社福)飯田市社会福祉協議会		1
14	飯田市土地開発公社		-
15	長野県後期高齢者医療広域連合		1
16	長野県地方税滞納整理機構		1
17	飯田市職員労働組合専従		4
	<b>小 計</b>		<b>11</b>
派遣職員(自治法派遣)			
18	南信州広域連合 事務局		7
19	〃 飯田広域消防		-
20	〃 飯田環境センター		1
	<b>小 計</b>		<b>8</b>
<b>合 計</b>			<b>1,648</b>

## 【資料編】

### V 市議会のあゆみ

#### 1 市議会議員選挙執行状況

昭和32年4月28日	合併による設置選挙
昭和35年10月25日	飯田地区補欠選挙
昭和36年4月23日	任期満了一般選挙
昭和39年5月15日	龍江・千代・上久堅3か村合併による増員選挙
昭和39年8月28日	伊賀良地区補欠選挙
昭和39年10月25日	飯田地区補欠選挙
昭和40年4月25日	任期満了一般選挙
昭和43年10月20日	補欠選挙
昭和44年4月20日	任期満了一般選挙
昭和47年10月22日	補欠選挙
昭和48年4月22日	任期満了一般選挙
昭和51年10月17日	補欠選挙
昭和52年4月17日	任期満了一般選挙
昭和55年10月19日	補欠選挙
昭和56年4月19日	任期満了一般選挙
昭和60年4月21日	任期満了一般選挙
昭和63年10月16日	補欠選挙
平成元年4月23日	任期満了一般選挙
平成4年10月18日	補欠選挙
平成5年4月25日	任期満了一般選挙
平成5年8月1日	上郷町合併による増員選挙
平成8年10月20日	補欠選挙
平成9年4月20日	任期満了一般選挙
平成12年10月15日	補欠選挙
平成13年4月22日	任期満了一般選挙
平成16年10月24日	補欠選挙
平成17年4月24日	任期満了一般選挙
平成17年10月30日	補欠選挙
平成21年4月19日	任期満了一般選挙
平成25年4月21日	任期満了一般選挙
平成29年4月16日	任期満了一般選挙
令和3年4月25日	任期満了一般選挙
令和6年10月20日	補欠選挙
令和7年4月20日	任期満了一般選挙（無投票）

## 2 歴代市議会議員

### (1) 歴代議長

代	氏名	就任年月日	退任年月日
初代	代田源六郎	昭和31. 10. 8	昭和32. 4. 27
		昭和32. 5. 10	昭和36. 4. 27
		昭和36. 5. 15	昭和40. 4. 27
		昭和40. 5. 6	昭和41. 5. 13
		昭和41. 5. 13	昭和42. 5. 11
2代	辻 虎松	昭和42. 5. 11	昭和44. 4. 27
3代	近松 宗一	昭和44. 5. 7	昭和46. 5. 7
		昭和46. 5. 7	昭和48. 4. 27
4代	伊原 悦雄	昭和48. 5. 8	昭和50. 5. 7
		昭和50. 5. 7	昭和52. 4. 27
5代	林 昌平	昭和52. 5. 6	昭和54. 4. 13
		昭和54. 4. 13	昭和56. 4. 27
		昭和56. 5. 7	昭和58. 4. 22
6代	松嶋 健次	昭和58. 4. 22	昭和60. 4. 27
		昭和60. 5. 10	昭和62. 5. 12
7代	平澤 與一	昭和62. 5. 12	平成元. 4. 27
8代	塩澤 昭	平成元. 5. 10	平成3. 1. 31
9代	竹村 仁實	平成3. 1. 31	平成3. 5. 9
10代	實原 裕	平成3. 5. 9	平成5. 4. 27
11代	今村 八束	平成5. 5. 13	平成7. 5. 12
		平成7. 5. 12	平成9. 4. 27
12代	小林 利一	平成9. 5. 13	平成11. 5. 13
		平成11. 5. 13	平成13. 4. 27
13代	西尾 喜好	平成13. 5. 15	平成15. 5. 14
14代	岩崎 和男	平成15. 5. 14	平成17. 4. 27
15代	熊谷 富夫	平成17. 5. 13	平成19. 5. 11
16代	上澤 義一	平成19. 5. 11	平成21. 4. 27
17代	中島武津雄	平成21. 5. 12	平成23. 5. 13
18代	上澤 義一	平成23. 5. 13	平成25. 4. 27
19代	林 幸次	平成25. 5. 13	平成27. 5. 12
20代	木下 克志	平成27. 5. 12	平成29. 4. 27
21代	清水 勇	平成29. 5. 9	令和元. 5. 14
22代	湯澤 啓次	令和元. 5. 14	令和3. 4. 27
23代	井坪 隆	令和3. 5. 18	令和5. 5. 9
24代	熊谷 泰人	令和5. 5. 9	令和7. 4. 27
25代	竹村 圭史	令和7. 5. 12	

## (2) 歴代副議長

代	氏名	就任年月日	退任年月日
初代	伊藤 清	昭和31. 10. 8	昭和32. 4. 27
2代	片山 均	昭和32. 5. 10	昭和36. 4. 27
		昭和36. 5. 15	昭和39. 8. 1
3代	熊谷 一郎	昭和39. 9. 15	昭和40. 4. 27
		昭和40. 5. 6	昭和41. 5. 13
4代	小林 新吾	昭和41. 5. 13	昭和42. 5. 11
5代	市村 保人	昭和42. 5. 11	昭和44. 4. 27
6代	今村 輝男	昭和44. 5. 7	昭和46. 5. 7
		昭和46. 5. 7	昭和48. 4. 27
7代	新井 安男	昭和48. 5. 8	昭和50. 5. 7
8代	林 昌平	昭和50. 5. 7	昭和52. 4. 27
9代	松江 良夫	昭和52. 5. 6	昭和54. 4. 13
10代	片桐 勲	昭和54. 4. 13	昭和56. 4. 27
11代	松江 良夫	昭和56. 5. 7	昭和58. 4. 22
12代	平澤 與一	昭和58. 4. 22	昭和60. 4. 27
		昭和60. 5. 10	昭和62. 5. 12
13代	細田 直彦	昭和62. 5. 12	昭和63. 11. 10
14代	関島 一郎	昭和63. 12. 2	平成元. 4. 27
15代	竹村 仁實	平成元. 5. 10	平成3. 1. 31
16代	松江 良夫	平成3. 1. 31	平成3. 5. 9
17代	内山 照美	平成3. 5. 9	平成5. 4. 27
18代	澤柳辨治郎	平成5. 5. 13	平成7. 5. 12
19代	松島 年一	平成7. 5. 12	平成8. 10. 31
20代	片桐 司郎	平成8. 10. 31	平成9. 4. 27
		平成9. 5. 13	平成11. 5. 13
21代	中田 佳甫	平成11. 5. 13	平成13. 4. 27
22代	牧内 信臣	平成13. 5. 15	平成15. 5. 14
23代	渡 淳	平成15. 5. 14	平成17. 4. 27
24代	林 幸次	平成17. 5. 13	平成19. 5. 11
25代	矢澤 芳文	平成19. 5. 11	平成21. 4. 27
26代	清水 可晴	平成21. 5. 12	平成23. 5. 13
27代	村松まり子	平成23. 5. 13	平成25. 4. 27
28代	木下 克志	平成25. 5. 13	平成27. 5. 12
29代	木下 容子	平成27. 5. 12	平成29. 4. 27
30代	永井 一英	平成29. 5. 9	令和元. 5. 14
31代	原 和世	令和元. 5. 14	令和3. 4. 27
32代	山崎 昌伸	令和3. 5. 18	令和5. 5. 9
33代	竹村 圭史	令和5. 5. 9	令和7. 4. 27
34代	清水優一郎	令和7. 5. 12	

## (3) 歴代総務常任委員会正副委員長

代	委員会名	委員長名	副委員長名	就任年月日	退任年月日
1代	総務部委員会	木下 章雄	近松 宗一 前島 秀夫	昭和31. 10. 8	昭和32. 4. 27
2代	〃	島岡 利雄	伊藤 誠一	昭和32. 5. 10	昭和34. 5. 17
3代	〃	佐々木利夫	佐々木清信	昭和34. 5. 18	昭和36. 4. 27
4代	〃	熊谷 一郎	伊藤 誠一	昭和36. 5. 15	昭和38. 5. 22
5代	〃	〃	〃	昭和38. 5. 23	昭和40. 4. 27
6代	〃	近松 宗一	大平 節蔵	昭和40. 5. 6	昭和41. 5. 13
7代	〃	関島彦四郎	北原 正司	昭和41. 5. 14	昭和42. 5. 11
8代	〃	近松 宗一	前島 秀夫	昭和42. 5. 12	昭和44. 4. 27
9代	〃	辻 虎松	松島 健次	昭和44. 5. 7	昭和46. 5. 6
10代	〃	鳴海 衛	宮嶋 繁	昭和46. 5. 7	昭和48. 4. 27
11代	総務文教委員会	市村 保人	橋部 肇	昭和48. 5. 8	昭和50. 5. 7
12代	〃	茂木立好則	前島 成光	昭和50. 5. 8	昭和52. 4. 27
13代	〃	斉藤 為良	細田 直彦	昭和52. 5. 6	昭和54. 5. 5
14代	〃	内田 篤	川手 守	昭和54. 5. 6	昭和56. 4. 27
15代	〃	〃	原 廣男	昭和56. 5. 8	昭和58. 5. 7
16代	〃	片桐七右衛門	前島 成光	昭和58. 5. 8	昭和60. 4. 27
17代	〃	細田 直彦	塩澤 文朗	昭和60. 5. 10	昭和62. 5. 11
18代	〃	竹村 仁實	熊谷 康登	昭和62. 5. 12	平成元. 4. 27
19代	〃	今村 八束	今村 淳	平成元. 5. 10	平成3. 5. 9
20代	〃	久保田 元	吉川 昌子	平成3. 5. 10	平成5. 4. 27
21代	〃	松島 年一	今村 淳	平成5. 5. 13	平成7. 5. 12
22代	〃	小林 利一	牧内 信臣	平成7. 5. 13	平成9. 4. 27
23代	〃	吉村徳一郎	渡 淳	平成9. 5. 13	平成11. 5. 12
24代	〃	岩崎 和男	〃	平成11. 5. 13	平成13. 4. 27
25代	〃	熊谷 富夫	小池 清	平成13. 5. 15	平成15. 5. 14
26代	〃	下平 政幸	中島武津雄	平成15. 5. 15	平成17. 4. 27
27代	〃	上澤 義一	村松まり子	平成17. 5. 13	平成19. 5. 11
28代	〃	原 勉	森本美保子	平成19. 5. 12	平成21. 4. 27
29代	〃	林 幸次	原 和世	平成21. 5. 13	平成23. 5. 13
30代	〃	木下 容子	森本美保子	平成23. 5. 13	平成25. 4. 27
31代	総務委員会	清水 勇	原 和世	平成25. 5. 14	平成27. 5. 12
32代	〃	吉川 秋利	古川 仁	平成27. 5. 12	平成29. 4. 27
33代	〃	湊 猛	木下 容子	平成29. 5. 10	令和元. 5. 15
34代	〃	山崎 昌伸	吉川 秋利	令和元. 5. 15	令和3. 4. 27
35代	〃	熊谷 泰人	原 和世	令和3. 5. 19	令和5. 5. 10
36代	〃	清水優一郎	小林 真一	令和5. 5. 10	令和7. 4. 27
37代	〃	福澤 克憲	市瀬 芳明	令和7. 5. 13	

※1 議会改革によりH25. 4. 28から4常任委員会複数所属から3常任委員会単独所属に移行

※2 ※1の議員における常任委員会単独所属については、R1. 5. 14に設置された予算決算常任委員会（議長を除く全議員で構成）においては適用しない

## (4) 歴代社会文教常任委員会正副委員長

代	委員会名	委員長名	副委員長名	就任年月日	退任年月日
1代	社会部委員会	児島 栄次	久保田安美 宮内 昇	昭和31. 10. 8	昭和32. 4. 27
2代	〃	実原 徳重	知久陽之祐	昭和32. 5. 10	昭和34. 5. 17
3代	〃	〃	田口 秀男	昭和34. 5. 18	昭和36. 4. 27
4代	〃	辻 虎松	漆原 恒実	昭和36. 5. 15	昭和38. 5. 22
5代	〃	〃	〃	昭和38. 5. 23	昭和40. 4. 27
6代	〃	〃	〃	昭和40. 5. 6	昭和41. 5. 13
7代	〃	漆原 恒実	榊田 太一	昭和41. 5. 14	昭和42. 5. 11
8代	〃	佐々木清信	松江 良夫	昭和42. 5. 12	昭和44. 4. 27
9代	〃	斉藤 宗義	熊谷政一郎	昭和44. 5. 7	昭和46. 5. 6
10代	〃	林 昌平	伊東 秀彦	昭和46. 5. 7	昭和48. 4. 27
11代	社会民生委員会	西尾 仁一	松下 茂	昭和48. 5. 8	昭和50. 5. 7
12代	〃	松江 良夫	片桐七右衛門	昭和50. 5. 8	昭和52. 4. 27
13代	社会委員会	片桐 勲	佐々木文雄	昭和52. 5. 6	昭和54. 5. 5
14代	〃	松江 良夫	中島 勝美	昭和54. 5. 6	昭和56. 4. 27
15代	〃	尾沢 貞夫	片桐 芳朗	昭和56. 5. 8	昭和58. 5. 7
16代	〃	松下 茂	平田 友畝	昭和58. 5. 8	昭和60. 4. 27
17代	〃	森本 藤登	今村 八束	昭和60. 5. 10	昭和62. 5. 11
18代	〃	西尾 保雄	吉川 義治	昭和62. 5. 12	平成元. 4. 27
19代	〃	〃	小林 利一	平成元. 5. 10	平成3. 5. 9
20代	〃	片桐 司郎	関島 秀夫	平成3. 5. 10	平成5. 4. 27
21代	〃	櫻井 俊夫	西尾 喜好	平成5. 5. 13	平成7. 5. 12
22代	〃	下平 一郎	中田 佳甫	平成7. 5. 13	平成9. 4. 27
23代	〃	中田 佳甫	熊谷 富夫	平成9. 5. 13	平成11. 5. 12
24代	〃	牛山 重一	井坪 隆	平成11. 5. 13	平成13. 4. 27
25代	〃	菅沼 立男	中島武津雄	平成13. 5. 15	平成15. 5. 14
26代	〃	柄澤 紀春	荒木 興利	平成15. 5. 15	平成17. 4. 27
27代	〃	原 勉	森本美保子	平成17. 5. 13	平成19. 5. 11
28代	〃	中島武津雄	木下 容子	平成19. 5. 12	平成21. 4. 27
29代	〃	森本美保子	村松まり子	平成21. 5. 13	平成23. 5. 13
30代	〃	木下 克志	後藤 荘一	平成23. 5. 13	平成25. 4. 27
31代	社会文教委員会	井坪 隆	湯澤 啓次	平成25. 5. 14	平成27. 5. 12
32代	〃	新井信一郎	清水 可晴	平成27. 5. 12	平成29. 4. 27
33代	〃	福沢 清	山崎 昌伸	平成29. 5. 10	令和元. 5. 15
34代	〃	村松まり子	湊 猛	令和元. 5. 15	令和3. 4. 27
35代	〃	木下 徳康	岡田 倫英	令和3. 5. 19	令和5. 5. 10
36代	〃	永井 一英	清水 勇	令和5. 5. 10	令和7. 4. 27
37代	〃	下平 恒男	宮脇 邦彦	令和7. 5. 13	

※1 議会改革によりH25. 4. 28から4常任委員会複数所属から3常任委員会単独所属に移行

※2 ※1の議員における常任委員会単独所属については、R1. 5. 14に設置された予算決算常任委員会（議長を除く全議員で構成）においては適用しない

## (5) 歴代産業建設常任委員会正副委員長

代	委員会名	委員長名	副委員長名	就任年月日	退任年月日
1代	産業部委員会	田中 伝	宮下 綱六 宮川藤次郎	昭和31. 10. 8	昭和32. 4. 27
2代	〃	小林 新吾	堀 保麿	昭和32. 5. 10	昭和34. 5. 17
3代	〃	〃	丸山 治郎	昭和34. 5. 18	昭和36. 4. 27
4代	〃	葛岡 利治	〃	昭和36. 5. 15	昭和38. 5. 22
5代	〃	丸山 治郎	松重 新一	昭和38. 5. 23	昭和40. 4. 27
6代	〃	〃	宮脇 省	昭和40. 5. 6	昭和41. 5. 13
7代	産業経済部委員会	新井 安男	原 茂	昭和41. 5. 14	昭和42. 5. 11
8代	〃	今村 輝男	新井 安男	昭和42. 5. 11	昭和44. 4. 27
9代	〃	林 昌平	原田 正志	昭和44. 5. 7	昭和46. 5. 6
10代	〃	北原 正司	小松 芳男	昭和46. 5. 7	昭和48. 4. 27
11代	産業経済委員会	原 茂	佐々木 勝	昭和48. 5. 8	昭和50. 5. 7
12代	〃	北原 正司	橋部 肇	昭和50. 5. 8	昭和52. 4. 27
13代	〃	平沢 與一	原 廣男	昭和52. 5. 6	昭和54. 5. 5
14代	〃	原 康次	林 利実	昭和54. 5. 6	昭和56. 4. 27
15代	〃	平澤 與一	竹村 仁實	昭和56. 5. 8	昭和58. 5. 7
16代	〃	片桐 勲	〃	昭和58. 5. 8	昭和59. 10. 14
17代	〃	竹村 仁實	中田 修	昭和59. 10. 26	昭和60. 4. 27
18代	〃	〃	塩澤 昭	昭和60. 5. 10	昭和62. 5. 11
19代	〃	酒井 米	小林 三郎	昭和62. 5. 12	平成元. 4. 27
20代	〃	内山 照美	下平 一郎	平成元. 5. 10	平成3. 5. 9
21代	〃	下平 一郎	小林 利一	平成3. 5. 10	平成5. 4. 27
22代	〃	〃	伊原 与一	平成5. 5. 13	平成7. 5. 12
23代	〃	佐藤 好英	吉川 義治	平成7. 5. 13	平成9. 4. 27
24代	〃	西尾 喜好	岩崎 和男	平成9. 5. 13	平成11. 5. 12
25代	〃	下平 政幸	熊谷 富夫	平成11. 5. 13	平成13. 4. 27
26代	〃	渡 淳	上澤 義一	平成13. 5. 15	平成15. 5. 14
27代	〃	矢澤 芳文	佐々木重光	平成15. 5. 15	平成17. 4. 27
28代	〃	清水 可晴	原 和世	平成17. 5. 13	平成19. 5. 11
29代	〃	原 和世	山崎 紀男	平成19. 5. 12	平成21. 4. 27
30代	〃	木下 克志	木下 容子	平成21. 5. 13	平成23. 5. 13
31代	〃	伊壺 敏子	吉川 秋利	平成23. 5. 13	平成25. 4. 27
32代	産業建設委員会	吉川 秋利	後藤 莊一	平成25. 5. 14	平成27. 5. 12
33代	〃	永井 一英	湊 猛	平成27. 5. 12	平成29. 4. 27
34代	〃	湯澤 啓次	熊谷 泰人	平成29. 5. 10	令和元. 5. 15
35代	〃	熊谷 泰人	後藤 莊一	令和元. 5. 15	令和3. 4. 27
36代	〃	竹村 圭史	清水優一郎	令和3. 5. 19	令和5. 5. 10
37代	〃	福澤 克憲	古川 仁	令和5. 5. 10	令和7. 4. 27
38代	〃	小林 真一	小平 彰	令和7. 5. 13	

※1 議会改革によりH25. 4. 28から4常任委員会複数所属から3常任委員会単独所属に移行

※2 ※1の議員における常任委員会単独所属については、R1. 5. 14に設置された予算決算常任委員会（議長を除く全議員で構成）においては適用しない

## (6) 歴代予算決算常任委員会正副委員長

代	委員会名	委員長名	副委員長名	就任年月日	退任年月日
1代	予算決算委員会	原 和世	村松まり子	令和元. 5. 15	令和3. 4. 27
2代	〃	山崎 昌伸	竹村 圭史	令和3. 5. 19	令和5. 5. 10
3代	〃	竹村 圭史	永井 一英	令和5. 5. 10	令和7. 4. 27
4代	〃	清水優一郎	小林 真一	令和7. 5. 13	

※R1. 5. 14から予算決算委員会を常任委員会として設置。従前の総務・社会文教・産業建設各常任委員会での予算・決算、行政評価に関する専門的審査については、それぞれの常任委員会協議会の中で予算決算委員会分科会と位置づけ実施

## (7) 歴代建設環境常任委員会正副委員長

代	委員会名	委員長名	副委員長名	就任年月日	退任年月日
1代	建設部委員会	辻 虎松	竹内 兵治 伊原 悦雄	昭和31. 10. 8	昭和32. 4. 27
2代	〃	近松 宗一	林 省三	昭和32. 5. 10	昭和34. 5. 17
3代	〃	山田 亮一	伊原 悦雄	昭和34. 5. 18	昭和36. 4. 27
4代	〃	佐々木清信	木下 章雄	昭和36. 5. 15	昭和38. 5. 22
5代	〃	木下 章雄	新井 安男	昭和38. 5. 23	昭和40. 4. 27
6代	〃	佐々木清信	林 昌平	昭和40. 5. 6	昭和41. 5. 13
7代	〃	今牧 照男	〃	昭和41. 5. 14	昭和42. 5. 11
8代	〃	伊原 悦雄	代田 保雄	昭和42. 5. 12	昭和44. 4. 27
9代	〃	今牧 照男	茂木立好則	昭和44. 5. 7	昭和46. 5. 6
10代	〃	新井 安男	大蔵 浜雄	昭和46. 5. 7	昭和48. 4. 27
11代	建設委員会	茂木立好則	〃	昭和48. 5. 8	昭和50. 5. 7
12代	〃	斉藤 宗義	今牧 泰三	昭和50. 5. 8	昭和52. 4. 27
13代	〃	橋部 肇	今村 馨	昭和52. 5. 6	昭和54. 5. 5
14代	〃	森本 藤登	木下 登	昭和54. 5. 6	昭和56. 4. 27
15代	〃	今村 馨	熊谷 康登	昭和56. 5. 8	昭和58. 5. 7
16代	〃	細田 直彦	木下 登	昭和58. 5. 8	昭和60. 4. 27
17代	〃	関島 一郎	酒井 米	昭和60. 5. 10	昭和62. 5. 11
18代	〃	〃	實原 裕	昭和62. 5. 12	昭和63. 12. 1
19代	〃	實原 裕	塩澤 昭	昭和63. 12. 2	平成元. 4. 27
20代	〃	平田 友畝	澤柳辨治郎	平成元. 5. 10	平成3. 5. 9
21代	〃	松島 年一	〃	平成3. 5. 10	平成5. 4. 27
22代	〃	吉川 義治	佐藤 好英	平成5. 5. 13	平成7. 5. 12
23代	〃	塩澤 俊彦	伊藤 芳之	平成7. 5. 13	平成9. 4. 27
24代	〃	牧内 信臣	木下 昭一	平成9. 5. 13	平成11. 5. 12
25代	〃	實原 公男	久保田平八郎	平成11. 5. 13	平成12. 10. 21
26代	〃	菅沼 立男	〃	平成12. 10. 31	平成13. 4. 27
27代	建設環境委員会	井坪 隆	原 勉	平成13. 5. 15	平成15. 5. 14
28代	〃	木下 昭一	原 和世	平成15. 5. 15	平成17. 4. 27
29代	〃	佐々木重光	湯澤 宗保	平成17. 5. 13	平成19. 5. 11
30代	〃	柄澤 紀春	後藤 修三	平成19. 5. 12	平成21. 4. 27
31代	〃	伊壺 敏子	吉川 秋利	平成21. 5. 13	平成23. 5. 13
32代	〃	原 和世	永井 一英	平成23. 5. 13	平成25. 4. 27

※議会改革による常任委員会の再編により、H25. 4. 27をもって建設環境委員会は所管に応じ他の3常任委員会へ移管

## (8) 歴代議会運営委員会正副委員長

代	委員会名	委員長名	副委員長名	就任年月日	退任年月日
1代	議会運営委員会	木下 章雄	近松 宗一	昭和31. 10. 8	昭和32. 4. 27
2代	〃	島岡 利雄	伊藤 誠一	昭和32. 5. 10	昭和34. 5. 18
3代	〃	佐々木利夫	佐々木清信	昭和34. 5. 18	昭和36. 4. 27
4代	〃	熊谷 一郎	伊藤 誠一	昭和36. 5. 15	昭和38. 5. 23
5代	〃	佐々木清信	熊谷 一郎	昭和38. 5. 23	昭和40. 4. 27
6代	〃	近松 宗一	鳴海 衛	昭和40. 5. 6	昭和41. 5. 13
7代	〃	斉藤 宗義	代田 保雄	昭和41. 5. 13	昭和42. 5. 11
8代	〃	丸山 治郎	原田 正志	昭和42. 5. 11	昭和44. 4. 27
9代	〃	新井 安男	原 茂	昭和44. 5. 7	昭和46. 5. 7
10代	〃	松江 良夫	西尾 仁一	昭和46. 5. 7	昭和48. 4. 27
11代	〃	伊東 秀彦	太田 猶市	昭和48. 5. 8	昭和50. 5. 7
12代	〃	松嶋 健次	尾沢 貞夫	昭和50. 5. 7	昭和52. 4. 27
13代	〃	尾沢 貞夫	竹村 仁實	昭和52. 5. 6	昭和54. 4. 13
14代	〃	片桐七右衛門	塩沢 文朗	昭和54. 4. 13	昭和56. 4. 27
15代	〃	木下 登	内山 照美	昭和56. 5. 8	昭和57. 3. 1
16代	〃	片桐七右衛門	〃	昭和57. 3. 1	昭和58. 4. 22
17代	〃	中島 勝美	酒井 米	昭和58. 4. 22	昭和60. 4. 27
18代	〃	内山 照美	平田 友畝	昭和60. 5. 10	昭和62. 5. 12
19代	〃	平田 友畝	松島 年一	昭和62. 5. 12	平成元. 4. 27
20代	〃	松島 年一	久保田 元	平成元. 5. 10	平成3. 5. 9
21代	〃	吉川 義治	今村 淳	平成3. 5. 9	平成5. 4. 27
22代	〃	中田 佳甫	牧内 信臣	平成5. 5. 13	平成7. 5. 12
23代	〃	伊原 与一	片桐 司郎	平成7. 5. 13	平成8. 4. 22
24代	〃	澤柳辨治郎	〃	平成8. 6. 4	平成8. 10. 31
25代	〃	〃	桜井 俊夫	平成8. 10. 31	平成9. 4. 27
26代	〃	久保田平八郎	牛山 重一	平成9. 5. 13	平成11. 5. 12
27代	〃	木下 昭一	菅沼 立男	平成11. 5. 13	平成12. 10. 30
28代	〃	〃	柄澤 紀春	平成12. 10. 31	平成13. 4. 27
29代	〃	矢澤 芳文	清水 可晴	平成13. 5. 15	平成15. 5. 14
30代	〃	上澤 義一	林 幸次	平成15. 5. 15	平成17. 4. 27
31代	〃	原 和世	下平 勝熙	平成17. 5. 13	平成19. 5. 11
32代	〃	下平 勝熙	木下 克志	平成19. 5. 12	平成21. 4. 27
33代	〃	井坪 隆	清水 勇	平成21. 5. 13	平成23. 5. 13
33代	〃	林 幸次	新井信一郎	平成23. 5. 13	平成25. 4. 27
34代	〃	清水 可晴	村松まり子	平成25. 5. 14	平成27. 5. 12
35代	〃	清水 勇	後藤 莊一	平成27. 5. 12	平成29. 4. 27
36代	〃	村松まり子	吉川 秋利	平成29. 5. 10	令和元. 5. 15
37代	〃	福沢 清	永井 一英	令和元. 5. 15	令和3. 4. 27
38代	〃	永井 一英	清水 勇	令和3. 5. 19	令和5. 5. 10
39代	〃	井坪 隆	山崎 昌伸	令和5. 5. 10	令和7. 4. 27
40代	〃	佐々木博子	長谷部春生	令和7. 5. 13	

## (9) 歴代監査委員（議会選出）

代	氏名	就任年月日	退任年月日
初代	田中 悟	昭和31. 10. 1	昭和32. 4. 27
2代	佐々木清信	昭和32. 5. 10	昭和34. 5. 17
3代	熊谷 一郎	昭和34. 5. 18	昭和36. 4. 27
4代	関島彦四郎	昭和36. 5. 15	昭和41. 6. 15
5代	市村 保人	昭和41. 6. 17	昭和42. 6. 5
6代	宮内 昇	昭和42. 6. 6	昭和44. 4. 27
7代	市村 保人	昭和44. 5. 7	昭和46. 6. 3
8代	宮内 昇	昭和46. 6. 4	昭和50. 6. 6
9代	近松 宗一	昭和50. 6. 10	昭和52. 4. 27
10代	伊原 悦雄	昭和52. 6. 6	昭和54. 4. 13
11代	松下 茂	昭和54. 4. 16	昭和56. 5. 7
12代	西尾 保雄	昭和56. 5. 8	昭和60. 4. 27
13代	實原 裕	昭和60. 5. 10	昭和62. 5. 12
14代	松嶋 健次	昭和62. 5. 13	平成元. 4. 27
15代	小林 三郎	平成元. 5. 10	平成2. 6. 30
16代	實原 裕	平成2. 7. 16	平成3. 5. 9
17代	竹村 仁實	平成3. 5. 10	平成5. 4. 27
18代	〃	平成5. 5. 13	平成7. 5. 12
19代	實原 裕	平成7. 5. 13	平成9. 4. 27
20代	竹村 仁實	平成9. 5. 13	平成11. 5. 12
21代	片桐 司郎	平成11. 5. 13	平成13. 4. 27
22代	小林 利一	平成13. 5. 15	平成15. 3. 3
23代	西尾 喜好	平成15. 5. 14	平成17. 4. 27
24代	岩崎 和男	平成17. 5. 13	平成19. 5. 10
25代	熊谷 富夫	平成19. 5. 11	平成21. 4. 27
26代	上澤 義一	平成21. 5. 13	平成23. 5. 12
27代	中島武津雄	平成23. 5. 13	平成25. 4. 27
28代	〃	平成25. 5. 14	平成29. 4. 27
29代	木下 克志	平成29. 5. 10	令和元. 5. 13
30代	清水 勇	令和元. 5. 15	令和3. 4. 27
31代	原 和世	令和3. 5. 19	令和7. 4. 27
32代	清水 勇	令和7. 5. 13	

## (10) 歴代事務局長

代	氏名	就任年月日	退任年月日
初代	林 政人	昭和31. 9. 30	昭和39. 3. 31
2代	久保 武敏	昭和39. 4. 1	昭和44. 3. 31
3代	福井 実	昭和44. 4. 1	昭和44. 10. 19
4代	村沢 光男	昭和44. 10. 20	昭和48. 6. 30
5代	酒井 篤	昭和48. 7. 1	昭和50. 3. 31
6代	宮沢 邦男	昭和50. 4. 1	昭和54. 3. 31
7代	木下 良美	昭和54. 4. 1	昭和56. 3. 31
8代	松澤 平吉	昭和56. 4. 1	昭和59. 3. 31
9代	坂下 幸彦	昭和59. 4. 1	平成元. 3. 31
10代	小木曾義信	平成元. 4. 1	平成3. 3. 31
11代	浦野 勉	平成3. 4. 1	平成6. 3. 31
12代	横田 常	平成6. 4. 1	平成9. 3. 31
13代	山岸一二三	平成9. 4. 1	平成11. 3. 31
14代	吉川 元勝	平成11. 4. 1	平成13. 3. 31
15代	中本 卓良	平成13. 4. 1	平成15. 3. 31
16代	福田 富廣	平成15. 4. 1	平成16. 3. 31
17代	大沢 英二	平成16. 4. 1	平成17. 3. 31
18代	尾澤 敏秀	平成17. 4. 1	平成19. 3. 31
19代	中井 洋一	平成19. 4. 1	平成20. 3. 31
20代	平澤 和人	平成20. 4. 1	平成20. 12. 31
21代	篠田 雅弘	平成21. 1. 1	平成25. 3. 31
22代	福澤 栄二	平成25. 4. 1	平成27. 3. 31
23代	土屋 寿憲	平成27. 4. 1	平成29. 3. 31
24代	吉川 昌彦	平成29. 4. 1	令和3. 3. 31
25代	和泉 忠志	令和3. 4. 1	令和6. 3. 31
26代	筒井 雄二	令和6. 4. 1	

(11) 歴代市議会議員

ア 昭和31年9月30日執行（1市7か村合併）

(7) 三穂地区 12人

林 武男	林 武司	坂巻 政美	林 保	古川 舎人	佐藤 芳房
宮沢 敬信	前沢 蔵六	川井 邦	西村 文雄	川上 竹市	久保田安美

(イ) 飯田地区 29人

代田源六郎	斉藤 隆久	今村 正美	田口 秀夫	牧島 保一	大竹 四郎
井村豊太郎	井原 淳治	辻 虎松	山田 亮一	深津 一郎	酒井 府
古瀬 仁	菊池 恭平	児島 栄次	宮下 綱六	吉川 一	中田 栄
木下 一人	実原 徳重	佐々木清信	近松 宗一	木下 勝義	加藤 英男
田中 悟	早川 清雄	荒井重右衛門	長坂 晃	漆原 恒実	

(ウ) 座光地地区 16人

知久陽之祐	北原 弘	片桐 卓治	上沼 善夫	黒川 利一	今村 良美
湯沢 博司	篠田力三郎	棚田 正雄	佐々木貞雄	竹内 武男	原田 栄治
佐々木信雄	原田 幸雄	三村 利	竹内 兵治		

(エ) 竜丘地区 16人

伊原 悦雄	下平 広志	原 登	吉川 正己	中平恒三郎	今村 恵
長沼 保治	林 正司	松村 新八	前島 秀夫	北沢小太郎	沖田 武一
下田 巖	原 光人	下平 勲資	塚平 睦雄		

(オ) 松尾地区 22人

林 宗三郎	江塚 角三	斉藤 忠治	木下 徳雄	塩沢 秋生	平栗 英祐
山中 竜策	今村 輝男	小木曾嘉一	青山 孝一	常盤 喜八	福島 淡
牛草 利春	藤田 勇夫	塩沢伝之助	中山 政雄	奥田 利吉	松村 信一
熊谷 好次	金井 啓	伊与部金一	木下 章雄		

(カ) 下久堅地区 16人

平沢 清人	池田 嘉篤	吉沢 昇	羽生 一善	宮川藤次郎	森岡 清志
宮内 昇	三石 義臣	宮脇 利雄	桐生 忠治	橋爪徳次郎	三石誠一郎
羽場 義雄	木下 平治	坂井 伸一	平沢 亮治		

(キ) 伊賀良地区 22人

坂下 美富	矢沢 秀一	相原 貢	橋部 文男	今牧 泰三	伊藤 仁
佐々木省吾	元島 均治	今牧 照男	平田 武司	水野 恒夫	神部 稲男
矢沢 清志	松沢 武雄	伊藤 清	肥後 明一	平田 薫	田部 勇
鈴木 太郎	新井 一正	宮下 喜一	原 稲太郎		

(ク) 山本地区 16人

尾沢 元一	熊谷 英雄	竹村 汎愛	平岩四郎吉	竹村 央	遠山 皓
熊谷 広男	山内 精一	田中 伝	金田 伝	唐沢 茂一	玉置 敏夫
久保田久吉	金沢 重雄	熊崎 六蔵	小池 政之		

合計 149人

イ 昭和32年4月28日執行（合併による設置選挙 任期は昭和32年4月28日から昭和36年4月27日まで 8選挙区 定数36）

片山 均	伊藤 誠一	久保田一男	松沢 広	田中 伝	島岡 利雄
林 保	林 省三	北沢小太郎	伊原 悦雄	木下 章雄	伊与部金一
葛岡 利治	丸山 治郎	小林 新吾	宮脇 省	佐々木利夫	知久陽之祐
代田源六郎	実原 徳重	佐々木清信	近松 宗一	今村 正美	児島 栄次
井原 淳治	堀 保麿	福島 勝男	古瀬 仁	漆原 恒美	串原 義直
山田 亮一	深津 一郎	辻 虎松	熊谷 一郎	田口 秀男	岡島 新治

ウ 昭和35年10月25日執行（飯田地区補欠選挙 任期は昭和35年10月26日から昭和36年4月27日まで 定数3）

新井 安男 鳴海 衛 前島 成光

エ 昭和36年4月23日執行（任期満了一般選挙 任期は昭和36年4月28日から昭和40年4月27日まで 9選挙区 定数28）

片山 均	浜島 惣一	伊原 春男	鳴海 衛	宮内 昇	葛岡 利治
岡村 賢作	知久陽之祐	丸山 治郎	関島彦四郎	佐々木清信	代田源六郎
代田 哲	今牧 照男	新井 安男	近松 宗一	木下 章雄	串原 義直
福島 勝男	前島 成光	小林 新吾	沢柳 敏夫	漆原 恒美	辻 虎松
竹村 央	伊藤 誠一	松重 新一	熊谷 一郎		

オ 昭和39年5月15日執行（龍江村、千代村及び上久堅村の3か村合併による増員選挙 任期は昭和39年5月15日から昭和40年4月27日まで 定数は龍江2、千代2、上久堅1の合計5）

林 昌平 松尾 純二 大平 節蔵 林 武男 斉藤 宗義

カ 昭和39年8月28日執行（伊賀良地区補欠選挙 任期は昭和39年8月29日から昭和40年4月27日まで 定数1）

代田 保雄

キ 昭和39年10月25日執行（飯田地区補欠選挙 任期は昭和39年10月26日から昭和40年4月27日まで 定数1）

宮嶋 繁

ク 昭和40年4月25日執行（任期満了一般選挙 任期は昭和40年4月28日から昭和44年4月27日まで 全市1選挙区 定数36）

林 昌平	前島 秀夫	北原 正司	鳴海 衛	辻 虎松	市村 保人
小林 新吾	代田 保雄	近松 宗一	代田源六郎	矢崎 三郎	沢柳 俊夫
榊田 太一	今村 治郎	丸山 治郎	松江 良夫	伊原 悦雄	原 茂
大蔵 浜雄	宮嶋 茂	漆原 恒美	富田 政雄	葛岡 利治	大平 節蔵
今村 輝男	新井 安男	佐々木清信	宮内 昇	熊谷 一郎	宮脇 省

前島 成光 熊谷 武志 齊藤 宗義 原田 正志 今牧 照男 関島彦四郎

ケ 昭和43年10月20日執行（補欠選挙 任期は昭和43年10月21日から昭和44年4月27日まで 定数2）

茂木立好則 内田 篤

コ 昭和44年4月20日執行（任期満了一般選挙 任期は昭和44年4月28日から昭和48年4月27日まで 定数36）

池上 一雄	茂木立好則	位高 勉	永山 忠男	前島 成光	佐藤力三郎
今牧 照男	齊藤 宗義	小松 芳男	江塚 善二	宮内 昇	大蔵 浜雄
松下 茂	原 茂	原 康次	原田 正志	熊谷政一郎	西尾 仁一
中山 栄次	辻 虎松	榊田 太一	内田 篤	伊東 秀彦	北原 正司
松嶋 健次	今村 輝男	林 昌平	新井 安男	片桐 勲	近松 宗一
宮嶋 繁	熊谷 武志	市村 保人	鳴海 衛	伊原 悦雄	松江 良夫

サ 昭和47年10月22日執行（補欠選挙 任期は昭和47年10月23日から昭和48年4月27日まで 定数2）

森本 藤登 今牧 泰三

シ 昭和48年4月22日執行（任期満了一般選挙 任期は昭和48年4月28日から昭和52年4月27日まで 定数36）

大蔵 浜雄	塩沢 文朗	片桐 芳朗	川手 守	前島 成光	佐藤力三郎
片桐七右衛門	伊藤 祐春	太田 猶市	佐々木 勝	平澤 與一	尾沢 貞夫
松下 茂	森本 藤登	佐々木清信	鳴海 衛	原 茂	松江 良夫
伊東 秀彦	松嶋 健次	今牧 泰三	内田 篤	西尾 仁一	橋部 肇
齊藤 為良	新井 安男	市村 保人	齊藤 宗義	今村 輝男	北原 正司
伊原 悦雄	近松 宗一	江塚 善二	宮内 昇	茂木立好則	林 昌平

ス 昭和51年10月17日執行（補欠選挙 任期は昭和51年10月18日から昭和52年4月27日まで 定数3）

熊谷 康登 西尾 保雄 片桐 勲

セ 昭和52年4月17日執行（任期満了一般選挙 任期は昭和52年4月28日から昭和56年4月27日まで 定数30に減少）

片桐七右衛門	塩沢 文朗	片桐 芳朗	川手 守	熊谷 康登	齊藤 宗義
竹村 仁實	木下 登	原 広男	原 康次	松下 茂	西尾 保雄
内田 篤	森本 藤登	今村 馨	平澤 與一	片桐 勲	中島 勝美
林 利実	尾沢 貞夫	橋部 肇	細田 直彦	佐々木文雄	佐々木 勝
齊藤 為良	西尾 仁一	茂木立好則	松江 良夫	林 昌平	伊原 悦雄

ソ 昭和55年10月19日執行（補欠選挙 任期は昭和55年10月20日から昭和56年4月27日まで 定数1）

内山 照美

タ 昭和56年4月19日執行（任期満了一般選挙 任期は昭和56年4月28日から昭和60年4月27日まで 定数30）

塩沢 昭	實原 裕	平田 友畝	酒井 米	前島 成光	熊谷 康登
片桐 芳朗	塩沢 文朗	中田 修	竹村 仁實	今村 馨	内山 照美
木下 登	西尾 保雄	原 康次	森本 藤登	中島 勝美	片桐七右衛門
松島 健次	原 広男	細田 直彦	平澤 與一	松下 茂	内田 篤
松江 良夫	林 昌平	片桐 勲	尾沢 貞夫	茂木立好則	伊原 悦雄

チ 昭和59年10月21日執行（補欠選挙 任期は昭和59年10月22日から昭和60年4月27日まで 定数1）

今村 八束

ツ 昭和59年12月1日執行（鼎町合併により鼎町議員が引き続いて市議会議員として在任 任期は昭和59年12月1日から昭和60年4月27日まで 定数52）

田原 慶一	武田 良人	中村 岸美	中島文三郎	木下 為輔	関島 一郎
五十君酒造大	高木 敏美	松沢アサエ	河村 弘久	水野佐知穂	村沢 延
吉川 義治	今村 淳	村沢 博	鷺見 知一	北沢 芳男	新井紀一郎
片桐 司郎	下田 武志	小林 雅夫	関島 秀夫		

テ 昭和60年4月21日執行（任期満了一般選挙 任期は昭和60年4月28日から平成元年4月27日まで 定数31）

田中 秀典	下平 一郎	小林 三郎	松島 年一	澤柳辨治郎	吉川 昌子
熊谷 康登	牧内 信臣	櫻井 俊夫	久保田 元	吉川 義治	武田 良人
今村 八束	原 広男	今村 淳	塩沢 文朗	片桐 司郎	西尾 保雄
塩沢 昭	實原 裕	平田 友畝	酒井 米	関島 一郎	内山 照美
森本 藤登	松下 茂	竹村 仁實	細田 直彦	尾沢 貞夫	平澤 與一
松嶋 健次					

ト 昭和63年10月16日執行（補欠選挙 任期は昭和63年10月17日から平成元年4月27日まで 定数2）

小林 利一 長谷部徳治

ナ 平成元年4月23日執行（任期満了一般選挙 任期は平成元年4月28日から平成5年4月27日まで 定数31）

西尾 喜好	吉村徳一郎	伊原 与一	佐藤 好英	中田 佳甫	吉川 昌子
牛山 重一	牧内 信臣	塩澤 俊彦	長谷部徳治	伊藤 芳之	小林 利一

関島 秀夫	下平 一郎	渡 淳	今村 淳	櫻井 俊夫	片桐 司郎
小林 三郎	松島 年一	澤柳辨治郎	久保田 元	吉川 義治	今村 八束
西尾 保雄	塩澤 昭	實原 裕	平田 友畝	内山 照美	竹村 仁實
松江 良夫					

ニ 平成4年10月18日執行（補欠選挙 任期は平成4年10月19日から平成5年4月27日まで 定数1）

井出 健介

又 平成5年4月25日執行（任期満了一般選挙 任期は平成5年4月28日から平成9年4月27日まで 定数31）

柄澤 紀春	菅沼 立男	吉川 四郎	實原 公男	熊谷 富夫	久保田平八郎
下平 政幸	木下 昭一	牛山 重一	牧内 信臣	吉川 昌子	塩澤 俊彦
長谷部徳治	西尾 喜好	吉村徳一郎	伊原 与一	佐藤 好英	中田 佳甫
伊藤 芳之	渡 淳	今村 淳	櫻井 俊夫	片桐 司郎	小林 利一
下平 一郎	松島 年一	澤柳辨治郎	吉川 義治	今村 八束	實原 裕
竹村 仁實					

ネ 平成5年8月1日執行（上郷町編入合併に伴う増員選挙 任期は平成5年8月2日から平成9年4月27日まで 定数5）

中田 裕康 井坪 隆 岩崎 和男 岡島 豊 大坪 勇

ノ 平成8年10月20日執行（補欠選挙 任期は平成8年10月21日から平成9年4月27日まで 定数1）

矢澤 芳文

ハ 平成9年4月20日執行（任期満了一般選挙 任期は平成9年4月28日から平成13年4月27日まで 定数31）

佐藤久美子	小池 清	清水 可晴	佐々木重光	原 勉	中島武津雄
上澤 義一	荒木 興利	大坪 勇	牛山 重一	牧内 信臣	矢澤 芳文
井坪 隆	岩崎 和男	林 幸次	渡 淳	熊谷 富夫	久保田平八郎
下平 政幸	木下 昭一	西尾 喜好	柄澤 紀春	菅沼 立男	實原 公男
吉村徳一郎	佐藤 好英	中田 佳甫	小林 利一	今村 八束	片桐 司郎
竹村 仁實					

ヒ 平成12年10月15日執行（補欠選挙 任期は平成12年10月16日から平成13年4月27日まで 定数1）

原 和世

フ 平成13年4月22日執行（任期満了一般選挙 任期は平成13年4月28日から平成17年4月27日まで 定数31）

木下 容子	下平 勝熙	伊壺 敏子	大谷 恵子	湯澤 宗保	森本美保子
村松まり子	牛山満智子	清水 可晴	小池 清	牛山 重一	牧内 信臣
原 和世	原 勉	林 幸次	渡 淳	久保田平八郎	柄澤 紀春
菅沼 立男	中島武津雄	上澤 義一	佐々木重光	荒木 興利	井坪 隆
岩崎 和男	矢澤 芳文	熊谷 富夫	下平 政幸	木下 昭一	西尾 喜好
小林 利一					

ヘ 平成16年10月24日執行（補欠選挙 任期は平成16年10月25日から平成17年4月27日まで 定数2）

後藤 荘一 木下 克志

ホ 平成17年4月24日執行（任期満了一般選挙 任期は平成17年4月28日から平成21年4月27日まで 定数27）

清水 勇	代田 剛嗣	新井信一郎	内山 要子	吉川 秋利	伊藤 清春
永井 一英	木下 容子	下平 勝熙	後藤 荘一	木下 克志	湯澤 宗保
森本美保子	柄澤 紀春	村松まり子	林 幸次	清水 可晴	伊壺 敏子
原 和世	原 勉	中島武津雄	上澤 義一	佐々木重光	矢澤 芳文
岩崎 和男	熊谷 富夫	牧内 信臣			

マ 平成17年10月30日執行（上村及び南信濃村の編入合併に伴う増員選挙 任期は平成17年10月31日から平成21年4月27日まで 定数2）

山崎 紀男 後藤 修三

ミ 平成21年4月19日執行（任期満了一般選挙 任期は平成21年4月28日から平成25年4月27日まで 定数23に減少）

湯澤 啓次	湊 猛	清水 勇	吉川 秋利	永井 一英	福沢 清
内田 雄一	牛山満智子	新井信一郎	木下 克志	木下 容子	下平 勝熙
村松まり子	森本美保子	後藤 荘一	伊壺 敏子	中島武津雄	上澤 義一
清水 可晴	林 幸次	井坪 隆	原 和世	原 勉	

ム 平成25年4月21日執行（任期満了一般選挙 任期は平成25年4月28日から平成29年4月27日まで 定数23）

竹村 圭史	木下 徳康	熊谷 泰人	湯澤 啓次	山崎 昌伸	森本 政人
古川 仁	小倉 高広	湊 猛	新井信一郎	清水 勇	吉川 秋利
永井 一英	木下 容子	福沢 清	後藤 荘一	木下 克志	中島武津雄
村松まり子	林 幸次	清水 可晴	井坪 隆	原 和世	

メ 平成29年4月16日執行（任期満了一般選挙 任期は平成29年4月28日から平成33年4月27日\*  
日まで 定数23）  
（平成33年は2021年、令和3年）

清水優一郎	岡田 倫英	塚平 一成	竹村 圭史	小林 真一	福澤 克憲
古川 仁	木下 徳康	山崎 昌伸	熊谷 泰人	湯澤 啓次	永井 一英
福沢 清	木下 容子	後藤 荘一	湊 猛	新井信一郎	清水 勇
吉川 秋利	木下 克志	村松まり子	井坪 隆	原 和世	

モ 令和3年4月25日執行（任期満了一般選挙 任期は令和3年4月28日から令和7年4月27日まで 定数23）

小平 彰	下平 恒男	橋爪 重人	西森 六三	宮脇 邦彦	関島 百合
市瀬 芳明	筒井 誠逸	清水優一郎	岡田 倫英	福澤 克憲	竹村 圭史
小林 真一	佐々木博子	古川 仁	木下 徳康	山崎 昌伸	熊谷 泰人
新井信一郎	清水 勇	永井 一英	井坪 隆	原 和世	

ヤ 令和5年3月31日、新井信一郎議員が令和5年4月9日執行の長野県議会議員一般選挙（飯田市下伊那郡選挙区）への立候補により辞職

ユ 令和6年10月20日執行（補欠選挙 任期は令和6年10月21日から令和7年4月27日まで 定数1）

長谷部春生

ヨ 令和7年4月20日執行（任期満了一般選挙（無投票） 任期は令和7年4月28日から令和11年4月27日まで 定数23）

大平 雲龍	水月 レイ	森本 紘司	正木 利幸	岡本 恒和	岡村 弘子
野崎 直仁	遠山 雄	片町 元彦	松岡 秀治	長谷部春生	佐々木博子
小平 彰	宮脇 邦彦	市瀬 芳明	関島 百合	福澤 克憲	竹村 圭史
清水 勇	下平 恒男	清水優一郎	小林 真一	古川 仁	

3 1年間の記録

(1) 付議事件及び議決結果一覧表

① 市長提出議案

事件番号	事 件 名	上程日	議決日	議決結果
議案第1号	教育長の任命について	7.2.27	7.2.27	同意
議案第2号	公平委員会の委員の選任について	7.2.27	7.2.27	同意
議案第3号	人権擁護委員の候補者の推薦につき意見を求めることについて	7.2.27	7.2.27	同意
議案第4号	飯田市南部財産区管理委員の選任について	7.2.27	7.2.27	同意
議案第5号	飯田市長野原財産区管理委員の選任について	7.2.27	7.2.27	同意
議案第6号	飯田市時又財産区管理委員の選任について	7.2.27	7.2.27	同意
議案第7号	飯田市桐林財産区管理委員の選任について	7.2.27	7.2.27	同意
議案第8号	飯田市上川路財産区管理委員の選任について	7.2.27	7.2.27	同意
議案第9号	刑法等の一部を改正する法律の施行に伴う関係条例の整理に関する条例の制定について	7.2.27	7.3.21	可決
議案第10号	飯田市職員の給与に関する条例等の一部を改正する条例の制定について	7.2.27	7.3.21	可決
議案第11号	飯田市職員の勤務時間及び休暇等に関する条例の一部を改正する条例の制定について	7.2.27	7.3.21	可決
議案第12号	資金積立基金条例の一部を改正する条例の制定について	7.2.27	7.3.21	可決
議案第13号	飯田市手数料条例の一部を改正する条例の制定について	7.2.27	7.3.21	可決
議案第14号	飯田市税条例及び飯田市都市計画税条例の一部を改正する条例の制定について	7.2.27	7.3.21	可決
議案第15号	飯田市中心間地域における地域振興住宅の運営に関する条例の一部を改正する条例の制定について	7.2.27	7.3.21	可決
議案第16号	飯田市個人番号の利用等に関する条例の一部を改正する条例の制定について	7.2.27	7.3.21	可決
議案第17号	福祉委員条例の一部を改正する条例の制定について	7.2.27	7.3.21	可決
議案第18号	飯田市犯罪被害者等支援条例の制定について	7.2.27	7.3.21	可決
議案第19号	飯田市家庭的保育事業等の設備及び運営に関する基準を定める条例の一部を改正する条例の制定について	7.2.27	7.3.21	可決
議案第20号	飯田市特定教育・保育施設及び特定地域型保育事業の運営に関する基準を定める条例の一部を改正する条例の制定について	7.2.27	7.3.21	可決
議案第21号	飯田市乳児等通園支援事業の設備及び運営に関する基準を定める条例の制定について	7.2.27	7.3.21	可決

事件番号	事 件 名	上程日	議決日	議決結果
議案第22号	飯田市国民健康保険診療所条例の一部を改正する条例の制定について	7. 2. 27	7. 3. 21	可決
議案第23号	地方卸売市場条例の一部を改正する条例の制定について	7. 2. 27	7. 3. 21	可決
議案第24号	飯田市南信濃温泉スタンド条例を廃止する条例の制定について	7. 2. 27	7. 3. 21	可決
議案第25号	飯田市非常勤消防団員に係る退職報償金の支給に関する条例の一部を改正する条例の制定について	7. 2. 27	7. 3. 21	可決
議案第26号	飯田市水道事業の設置等に関する条例の一部を改正する条例の制定について	7. 2. 27	7. 3. 21	可決
議案第27号	飯田市水道局企業職員の給与の種類及び基準を定める条例の一部を改正する条例の制定について	7. 2. 27	7. 3. 21	可決
議案第28号	飯田市技術上の監督業務を行わせる水道の布設工事等の基準を定める条例の一部を改正する条例の一部を改正する条例の制定について	7. 2. 27	7. 3. 21	可決
議案第29号	天龍村との間において締結した定住自立圏形成協定の一部を変更する協定を締結することについて	7. 2. 27	7. 2. 27	可決
議案第30号	泰阜村との間において締結した定住自立圏形成協定の一部を変更する協定を締結することについて	7. 2. 27	7. 2. 27	可決
議案第31号	損害賠償の額を定めることについて	7. 2. 27	7. 3. 21	可決
議案第32号	損害賠償の額を定めることについて	7. 2. 27	7. 3. 21	可決
議案第33号	公の施設の指定管理者の指定について（飯田市道の駅遠山郷）	7. 2. 27	7. 3. 21	可決
議案第34号	工事請負契約の一部変更について（道の駅遠山郷改修建築工事）	7. 2. 27	7. 3. 21	可決
議案第35号	工事請負契約の一部変更について（道の駅遠山郷改修機械設備工事）	7. 2. 27	7. 3. 21	可決
議案第36号	工事請負契約の一部変更について（過年発生土木施設補助災害復旧事業橋りょう架設工事）	7. 2. 27	7. 3. 21	可決
議案第37号	工事請負契約の一部変更について（土木施設補助災害復旧事業道路災害復旧工事）	7. 2. 27	7. 3. 21	可決
議案第38号	工事請負契約の一部変更について（土木施設補助災害復旧事業道路災害復旧工事）	7. 2. 27	7. 3. 21	可決
議案第39号	工事請負契約の締結について（過年発生土木施設補助災害復旧事業橋梁（りょう）災害復旧工事）	7. 2. 27	7. 3. 21	可決
議案第40号	市道路線の認定について	7. 2. 27	7. 3. 21	可決
議案第41号	市道路線の廃止について	7. 2. 27	7. 3. 21	可決
議案第42号	市道路線の変更について	7. 2. 27	7. 3. 21	可決
議案第43号	令和6年度飯田市一般会計補正予算（第7号）案	7. 2. 27	7. 3. 21	可決
議案第44号	令和6年度飯田市国民健康保険特別会計補正予算（第3号）案	7. 2. 27	7. 3. 21	可決

事件番号	事 件 名	上程日	議決日	議決結果
議案第45号	令和6年度飯田市介護保険特別会計補正予算（第3号）案	7.2.27	7.3.21	可決
議案第46号	令和6年度飯田市病院事業会計補正予算（第3号）案	7.2.27	7.3.21	可決
議案第47号	令和6年度飯田市水道事業会計補正予算（第4号）案	7.2.27	7.3.21	可決
議案第48号	令和6年度飯田市各財産区会計補正予算（第1号）案	7.2.27	7.3.21	可決
議案第49号	令和7年度飯田市一般会計予算（案）	7.2.27	7.3.21	可決
議案第50号	令和7年度飯田市国民健康保険特別会計予算（案）	7.2.27	7.3.21	可決
議案第51号	令和7年度飯田市後期高齢者医療特別会計予算（案）	7.2.27	7.3.21	可決
議案第52号	令和7年度飯田市介護保険特別会計予算（案）	7.2.27	7.3.21	可決
議案第53号	令和7年度飯田市地方卸売市場事業特別会計予算（案）	7.2.27	7.3.21	可決
議案第54号	令和7年度飯田市駐車場事業特別会計予算（案）	7.2.27	7.3.21	可決
議案第55号	令和7年度飯田市墓地事業特別会計予算（案）	7.2.27	7.3.21	可決
議案第56号	令和7年度飯田市介護老人保健施設事業特別会計予算（案）	7.2.27	7.3.21	可決
議案第57号	令和7年度飯田市ケーブルテレビ放送事業特別会計予算（案）	7.2.27	7.3.21	可決
議案第58号	令和7年度飯田市病院事業会計予算（案）	7.2.27	7.3.21	可決
議案第59号	令和7年度飯田市水道事業会計予算（案）	7.2.27	7.3.21	可決
議案第60号	令和7年度飯田市下水道事業会計予算（案）	7.2.27	7.3.21	可決
議案第61号	令和7年度飯田市各財産区会計予算（案）	7.2.27	7.3.21	可決
議案第62号	飯田市消防団員等公務災害補償条例の一部を改正する条例の制定について	7.3.5	7.3.21	可決
議案第63号	飯田市松尾地区財産区管理委員の選任について	7.5.13	7.5.13	同意
議案第64号	飯田市駄科財産区管理委員の選任について	7.5.13	7.5.13	同意
議案第65号	飯田市監査委員の選任について	7.5.13	7.5.13	同意
議案第66号	飯田市特別職の職員で非常勤の者の報酬に関する条例の一部を改正する条例の制定について	7.6.5	7.6.27	可決
議案第67号	飯田市税条例の一部を改正する条例の制定について	7.6.5	7.6.27	可決

事件番号	事 件 名	上程日	議決日	議決結果
議案第68号	飯田市児童館条例の一部を改正する条例の制定について	7.6.5	7.6.27	可決
議案第69号	権利の放棄について（国民健康保険保険給付の返還金に係る債権）	7.6.5	7.6.27	可決
議案第70号	市道路線の認定について	7.6.5	7.6.27	可決
議案第71号	市道路線の変更について	7.6.5	7.6.27	可決
議案第72号	工事請負契約の一部変更について（道路メンテナンス事業橋梁（りょう）長寿命化修繕工事）	7.6.5	7.6.27	可決
議案第73号	令和7年度飯田市一般会計補正予算（第1号）案	7.6.5	7.6.27	可決
議案第74号	令和7年度飯田市病院事業会計補正予算（第1号）案	7.6.5	7.6.27	可決
議案第75号	令和7年度飯田市一般会計補正予算（第2号）案	7.6.13	7.6.27	可決
議案第76号	教育委員会の委員の任命について	7.9.2	7.9.2	同意
議案第77号	人権擁護委員の候補者の推薦につき意見を求めることについて	7.9.2	7.9.2	同意
議案第78号	飯田市千代財産区管理委員の選任について	7.9.2	7.9.2	同意
議案第79号	職員の育児休業等に関する条例の一部を改正する条例の制定について	7.9.2	7.9.29	可決
議案第80号	飯田市職員の勤務時間及び休暇等に関する条例の一部を改正する条例の制定について	7.9.2	7.9.29	可決
議案第81号	飯田市個人番号の利用等に関する条例の一部を改正する条例の制定について	7.9.2	7.9.29	可決
議案第82号	飯田市保育の実施に関する条例等の一部を改正する条例の制定について	7.9.2	7.9.29	可決
議案第83号	飯田市福祉医療費給付金条例の一部を改正する条例の制定について	7.9.2	7.9.29	可決
議案第84号	飯田市地区計画の区域内における建築物の制限に関する条例の一部を改正する条例の制定について	7.9.2	7.9.29	可決
議案第85号	飯田市営住宅等条例の一部を改正する条例の制定について	7.9.2	7.9.29	可決
議案第86号	飯田市水道局企業職員の給与の種類及び基準を定める条例の一部を改正する条例の制定について	7.9.2	7.9.29	可決
議案第87号	飯田市水道条例等の一部を改正する条例の制定について	7.9.2	7.9.29	可決
議案第88号	飯田市放課後児童健全育成事業の設備及び運営に関する基準を定める条例の一部を改正する条例の制定について	7.9.2	7.9.29	可決
議案第89号	飯田市議会議員及び飯田市長の選挙における選挙運動用ポスターの作成の公営に関する条例及び飯田市議会議員及び飯田市長の選挙におけるビラの作成の公費負担に関する条例の一部を改正する条例の制定について	7.9.2	7.9.29	可決

事件番号	事 件 名	上程日	議決日	議決結果
議案第90号	財産の取得について（中型路線バス車両）	7.9.2	7.9.29	可決
議案第91号	工事請負契約の締結について（林道施設PCB廃棄物処理促進対策工事）	7.9.2	7.9.29	可決
議案第92号	財産の処分について	7.9.2	7.9.29	可決
議案第93号	財産の取得について（排水ポンプ設備）	7.9.2	7.9.29	可決
議案第94号	財産の取得について（凍結防止剤散布車）	7.9.2	7.9.29	可決
議案第95号	工事請負契約の一部変更について（過年発生土木施設補助災害復旧事業橋梁（りょう）災害復旧工事）	7.9.2	7.9.29	可決
議案第96号	令和6年度飯田市水道事業剰余金の処分について	7.9.2	7.9.29	可決
議案第97号	令和6年度飯田市下水道事業剰余金の処分について	7.9.2	7.9.29	可決
議案第98号	工事請負契約の締結について（学校施設環境改善交付金事業上郷小学校長寿命化改良建築工事）	7.9.2	7.9.29	可決
議案第99号	工事請負契約の締結について（学校施設環境改善交付金事業上郷小学校長寿命化改良電気設備工事）	7.9.2	7.9.29	可決
議案第100号	令和7年度飯田市一般会計補正予算（第3号）案	7.9.2	7.9.29	可決
議案第101号	令和7年度飯田市国民健康保険特別会計補正予算（第1号）案	7.9.2	7.9.29	可決
議案第102号	令和7年度飯田市介護保険特別会計補正予算（第1号）案	7.9.2	7.9.29	可決
議案第103号	令和7年度飯田市地方卸売市場事業特別会計補正予算（第1号）案	7.9.2	7.9.29	可決
議案第104号	令和7年度飯田市病院事業会計補正予算（第2号）案	7.9.2	7.9.29	可決
議案第105号	令和7年度飯田市下水道事業会計補正予算（第1号）案	7.9.2	7.9.29	可決
議案第106号	令和6年度飯田市一般会計歳入歳出決算認定について	7.9.2	7.9.29	認定
議案第107号	令和6年度飯田市国民健康保険特別会計歳入歳出決算認定について	7.9.2	7.9.29	認定
議案第108号	令和6年度飯田市後期高齢者医療特別会計歳入歳出決算認定について	7.9.2	7.9.29	認定
議案第109号	令和6年度飯田市介護保険特別会計歳入歳出決算認定について	7.9.2	7.9.29	認定
議案第110号	令和6年度飯田市地方卸売市場事業特別会計歳入歳出決算認定について	7.9.2	7.9.29	認定

事件番号	事 件 名	上程日	議決日	議決結果
議案第111号	令和6年度飯田市駐車場事業特別会計歳入歳出決算認定について	7.9.2	7.9.29	認定
議案第112号	令和6年度飯田市墓地事業特別会計歳入歳出決算認定について	7.9.2	7.9.29	認定
議案第113号	令和6年度飯田市介護老人保健施設事業特別会計歳入歳出決算認定について	7.9.2	7.9.29	認定
議案第114号	令和6年度飯田市ケーブルテレビ放送事業特別会計歳入歳出決算認定について	7.9.2	7.9.29	認定
議案第115号	令和6年度飯田市病院事業決算認定について	7.9.2	7.9.29	認定
議案第116号	令和6年度飯田市水道事業決算認定について	7.9.2	7.9.29	認定
議案第117号	令和6年度飯田市下水道事業決算認定について	7.9.2	7.9.29	認定
議案第118号	令和6年度飯田市各財産区会計歳入歳出決算認定について	7.9.2	7.9.29	認定
議案第119号	飯田市中心間地域における地域振興住宅の運営に関する条例の一部を改正する条例の制定について	7.9.29	7.9.29	可決
議案第120号	損害賠償の額を定めることについて	7.9.29	7.9.29	可決
議案第121号	土地の取得について	7.9.29	7.9.29	可決
議案第122号	令和7年度飯田市一般会計補正予算（第4号）案	7.9.29	7.9.29	可決
議案第123号	飯田市手数料条例の一部を改正する条例の制定について	7.11.26	7.12.19	可決
議案第124号	飯田市有線テレビジョン放送施設条例及び飯田市遠山郷有線テレビジョン放送施設条例を廃止する条例の制定について	7.11.26	7.12.19	可決
議案第125号	飯田市上村コミュニティセンター条例の一部を改正する条例の制定について	7.11.26	7.12.19	可決
議案第126号	飯田市印鑑の登録及び証明に関する条例の一部を改正する条例の制定について	7.11.26	7.12.19	可決
議案第127号	飯田市中心企業振興資金あつせん審議会条例の一部を改正する条例の制定について	7.11.26	7.12.19	可決
議案第128号	飯田市長野原財産区管理会条例等の一部を改正する条例の制定について	7.11.26	7.12.19	可決
議案第129号	飯田市火入れに関する条例の一部を改正する条例の制定について	7.11.26	7.12.19	可決
議案第130号	飯田市天龍峡温泉交流館条例の一部を改正する条例の制定について	7.11.26	7.12.19	可決
議案第131号	飯田市消防団員の定員、任免、給与、服務等に関する条例の制定について	7.11.26	7.12.19	可決

事件番号	事 件 名	上程日	議決日	議決結果
議案第132号	公の施設の指定管理者の指定について（飯田市デイサービスセンター）	7. 11. 26	7. 12. 19	可決
議案第133号	公の施設の指定管理者の指定について（飯田市地域資源総合管理施設）	7. 11. 26	7. 12. 19	可決
議案第134号	公の施設の指定管理者の指定について（飯田市大平宿生活原体験施設）	7. 11. 26	7. 12. 19	可決
議案第135号	公の施設の指定管理者の指定について（飯田市上村若者センター等）	7. 11. 26	7. 12. 19	可決
議案第136号	公の施設の指定管理者の指定について（市営住宅等及び共同施設等）	7. 11. 26	7. 12. 19	可決
議案第137号	市道路線の認定について	7. 11. 26	7. 12. 19	可決
議案第138号	市道路線の廃止について	7. 11. 26	7. 12. 19	可決
議案第139号	市道路線の変更について	7. 11. 26	7. 12. 19	可決
議案第140号	工事請負契約の一部変更について（道路メンテナンス事業橋梁（りょう）長寿命化修繕工事）	7. 11. 26	7. 12. 19	可決
議案第141号	損害賠償の額を定めることについて	7. 11. 26	7. 12. 19	可決
議案第142号	公の施設の指定管理者の指定について（飯田市総合運動場等）	7. 11. 26	7. 12. 19	可決
議案第143号	公の施設の指定管理者の指定について（飯田市上村山村文化資源保存伝習施設）	7. 11. 26	7. 12. 19	可決
議案第144号	令和7年度飯田市一般会計補正予算（第5号）案	7. 11. 26	7. 12. 19	可決
議案第145号	令和7年度飯田市国民健康保険特別会計補正予算（第2号）案	7. 11. 26	7. 12. 19	可決
議案第146号	令和7年度飯田市後期高齢者医療特別会計補正予算（第1号）案	7. 11. 26	7. 12. 19	可決
議案第147号	令和7年度飯田市介護老人保健施設事業特別会計補正予算（第1号）案	7. 11. 26	7. 12. 19	可決
議案第148号	令和7年度飯田市病院事業会計補正予算（第3号）案	7. 11. 26	7. 12. 19	可決
議案第149号	令和7年度飯田市水道事業会計補正予算（第1号）案	7. 11. 26	7. 12. 19	可決
議案第150号	令和7年度飯田市下水道事業会計補正予算（第2号）案	7. 11. 26	7. 12. 19	可決
議案第151号	飯田市職員の給与に関する条例等の一部を改正する条例の制定について	7. 12. 5	7. 12. 19	可決
議案第152号	飯田市職員等の旅費に関する条例の制定について	7. 12. 5	7. 12. 19	可決
議案第153号	飯田市特別職の旅費に関する条例及び証人、参考人等の実費弁償等に関する条例の一部を改正する条例の制定について	7. 12. 5	7. 12. 19	可決
議案第154号	令和7年度飯田市一般会計補正予算（第6号）案	7. 12. 5	7. 12. 19	可決

事件番号	事 件 名	上程日	議決日	議決結果
議案第155号	令和7年度飯田市国民健康保険特別会計補正予算（第3号）案	7.12.5	7.12.19	可決
議案第156号	令和7年度飯田市後期高齢者医療特別会計補正予算（第2号）案	7.12.5	7.12.19	可決
議案第157号	令和7年度飯田市介護保険特別会計補正予算（第2号）案	7.12.5	7.12.19	可決
議案第158号	令和7年度飯田市地方卸売市場事業特別会計補正予算（第2号）案	7.12.5	7.12.19	可決
議案第159号	令和7年度飯田市介護老人保健施設事業特別会計補正予算（第2号）案	7.12.5	7.12.19	可決
議案第160号	令和7年度飯田市病院事業会計補正予算（第4号）案	7.12.5	7.12.19	可決
議案第161号	令和7年度飯田市水道事業会計補正予算（第2号）案	7.12.5	7.12.19	可決
議案第162号	令和7年度飯田市下水道事業会計補正予算（第3号）案	7.12.5	7.12.19	可決
議案第163号	令和7年度飯田市一般会計補正予算（第7号）案	7.12.19	7.12.19	可決

② 議会提出議案

事件番号	事 件 名	上程日	議決日	議決結果
発委第1号	飯田市議会会議規則の一部を改正する規則の制定について	7.3.21	7.3.21	可決
発委第2号	飯田市議会個人情報の保護に関する条例の一部を改正する条例の制定について	7.3.21	7.3.21	可決
発委第3号	飯田市議会議員の請負の状況の公表に関する条例の制定について	7.3.21	7.3.21	可決
発委第4号	令和7年度飯田市病院事業会計予算(案)に対する附帯決議について	7.3.21	7.3.21	可決
発委第5号	更なる少人数学級推進及び教員増のための教育予算確保並びに義務教育費国庫負担制度の堅持及び拡充を求める意見書の提出について	7.6.27	7.6.27	可決
発委第6号	地方財政の充実・強化を求める意見書の提出について	7.9.29	7.9.29	可決
発委第7号	市民が安心して暮らせるための移動手段について、更に検討を進めることを求める要望書の提出について	7.12.19	7.12.19	可決
発委第8号	診療報酬・介護報酬及び障害福祉サービス等報酬の改定等を求める意見書の提出について	7.12.19	7.12.19	可決

③ 報告議案

事件番号	事 件 名	上程日	議決日	議決結果
報告第1号	専決処分の報告について(損害賠償の額を定めることについて)	7.2.27		
報告第2号	専決処分の承認を求めることについて(飯田市税条例の一部を改正する条例の制定について)	7.5.12	7.5.12	承認
報告第3号	専決処分の承認を求めることについて(飯田市都市計画税条例の一部を改正する条例の制定について)	7.5.12	7.5.12	承認
報告第4号	専決処分の承認を求めることについて(飯田市国民健康保険税条例の一部を改正する条例の制定について)	7.5.12	7.5.12	承認
報告第5号	専決処分の承認を求めることについて(令和6年度飯田市一般会計補正予算(第8号))	7.5.12	7.5.12	承認
報告第6号	専決処分の承認を求めることについて(令和6年度飯田市国民健康保険特別会計補正予算(第4号))	7.5.12	7.5.12	承認
報告第7号	専決処分の承認を求めることについて(令和6年度飯田市地方卸売市場事業特別会計補正予算(第1号))	7.5.12	7.5.12	承認
報告第8号	専決処分の承認を求めることについて(令和6年度飯田市駐車場事業特別会計補正予算(第2号))	7.5.12	7.5.12	承認
報告第9号	専決処分の承認を求めることについて(令和6年度飯田市ケーブルテレビ放送事業特別会計補正予算(第1号))	7.5.12	7.5.12	承認

事件番号	事 件 名	上程日	議決日	議決結果
報告第10号	専決処分の報告について（損害賠償の額を定めることについて）	7.5.12	7.5.12	
報告第11号	専決処分の報告について（損害賠償の額を定めることについて）	7.5.12	7.5.12	
報告第12号	飯田市基本計画の実施状況の概要について	7.6.5		
報告第13号	権利の放棄について（源泉所得税の徴収に係る債権）	7.6.5		
報告第14号	権利の放棄について（病院料金に係る債権及び源泉所得税の徴収に係る債権）	7.6.5		
報告第15号	権利の放棄について（水道料金に係る債権及び源泉所得税の徴収に係る債権）	7.6.5		
報告第16号	令和6年度飯田市一般会計繰越明許費繰越計算書の報告について	7.6.5		
報告第17号	令和6年度飯田市病院事業会計予算繰越計算書の報告について	7.6.5		
報告第18号	令和6年度飯田市水道事業会計予算繰越計算書の報告について	7.6.5		
報告第19号	令和6年度飯田市下水道事業会計予算繰越計算書の報告について	7.6.5		
報告第20号	飯田市土地開発公社の経営状況を説明する書類の提出について	7.6.5		
報告第21号	飯田清掃株式会社の経営状況を説明する書類の提出について	7.6.5		
報告第22号	株式会社飯田健康温泉の経営状況を説明する書類の提出について	7.6.5		
報告第23号	一般財団法人飯田勤労者共済会の経営状況を説明する書類の提出について	7.6.5		
報告第24号	専決処分の報告について（損害賠償の額を定めることについて）	7.9.2		
報告第25号	健全化判断比率及び資金不足比率の報告について	7.9.2		
報告第26号	専決処分の報告について（損害賠償の額を定めることについて）	7.11.26		
報告第27号	専決処分の報告について（損害賠償の額を定めることについて）	7.11.26		

## (2) 議会において執行した選挙・選任等

(令和7年1月から令和7年12月まで)

会期	年月日	選挙・選任の内容
第1回定例会	R7.2.27	・教育長の任命
		・公平委員会の委員の選任
		・人権擁護委員の候補者の推薦
		・飯田市南部財産区管理委員の選任
		・飯田市長野原財産区管理委員の選任
		・飯田市時又財産区管理委員の選任
		・飯田市桐林財産区管理委員の選任
第1回臨時会	R7.5.13	・飯田市松尾地区財産区管理委員の選任
		・飯田市駄科財産区管理委員の選任
		・飯田市監査委員の選任
第3回定例会	R7.9.2	・教育委員会の委員の任命
		・人権擁護委員の候補者の推薦
		・飯田市千代財産区管理委員の選任

## (3) 委員会活動開催状況

(令和7年1月から令和7年12月まで)

	常任委員会							特別委員会	議会運営委員会	議会改革推進会議	広報広聴委員会	全員協議会
	総務委員会	社会文教委員会	産業建設委員会	予算決算委員会				リニア推進特別委員会				
				全体会	総務分科会	社会文教分科会	産業建設分科会					
委員会	9	9	9	11	8	10	10	5	19	6	14	-
協議会	8	18	7	-	-	-	-	-	-	-	-	10
計	17	27	16	11	8	10	10	5	19	6	14	10

## (4)請願陳情

## ①請願議決結果一覧表

所管	受理番号	要旨	上程 年月日	議決 年月日	議決 結果
産建	7請願 第1号	国に対し、最低賃金法の改正と中小企業支援の 拡充を求める意見書を提出願いたい	R7. 2. 27	R7. 3. 21	不採択
社文	7請願 第2号	国に対し「さらなる少人数学級推進と教員増の ための教育予算確保」・「義務教育費国庫負担 制度の堅持・拡充」を求める意見書の提出を願 いたい。	R7. 6. 5	R7. 6. 27	採択
総務	7請願 第3号	政府・関係省庁に対し、「地方財政の充実・強 化を求める意見書」を提出願いたい。	R7. 9. 2	R7. 9. 29	採択

## ②陳情議決結果一覧表

所管	受理番号	要旨	上程 年月日	議決 年月日	議決 結果
委員 会付 託なし	7陳情 第1号	市民と共に「いじめ」「自殺」「児童虐 待」「犯罪」等を減らす取り組みとして、 次の事項を求める。 1 自治体が、その地域の「治安の状態」 を数値化し、図表をつくり、自治体のホーム ページや機関誌等で公表し、市民と共有 すること。 2 「1で公表した数値を減らす方法」を 考え、「数値目標」を決め、「実施計画」 を立て、公表し、市民と協力して、それを 行うこと。			審議なし
委員 会付 託なし	7陳情 第2号	議会の審議において、どの議員が、どの議 案に「賛成」「反対」「棄権」したかが分 かるような図をつくり、自治体のホーム ページで公開することを求める。			審議なし
委員 会付 託なし	7陳情 第3号	国に対し、防衛力強化の一環として、対外 的情報省を設立し、横田基地空域の航空管 制の返還を求める意見書を提出願いたい。			審議なし
委員 会付 託なし	7陳情 第4号	国に対し、食糧の備蓄を大幅に増やし、食 糧備蓄の予算は防衛関連予算から出すこと を求める意見書を提出願いたい。			審議なし
社文	7陳情 第5号1	市に対し、高齢者のタクシーの利用助成をし てもらいたい。	R7. 9. 2	R7. 12. 19	不採択
産建	7陳情 第5号2	市に対し、高齢者のバス運賃を飯田市内一律 100円にしてもらいたい。また、免許返納後の 移動支援としてタクシーの利用助成をしてもら いたい。	R7. 9. 2	R7. 12. 19	不採択
産建	7陳情 第6号	インボイス制度の廃止をめざして事業者の 負担を軽減する経過措置を継続するよう求 める意見書を国に提出願いたい。	R7. 9. 2	R7. 9. 29	不採択
委員 会付 託なし	7陳情 第7号	アップロードの歩道にある植栽を撤去し 歩道の拡幅を願いたい			審議なし
社文	7陳情 第8号	国に対し、診療報酬・介護報酬及び障害福 祉サービス等報酬を10%以上引き上げるよ う求める意見書を提出願いたい	R7. 11. 26	R7. 12. 19	不採択

所管	受理番号	要旨	上程 年月日	議決 年月日	議決 結果
委員会付託なし	7陳情第9号	国に対し、臓器移植に関わる不正な臓器取引や移植目的の渡航等を防止し、適切な臓器移植が行われる環境整備を求める			審議なし
委員会付託なし	7陳情第10号	国に対し、国民の主食であるコメの価格を統制することを求める意見書の提出を願いたい			審議なし

No.	氏名	項目・要旨
1	清水優一郎 (総務委員会)	<p>1 持続可能な住民自治について</p> <p>(1) 住民自治に関する課題認識と方向性について</p> <p>① 組合加入者が地域における役や作業等を担う中で、未加入者への不公平感が強まっている。組合という組織の必要性は認識しながらも、組合への加入未加入にかかわらず、隣近所に住む者同士として、まずは「より良い地域コミュニティのための住民同士のつながりづくり」の視点が必要と考えるがどうか</p> <p>② 転入者に対して、市とまちづくり委員会が情報共有し、連携を強化する必要があると考えるがどうか</p> <p>③ 地域作業への参加と負担感に関して、草刈り作業といった集落維持のための共同作業をどう分担するかが課題となっており、各地区の住民組織によるパワーアップ地域交付金を活用したインセンティブの検討が必要と捉えているがその考えは</p> <p>(2) 消防団に関する課題認識と方向性について</p> <p>① 少子高齢化が進行する中で、若い世代の消防団員確保が難しくなっている。第13次消防力(消防団)整備計画策定に向けて、基本団員を確保するための定年年齢の適正化について早急に検討する必要があると捉えているがどうか</p> <p>② 支援団員制度について、基本団員の負担軽減にも資する制度となるよう見直す必要があると考えるがどうか</p> <p>③ 消防団員としての活動に対する更なるインセンティブの拡充(出勤手当の対象とならない活動に対する地域ポイント付与の研究、消防団協力店舗の拡充等)により、活動への参加意欲の向上や家族の理解が得られやすくなると考えるがどうか</p> <p>(3) 飯田市赤十字奉仕団に関する課題認識と方向性について</p> <p>① 地域の安全・安心を担うことが期待される奉仕団の今後の在り方を考える上で、まちづくり委員会との連携は欠かせないと考えるがどうか</p> <p>② 防災活動・福祉活動などについて地域との協働関係が構築されるよう、関係部署の協力・支援が必要と考えるがどうか</p>

(5) 定例会の質問事項

① 令和7年飯田市議会第1回定例会一般質問通告表

令和7年3月4日、5日

No.	氏名	項目・要旨
1	小平 彰 (新政いいだ)	<p>1 飯田市の大規模事業について</p> <p>(1) リニア駅周辺整備事業の計画について</p> <p>① リニア開業予定が2034年以降となったが、駅周辺整備事業のスケジュールをどのように考えるか</p> <p>(2) 新文化会館建設事業について</p> <p>① 取組と現状は</p> <p>② 鼎文化センターの今後は</p> <p>(3) 観光施設に関する整備事業について</p> <p>① しらびそ高原周辺の整備は</p> <p>② そらさんぼ天龍峡周辺の整備は</p> <p>2 飯田市の歳入を増やすためには</p> <p>(1) 歳入を増やす要素をどのように考えるか</p> <p>① 賃上げによる所得増で歳入はどのくらい増えるか</p> <p>② 飯田市の企業数は</p> <p>ア 事業承継の状況は</p> <p>イ 事業承継対策・起業施策をどう考えるか</p> <p>③ 飯田市の歳入を増やす施策は</p> <p>ア 広告掲載はどのようなものがあるか、その実績は</p> <p>イ 歳入を得る施策は</p>
2	古川 仁 (日本共産党)	<p>1 市の教育について</p> <p>(1) 飯田学園構想について</p> <p>① 児童生徒数の減少や施設の老朽化への対応として、学校の適正な規模や学校施設の考え方を整理し、配置等「優先的に検討すべき学園」などを第2次方針に示すとある。市民から統廃合を懸念する声を聞くがどうか</p> <p>② 学園を立ち上げていくにあたっては「先生の負担が増える可能性がある」とあるが、どのようなことが想定されるか</p> <p>(2) 児童生徒の学力と不登校について</p> <p>① 市民から、児童生徒の学力が低下していると聞かすが、実態はどうか</p> <p>② 実態から見える課題は</p> <p>③ 近年、不登校の児童生徒が増えてきているが現状はどうか</p>

No.	氏 名	項 目 ・ 要 旨
	古 川 仁 (日本共産党)	<ul style="list-style-type: none"> <li>④ 授業に遅れがちな児童生徒が不登校につながると考えるがどうか</li> <li>⑤ 授業に遅れがちな児童生徒への対応は</li> </ul>
3	岡 田 倫 英 (会派きぼう)	<ul style="list-style-type: none"> <li>1 地方創生の取組について <ul style="list-style-type: none"> <li>(1) 地方創生に対応した10年間、人口減少抑止にどう取り組んできたか <ul style="list-style-type: none"> <li>① 地方創生に係る交付金の主な施策と活用状況は</li> <li>② 地方創生においては行政と地域の一体感が不足していたとの課題認識もあるが、市の取組はどうだったか</li> </ul> </li> <li>(2) 後期計画期間での考え方は <ul style="list-style-type: none"> <li>① 交流人口・関係人口を一層重視する考えはどうか</li> </ul> </li> </ul> </li> <li>2 回帰率向上に結びつくシビックプライドの醸成について <ul style="list-style-type: none"> <li>(1) 10代のシビックプライド醸成に向けた取組は <ul style="list-style-type: none"> <li>① 県外へ出る若者が「飯田はこのような地域だ」と紹介できるキーワードは整理、浸透しているか</li> <li>② 菱田春草など郷土が輩出した偉人の顕彰もシビックプライド醸成に寄与すると考えるがどうか</li> <li>③ 中学生と地域の関わりは <ul style="list-style-type: none"> <li>ア 飯田学園構想における「みらい創造科」を活用していく考えは</li> <li>イ 公民館をつなぎ役として地域活動へ呼び込む取組を強化してはどうか</li> </ul> </li> </ul> </li> <li>(2) 各地区の人口1%戦略を10代との関わりから組み立てていく考え方はどうか</li> </ul> </li> <li>3 道路陥没への対応について <ul style="list-style-type: none"> <li>(1) 埼玉県八潮市で起きた大規模な道路陥没事故を受けて国土交通省が全国の自治体に緊急点検を要請したと聞くと、どう対応するか</li> <li>(2) コンクリートの耐用年数は100年と言われるが、市内の下水道で最も早く整備した管は75年を過ぎている。あと20数年で更生完了の見通しは</li> <li>(3) 暗渠となっている雨水排水路の点検・対策は</li> </ul> </li> </ul>
4	福 澤 克 憲 (会派きぼう)	<ul style="list-style-type: none"> <li>1 国の地方財政計画、長期財政見通し等から見た飯田市予算の考え方について <ul style="list-style-type: none"> <li>(1) 国の地方財政計画、国の補正予算から見た飯田市予算の考え方は</li> <li>(2) 大規模事業の見通し(リニア関連事業、新文化会館建設事業等)からの長期財政見通しの修正の考え方は</li> <li>(3) 財政運営目標の指標となっている実質公債費比率(令和6・7年度(単年度))、ピーク年度の見込みは</li> </ul> </li> </ul>

No.	氏 名	項 目 ・ 要 旨
	福 澤 克 憲 ( 会 派 き ぼ う )	<p>(4) 今後の方向性は</p> <p>2 働くことを軸とする安心社会の実現に向けて</p> <p>(1) ワーク・ライフ・バランスの実現に向けて</p> <p>① 国の認定・県の認証制度の市内事業者の取得状況は</p> <p>② 認定・認証を受けた事業者を支援する市独自の制度資金、利子補給の活用状況は</p> <p>③ 県の認証制度「社員子育て応援宣言」と連携した取組は考えられないか</p> <p>④ 事業所訪問や実践型セミナー、個別相談、複数の事業所が合同して行う女性のキャリア教育等の取組状況は</p> <p>(2) 飯田市役所(事業主)としての取組と現状について</p> <p>① 職員のストレスチェックの状況は</p> <p>② 療養休暇(心の病)の状況は</p> <p>③ 人員確保の考え方は</p> <p>④ 今後の方向性は</p>
5	宮 脇 邦 彦 ( 公 明 党 )	<p>1 環境文化都市を加速させるために必要な視点について</p> <p>(1) サーキュラーエコノミー(循環経済)への転換をどう進めるか</p> <p>① サーキュラーエコノミーについての認識は</p> <p>② サーキュラーエコノミーについて、市民の理解をどう得ていくか</p> <p>③ いいだ未来デザイン2028後期計画の「基本目標4:自然と共に歩む豊かな循環社会をつくる」でいう資源循環への働きかけとは、具体的にどのようなことを指すか</p> <p>④ エシカル消費の具体的な理解度向上への取組は</p> <p>⑤ 水平リサイクルの取組をどう捉えているか</p> <p>ア 「21'いいだ環境プラン第6次改訂版」にあるペットボトルの水平リサイクル実施をどう進めるか</p> <p>⑥ サーキュラーエコノミーへの転換について、市長の見解は</p> <p>2 GIGAスクール構想の下で整備された学習用端末の更新について</p> <p>(1) 端末の更新における課題認識について</p> <p>① 端末更新に対する教育長の認識は</p> <p>② 現状把握及び今後の対応について</p> <p>ア 市内小中学校の更新に該当する端末数は</p> <p>イ 更新端末の適正な調達は</p>

No.	氏名	項目・要旨
	宮脇邦彦 (公明党)	ウ 旧端末の処理(処分)は ③ 適正な端末処分とデータ消去にどう取り組むか
6	佐々木博子 (会派みらい)	1 新しいまちの土壌づくりについて (1) 地域とともにつくる飯田学園構想について ① 飯田学園構想とは何か ② 今までと何がどう違うか ③ 学園構想によって何を実現しようとしているか (2) 飯田市のインバウンド施策について ① 市におけるインバウンド客の現状は ② 市ではどのようなインバウンド事業推進の取組をしているか ③ 市民発のインバウンド事業に対して、今後どのように関わっていくか ④ インバウンド施策の推進に当たり地域住民への理解促進、機運醸成をどのように考えているか (3) 共に歩み寄り合う共生のまちづくりについて ① 合理的配慮の提供の義務化について周知の現状は ② 事業所向けのガイドラインやマナーブックの必要性は ③ 合理的配慮の提供を推進するためのコーディネーターの設置は
7	長谷部春生 (会派きぼう)	1 飯田市が環境文化都市としてさらに輝くための取組について (1) 環境文化都市・飯田が市民生活へ浸透するための取組は (2) 生活用品のリサイクル率を向上させるための取組は 2 世界から注目を集める飯田市になるための観光振興について (1) 国内観光の現状について ① 国内観光客の受入状況は ② サイクルツーリズムへの取組状況は (2) インバウンド観光の現状について ① インバウンド観光の受入状況は ② 観光受入体制の整備に向けた取組は 3 リニア中央新幹線の整備や信州大学の誘致の状況を踏まえた、市としてのアリーナ整備への課題について (1) 令和4年以降の状況変化を踏まえた、現状の課題の認識は

No.	氏 名	項 目 ・ 要 旨
8	市 瀬 芳 明 ( 日 本 共 産 党 )	<p>1 福祉の視点から、住みやすいまちや住みたいまちづくりについて</p> <p>(1) 住宅セーフティネット制度の対象者と支援内容は</p> <p>① 賃貸住宅を確保しやすくするための公的支援にはどのようなものがあるか</p> <p>② 住宅確保要配慮者として、どのような支援を受けられるか</p> <p>(2) 空き家の活用と住宅セーフティネット制度の関係は</p> <p>① 空き家を高齢者向け住宅として活用するための支援制度は</p> <p>② 住宅セーフティネット制度を活用して、空き家を高齢者向け賃貸住宅にする際の条件や補助金は</p> <p>(3) 高齢者入居拒否問題と住宅セーフティネット制度の対応は</p> <p>① 高齢者が賃貸住宅入居を拒否されるケースに対して、住宅セーフティネット制度にはどのような対策があるか</p> <p>② 家賃保証制度や支援策は</p> <p>(4) 福祉サービスと住宅セーフティネット制度の連携は</p> <p>① 住宅セーフティネット制度を利用することで、福祉サービスとの連携を強化できる仕組みは</p> <p>(5) 市における農福連携の考えは</p> <p>① 農福連携とはどのようなことか</p> <p>② 事業者として取り組んでいる事例はあるか</p> <p>③ 今後、市は農福連携の展開をどう考えるか</p>
9	永 井 一 英 ( 公 明 党 )	<p>1 公営住宅入居に際しての連帯保証人について</p> <p>(1) 県営住宅、市営住宅それぞれの既入居者の世帯構成状況と推移は</p> <p>(2) 市営住宅における連帯保証人の取扱いは。また、令和2年4月に施行された改正民法への対応は</p> <p>(3) 令和3年第4回定例会において、市営住宅における連帯保証人の保証内容について答弁しているが、連帯保証人を不要としたときの課題は</p> <p>(4) 長野県が、令和5年1月以降に県営住宅へ入居する人に対して、連帯保証人を不要としたことについて</p> <p>① 県の考え方は。また市の認識は</p> <p>② 市が連帯保証人を不要としたときの課題への対応など、公営住宅入居者について、福祉的対応がますます必要になってきていると考えるが市の認識は</p> <p>2 地域課題に対応するための事業体の立ち上げについて</p> <p>(1) 今までの市の取組を踏まえて、現状と課題、今後の方向性は</p>

No.	氏 名	項 目 ・ 要 旨
	永 井 一 英 ( 公 明 党 )	<p>(2) 労働者協同組合法を活用したワーカーズコープについて</p> <p>① 視察した「はんしんワーカーズコープ」は、自分たちの事業領域を「地域の困りごと×仕事おこし」としている。労働者協同組合法第1条(法の目的)からしても、地域活性化など可能性を秘めた仕組みと思うが、市はどう考えるか</p> <p>② 尼崎市は、高齢者の介護予防、フレイル対策を目的に、生きがい就労を提供して社会参加を進める「高齢者生きがい就労事業」を「はんしんワーカーズコープ」に業務委託している。市はこの取組をどう考えるか</p> <p>③ ワーカーズコープは、雇用の確保や協同組合を起業するという側面がある。産業経済部はどう考えるか</p> <p>④ 飯田市内で、地域課題の解決に取り組むワーカーズコープを起業しようとするとき、どのように進めたらよいと考えるか</p>
10	西 森 六 三 ( 会 派 き ぼ う )	<p>1 観光による地域振興について</p> <p>(1) DMO(日本版観光地域づくり法人)の考え方について</p> <p>① DMOの必要性と在り方は</p> <p>② 株式会社南信州観光公社と市内にある観光協会の立ち位置をどのように考えているか</p> <p>③ 遠山郷の地域性を考慮すると、将来DMOと成り得るような組織が必要ではないか</p> <p>④ DM(観光地マネジメント)の役割に運営や活動資金の確保がある。協力金制度の導入が必要ではないか</p> <p>⑤ 今後の支援の在り方は</p> <p>2 道路網整備について</p> <p>(1) 主な道路改良について</p> <p>① 三遠南信自動車道現道改良区間国道152号県境部の小嵐バイパス及び水窪奥領家区間の進捗状況と見通しは</p> <p>② 現道区間は、河川と山腹に挟まれた構造となっている。護岸の安全確認を市としても行っているか</p> <p>③ 未改良区間の市道上村4号蛇洞林道及び国道152号地蔵峠ルートと県道251号(喬木村氏乗から小川間)の現状と今後の対応は</p> <p>(2) 一日も早く整備されるために地域住民としてできることは</p> <p>(3) 市の要望活動への取組と考えは</p>
11	小 林 真 一 ( 公 明 党 )	<p>1 リニア駅前広場活用の考え方とこれからについて</p> <p>(1) 市の取組は</p> <p>① 飯田・リニア駅前広場プラットフォームの目的は</p>

No.	氏名	項目・要旨
	小林真一 (公明党)	<ul style="list-style-type: none"> <li>② どのような団体が参加しているか</li> <li>③ 市民の参加状況は</li> <li>④ これまでの取組をベースとしてこれからの議論をどう進めていくか</li> </ul> <p>(2) リニア駅前広場と市内20地区との連携は</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>① 道の駅との考え方から、その場で完結させない仕組みの構築が必要と考えるがどうか</li> <li>② リニア開業の際の「いざなう」との視点は、開業前でも視野に入れる必要があると考えるがどうか</li> <li>③ DMOの考え方をもとに20地区の財産を改めて確認し、いざなえる準備が必要と考えるがどうか</li> <li>④ 20地区、そして伊那谷全体を巻き込んだ「いざなう」視点や滞在時間の増加を見越した周遊観光の仕組み作りが今から必要と考えるがどうか</li> </ul> <p>(3) 若者や女性が活躍できる場としてのリニア駅前広場の活用の考えは</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>① 若者や女性の活躍の場としてリニア駅前広場の活用は視野に入っているか</li> <li>② 創発の場であるムトスぷらざとの連携の考えは</li> <li>③ エス・バードとの距離的な有利性(アドバンテージ)を活用する考えは</li> <li>④ 農村起業家育成スクール修了生との連携の考えは</li> </ul>
12	関島百合 (会派みらい)	<p>1 人材育成について</p> <p>(1) 女性の公民館主事が増えている現状について</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>① 地域でどのような変化があるか</li> <li>② 女性を主事に配置することで何を期待するか</li> </ul> <p>(2) 現場感覚を持った職員の育成について</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>① 課題を認識し、解決していく職員の育成が必要と考えるがどうか</li> <li>② どのような育成をしているか</li> </ul> <p>2 地域の力を生かしたシードルについて</p> <p>(1) 地元産のシードルをどう生かすか</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>① 市としてシードルをどう認識しているか</li> <li>② 生産者へのサポートは</li> <li>③ 地元への浸透にどう取り組むか</li> <li>④ 広域でのPRに市としてどう関わるか</li> <li>⑤ ツーリズムへの生かし方は</li> </ul> <p>3 中心市街地について</p>

No.	氏名	項目・要旨
	関島百合 (会派みらい)	<ul style="list-style-type: none"> <li>(1) 中心市街地の重要性をどう捉えているか</li> <li>(2) 活性化に向けた取組で成果は何か</li> <li>(3) 旧飯田市公民館とプール跡地の後利用の方向性は</li> <li>(4) 新文化会館は中心市街地との連携が重要だと考えるがどうか</li> </ul>
13	木下徳康 (新政いいだ)	<ul style="list-style-type: none"> <li>1 「飯田市20地区応援隊」について <ul style="list-style-type: none"> <li>(1) 20地区応援隊(ふるさと納税)の目的と仕組みは</li> <li>(2) これまで7年間の実績とその評価は</li> <li>(3) 目的は地区活性化にあると考えるがどうか</li> <li>(4) 集会所、公民館等の改築などに活用できるか</li> </ul> </li> <li>2 通報アプリについて <ul style="list-style-type: none"> <li>(1) アプリの目的とその利用方法は</li> <li>(2) まちづくり委員会を通じた地区要望との関係性はどうか</li> <li>(3) 公開後の活用状況は</li> <li>(4) その評価は</li> <li>(5) 八潮市の道路陥没の事案から、身近なリスクを把握しておくことが安全安心につながると考えるがどうか <ul style="list-style-type: none"> <li>① 市のすべきことは</li> <li>② 市民にできることは</li> </ul> </li> </ul> </li> <li>3 「いいだ未来デザイン2028」について <ul style="list-style-type: none"> <li>(1) 「2028年の人口ビジョン92,000人」の目指すところは「2050年日本一住みたいまち」か</li> </ul> </li> </ul>
14	山崎昌伸 (新政いいだ)	<ul style="list-style-type: none"> <li>1 安心、安全のまちづくりについて <ul style="list-style-type: none"> <li>(1) 住宅の耐震改修促進の状況は <ul style="list-style-type: none"> <li>① 能登半島地震を受けて耐震改修の促進に向けて新たに取り組んだことは</li> <li>② 長野県は耐震化率の目標を2030年に100%としているがどう対応するか</li> </ul> </li> <li>(2) 災害発生時の安否確認の在り方とSNSの活用について地区ごとの現状は把握されているか <ul style="list-style-type: none"> <li>① 災害発生時の安否確認の在り方について地域自治組織と行政それぞれの役割は何か</li> <li>② 地域自治組織が担う役割について各地区の理解は進んでいるか</li> <li>③ 安否確認も含めたSNSの活用について各地区の状況は把握されているか</li> </ul> </li> </ul> </li> </ul>

No.	氏 名	項 目・要 旨
	山 崎 昌 伸 ( 新 政 い い だ )	<p>2 市民が誇りを持てる環境文化都市の実現に向けて</p> <p>(1) 環境分野におけるシビックプライドの醸成をいかに進めるか</p> <p>① 環境教育は効果的に行われているか</p> <p>② 「環境文化都市実現大会(仮称)」開催についての取組の状況は</p> <p>③ 「気候市民会議」開催への検討は進んでいるか</p> <p>④ 市民が環境文化都市に暮らしていることを実感できるのはどのようなときと考えるか</p> <p>(2) 「日本一住みたいまち」となる環境文化都市の実現に向けた市長の決意は</p>
15	原 和 世 ( 会 派 み ら い )	<p>1 新年度予算編成の基本的な考え方に関して</p> <p>(1) 市長2期目のスタート年に当たって今期を展望する上で新年度予算をどのように位置付けているか</p> <p>① 予算編成の基本方針と「いいだ未来デザイン2028」後期4年間への展望は</p> <p>② 重点的に配分される分野や事業への思いは</p> <p>(2) 財政の健全性と持続可能性について</p> <p>① 財政の健全性に関する「いいだ未来デザイン2028」後期4年間における財政見通しは(実質単年度収支・経常収支比率・基金の推移など)</p> <p>② 予算編成における不要・不急な事業の整理・見直しは</p> <p>③ 市民にも財政状況を分かりやすく伝えるための工夫は</p> <p>2 教育課題について</p> <p>(1) これからの学校のあり方に関して</p> <p>① これからの学校のあり方について市長の思いは</p>
16	清 水 勇 ( 会 派 き ぼ う )	<p>1 飯田市農振除外について</p> <p>(1) 令和6年度の農振除外の状況は</p> <p>① 農振除外の申出数とその状況は</p> <p>ア 申出後の県の対応は</p> <p>② 農振除外の申出の手続について</p> <p>ア 受付の状況は</p> <p>イ 除外の申出の1年間の締切回数と締切日は</p> <p>(2) 農振除外決定後の手続について</p> <p>① 家屋を建てるために必要な手続は</p> <p>ア 農地転用は</p>

No.	氏 名	項 目・要 旨
	清 水 勇 (会派きぼう)	<p>② 他の市町村に比べて市は農振除外の決定、農地転用の許可に期間を要すると思うがどうか</p> <p>ア 農振除外決定までの期間短縮の検討は</p> <p>イ 農振除外の申出に係る手続の説明はどのような方法で行っているか</p> <p>2 道の駅遠山郷について</p> <p>(1) 温泉施設の開業時期は</p> <p>① 進捗状況は</p> <p>(2) 地域の関わり方は</p> <p>(3) 道の駅に対する市の取組状況は</p> <p>(4) 道の駅として市の考え方は</p> <p>3 天龍峡観光施設について</p> <p>(1) 整備状況は</p> <p>① 龍角峯付近の遊歩道の整備状況は</p> <p>② 他の遊歩道の管理状況は</p> <p>③ 遊歩道の安全対策について木製の安全柵の管理状況は</p> <p>④ 天龍峡中央駐車場トイレは多くの人が集中して使用すると流れが悪くなるが、改修の考えは</p>
17	井 坪 隆 (会派みらい)	<p>1 リニア中央新幹線長野県駅(仮称)とまちづくりについて</p> <p>(1) 「飯田」を冠した、リニア中央新幹線の駅名の実現を目指すべきではないか</p> <p>(2) リニア駅(交流重心)と中心拠点(都市重心)とのまちづくりについて、どう考え取り組むか</p>

② 令和7年飯田市議会第2回定例会一般質問通告表

令和7年6月12日、13日

No.	氏名	項目・要旨
1	古川 仁 (日本共産党)	<p>1 安心・安全なまちづくりについて</p> <p>(1) JR東海は長野県駅(仮称)工事において6月から土曾川橋梁基礎工事の中詰め材として「要対策土」を活用した工事の開始を表明したが、市の対応は</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>① 新聞報道で6月上旬から開始とあったが現状は</li> <li>② 市として独自の水質調査の考えは</li> <li>③ 市内の「要対策土」仮置き場の状況は</li> <li>④ 市民の命と暮らし・環境を守るため、市として有識者や専門家を含めたチェック機能設置の考えは</li> </ul> <p>(2) 自主防災会について</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>① 持続的に地域を守るための課題は</li> <li>② 今後、持続的に地域を守るためには</li> </ul>
2	小平 彰 (新政いいだ)	<p>1 飯田市の観光について</p> <p>(1) 飯田市への観光客について</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>① ㈱南信州観光公社との連携は</li> <li>② 観光客を誘致するための調査分析はできているか <ul style="list-style-type: none"> <li>ア 観光客数と観光消費額の把握は</li> <li>イ 動向、満足度調査は</li> </ul> </li> </ul> <p>(2) 中心市街地の観光について</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>① 歴史的偉人や文化的資産を活かせないか</li> <li>② 裏界線を活用できないか</li> <li>③ 誰もが分かる案内表示の設置は</li> </ul> <p>2 災害に備えた体制について</p> <p>(1) まちづくり委員会と自主防災組織をどのように考えるか</p> <p>(2) 災害時に必要となる各種有資格者の活用をできているか</p> <p>(3) 災害時相互援助協定とはどのようなものか</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>① 災害時相互応援協定との違いは</li> <li>② 飯田市外の地区協定先の数は</li> <li>③ 発災時以外の連携はどのようにしているか</li> </ul>

No.	氏 名	項 目 ・ 要 旨
3	森 本 紘 司 ( 新 政 い い だ )	<p>1 文化会館について</p> <p>(1) 新文化会館整備の進捗状況は</p> <p>① 基本計画の作成状況は</p> <p>ア 現在の検討状況と課題は</p> <p>イ 一体型・分散型、あらゆる可能性があるがいつまでに方向性を決めるのか</p> <p>(2) 空調設備の状況は</p> <p>① 不具合があるとすれば、修理が可能か</p> <p>2 学校の教育環境整備は</p> <p>(1) 小中学校の給食の状況は</p> <p>① 米の高騰や物価高騰による献立への影響は</p> <p>② 今年度一食60円の補助があるが、更なる支援の考えは</p> <p>③ 日本一住みたいまちは、子どもが安心して地元の食材を楽しめる日本一質の高い給食を提供すべきと考えるが、これについて市長の考えは</p> <p>(2) 部活動のクラブチームへの地域移行の進捗状況は</p> <p>① 公認地域クラブに対する活動支援補助金額の決定基準は</p> <p>② 現在の申込状況は</p> <p>③ 指導者の確保に苦勞しているクラブが多い現状に対し、市としてのサポート体制は</p> <p>(3) 学校の体育館への空調設備導入について市の考えは</p> <p>(4) 学校の防犯対策は</p> <p>① 不審者の侵入に対し現在行っている対策は</p> <p>② 防犯カメラの設置状況や、今後の設置についての考えは</p>
4	長 谷 部 春 生 ( 会 派 き ぼ う )	<p>1 資源のリサイクル推進について</p> <p>(1) 環境文化都市・飯田としてリサイクル推進の現状は</p> <p>① 資源となる古紙、金属等の回収・売却の状況は</p> <p>② ペットボトル水平リサイクル事業の開始の目的とその見通しは</p> <p>③ 民間商業施設等での回収についての見解は</p> <p>④ より一層効果を上げるための取組は</p> <p>2 リニア中央新幹線を見据えた新時代のまちづくりについて</p> <p>(1) 多極分散型社会実現に向けて</p>

No.	氏 名	項 目 ・ 要 旨
	長 谷 部 春 生 ( 会 派 き ぼ う )	① 国、県の機能の移転について、飯田市として現状認識と今後の具体的な取組は
5	岡 村 弘 子 ( 公 明 党 )	<p>1 がん予防の推進と支援について</p> <p>(1) 子宮頸がんについて</p> <p>① 子宮頸がんワクチンの接種状況、子宮頸がん検診の受診状況は</p> <p>ア 子宮頸がんワクチンを積極的勧奨していた時期と積極的勧奨していなかった時期の罹患状況は</p> <p>イ 飯田市のキャッチアップ接種の推進取組についての評価は</p> <p>ウ 子宮頸がんワクチン接種と検診に対する対象者と保護者の認識について、現場の声は</p> <p>② 飯田市のがん教育について</p> <p>ア がん教育とはどういったものか</p> <p>イ がん教育の実施状況は</p> <p>ウ 子宮頸がんに対する飯田市のがん教育の必要性の認識は</p> <p>③ 子宮頸がん撲滅に対する飯田市の認識と今後の対策について</p> <p>(2) アピアランスケアの助成事業について</p> <p>① 飯田市のアピアランスケアの助成事業の概要は</p> <p>ア 申請の実態は</p> <p>イ 窓口に来られた方の声、化学療法を受けておられる方の声は</p> <p>② 市民に寄り添った助成事業のための飯田市独自の代替え案について</p> <p>ア 助成の回数を複数回に増やすことは可能か</p> <p>イ 回数や種類を本人の意思で選択することは可能か</p> <p>ウ 申請方法を窓口のみでなく郵送やオンラインの選択を増やすことは可能か</p> <p>③ がん以外の脱毛症等疾患にも拡充してはどうか</p>
6	宮 脇 邦 彦 ( 公 明 党 )	<p>1 共生社会の構築に向けて</p> <p>(1) 孤独・孤立問題へ声を上げやすい・掛けやすい社会とは</p> <p>① 当市における孤独・孤立問題の現状をどう見るか</p> <p>② 孤独・孤立対策推進法とは、またその意義は</p> <p>③ 相談できる場所の周知と“早めの相談は良い行動”という積極的な呼び掛けをどう考えるか</p> <p>ア 当市の具体的な取組は</p>

No.	氏 名	項 目 ・ 要 旨
	宮 脇 邦 彦 ( 公 明 党 )	<p>④ 孤独・孤立問題への正しい知識を持ち、困難を抱える人をサポートする人材育成をどう進めるか</p> <p>⑤ 複合要因がある中で、地域における人のつながりづくりをどう進めたら良いか</p> <p>⑥ 孤独・孤立対策推進法にある“地域の関係者における相互の連携・協働推進”を、どう図るか</p> <p>⑦ いいだ未来デザイン2028後期計画の4つの視点を踏まえ、戦略計画の基本目標6「誰もが生涯を通じて、その人らしく暮らすまちをつくる」の目指すものは何か</p> <p>⑧ 声を上げやすく、掛けやすい社会の実現に必要な視点について、市長の見解は</p> <p>(2) 認知症の人に寄り添った地域社会とは</p> <p>① 当市における認知症及びMCI(軽度認知障害)へ該当する方の実態把握は</p> <p>② 認知症に関する知識及び当事者理解を深めるには</p> <p>③ 認知症の人に寄り添うケア技術「ユマニチュード」とは</p> <p>④ 「ユマニチュード」の普及に積極的に取り組む考えは</p>
7	片 町 元 彦 ( 会 派 き ぼ う )	<p>1 災害時の対応等について</p> <p>(1) 飲料水及び食料等の備蓄状況は</p> <p>① 防災備蓄倉庫の備蓄状況、給水車による水の供給状況は</p> <p>② 輸送手段として「ドローン」の活用も考えられるが、市としてその実用性や導入への考えは</p> <p>(2) 井戸水の活用による飲料水の確保について</p> <p>① 各地区の取組状況は</p> <p>② 市の支援策は</p> <p>2 安心安全な水の提供について</p> <p>(1) 水質検査の実施状況は</p> <p>① 通常の水質検査の実施状況は</p> <p>② 水道水のPFOS及びPFOA検査(フッ素化合物残留検査)の実施状況は</p> <p>3 夏場における避難所の環境整備について</p> <p>(1) 避難所の暑さ対策は</p> <p>① 避難所における夏場の熱中症予防対策など、暑さ対策はどのように講じていくか</p>

No.	氏名	項目・要旨
	片町元彦 (会派きぼう)	② 長野県で特に暑い遠山郷では、学校体育館は避難施設ともなっている。体育施設としての暑さ対策は
8	福澤克憲 (会派きぼう)	<p>1 「環境文化都市」の実現に向けて</p> <p>(1) 21'いいた環境プランの6つのゴールにおけるターゲットの区分を具体的行動(行政)、取組事例(市民・地域・事業者)とした意図は</p> <p>(2) 環境地区懇談会を実施しての反応は</p> <p>(3) ゼロカーボンシティ推進のための情報発信は</p> <p>(4) 環境文化都市の実現に向けての市民意識の醸成は</p> <p>2 安全・安心なまちづくりについて</p> <p>(1) 地域の防災訓練の状況と課題は</p> <p>(2) 災害による甚大な被害を想定した市役所の体制強化について</p> <p>① 総合相談窓口の体制、対応手法は</p> <p>② 被害認定調査から、り災証明書の発行の流れは</p> <p>③ 大規模災害時の「被災者支援システム」の検討状況は</p> <p>④ 現時点での仮設住宅の建設場所、災害廃棄物仮置き場の想定は</p> <p>⑤ 受援(外部からの支援の受入体制)の対応は</p> <p>⑥ 実践的な訓練から見えてきた課題は</p> <p>(3) 防災・減災、災害時対応を考えた地域コミュニティの考え方は</p>
9	岡本恒和 (新政いいた)	<p>1 空き家等対策計画について</p> <p>(1) 総務省統計局ホームページ掲載の令和5年の調査によれば、空き家(賃貸・売却用及び二次的住宅を除く。)の戸数4,770戸、総数比10.4%で増加傾向にある。この現状をどう捉えているか</p> <p>(2) 予防の観点から空き家の所有者への広報を強化する必要があると考えるがどうか</p> <p>(3) 「特定空き家等」と、そのまま放置すれば特定空き家等に該当するおそれのある「管理不全空き家等」の傾向とその取組は</p> <p>(4) 空き家バンクについて</p> <p>① 物件登録と利用者登録、成約数はどのように推移しているか</p> <p>② どのような評価と捉えるか</p> <p>(5) 空き家を減らすため、民間・行政ともに協力して行うことが大事だと考えるが、民間事業者との連携は</p> <p>2 名水百選 猿庫の泉について</p>

No.	氏 名	項 目 ・ 要 旨
	岡 本 恒 和 ( 新 政 い い だ )	<p>(1) 「名水百選 猿庫の泉」には県内外から多くの方が訪れているが、観光資源としてどう捉えているか</p> <p>(2) 猿庫の泉保存会会員の高齢化が進んでいる。地元のまちづくり委員会では愛護会を設けてサポートをしている。この現状を市はどう考えるか</p> <p>(3) 猿庫の泉保存会による野点の状況は</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>① 野点を含め猿庫の泉への年間来客実績は</li> <li>② 観光資源としてどう位置付けているか</li> <li>③ さらにPRしてはどうか</li> </ul>
10	正 木 利 幸 ( 新 政 い い だ )	<p>1 人口減少対策について</p> <p>(1) 飯田市の人口の推移について</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>① いっごろから人口減少に対し問題意識を持ち始めどのような取組を講じたか</li> <li>② その取組の目標には何を掲げたか</li> <li>③ その成果として、どのような取組を行ってきたか</li> </ul> <p>(2) 若者の定住について</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>① 宝島社の「住みたい田舎ベストランキング」の上位に挙がる飯田市が、若者が移住するにあたり重要と感じる要素は何か</li> <li>② 若者は、仕事・家庭・その他をバランスよく生きる術が身につけているが、飯田市に移住する若者に対し仕事面でどのようなアプローチをしているか <ul style="list-style-type: none"> <li>ア 起業家育成など、どのような取組を行っているか</li> <li>イ これまでの成果は</li> <li>ウ 何をもちて目的達成と見なすか。その着地点をどこに置くか</li> </ul> </li> </ul> <p>2 農業従事者の減少について</p> <p>(1) 飯田市の農業政策の重点は</p> <p>(2) 農業従事者の減少による問題は何か</p> <p>(3) 新規就農者の世代別割合の推移は</p> <p>(4) 農業に興味を持つ都会の若者について</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>① 「新・農業人フェア」への参加人数の推移は</li> <li>② 飯田市のIターンによる農業従事者(総数・世代別)の推移は</li> <li>③ 若者が新規に農業を始める場合の障害は</li> <li>④ 飯田市の圃場で仕事をし、近隣町村に居住する農業従事者が増えている現状をどう捉えているか</li> </ul>

No.	氏名	項目・要旨
11	関島百合 (会派きぼう)	<p>1 ふくまるくんカードを使った地域ポイント付与による地域通貨実証実験事業について</p> <p>(1) 取組の実態は</p> <p>① 消費者の反応は</p> <p>② 加盟店の現状は</p> <p>③ 実証実験開始時には大幅に増えたものの、減少する加盟店の現状をどう捉えるか</p> <p>④ 実証実験を二度延長した背景は</p> <p>(2) 地域ポイントへの理解が進んでいないと思われる。このため、市民の行動と意識の変化が必要と考えるがどうか</p> <p>(3) 地元での消費喚起と地域内経済の循環にどのようにつないでいくか</p> <p>2 眠育への取組について</p> <p>(1) こどもの頃から睡眠の大切さを伝える取組が必要と考えるがどうか</p> <p>(2) 他の自治体は保育と教育の現場に眠育を取り入れ、成果を上げていると聞くため、眠育を市の健康施策の一つの柱に据えることも必要と考えるがどうか</p>
12	市瀬芳明 (日本共産党)	<p>1 暮らしと健康を支えるまちづくりについて</p> <p>(1) 移動に困難さを抱える方たちの移動環境について</p> <p>① 公共交通についての検討状況は</p> <p>② 日常生活に必要な移動に困る方への支援策は</p> <p>③ 介護・福祉タクシーなどの利用実態は</p> <p>④ 障がい者の移動支援は</p> <p>(2) 障がい者のスポーツ環境の整備について</p> <p>① スポーツに取り組める環境となっているか</p> <p>② 障がい者のスポーツの実施状況やニーズをどのように把握しているか</p> <p>③ 市はスポーツ団体や学校、福祉施設などと連携してスポーツへの参加を促しているか</p>
13	小林真一 (公明党)	<p>1 高齢者が自分らしい生活を送るために</p> <p>(1) 飯田市における高齢者、高齢化の現状について</p> <p>① 市の高齢化率と高齢者世帯の割合は</p> <p>② 高齢者の世帯の状況は</p> <p>(2) 飯田市におけるフレイル予防の取組について</p> <p>① フレイル予防とは</p>

No.	氏 名	項 目・要 旨
	小林 真一 (公明党)	② フレイル予防の具体的な取組は ③ 料理をすることによるフレイル予防への効果は ④ 今年度から取り組んでいる補聴器への支援の状況は  (3) 高齢者家族の思いと高齢者本人の思いについて ① 高齢者世帯や独居高齢者の家族の不安を解消するための取組は ア ハード面での取組は イ ソフト面での取組は ② 防火防犯のための取組は ア 各家庭への取組は イ 市の高齢者共同住宅における取組は ③ 家庭における対応の現状について ア 安全に配慮した生活を送るために導入した家電製品の課題への対応は
14	松岡 秀治 (会派きぼう)	1 飯田市の森林政策について (1) 森林所有者の情報の把握に関して ① 森林所有者の情報の把握を市はどのように行っているか ② 森林所有者のうち外国人と思われる者等の情報の把握について ア 外国人と思われる者等の情報を把握しているか イ 今後所有者のうち外国人と思われる者等を把握できるように県や国に求めていくことを市はどう考えるか (2) 野生鳥獣の被害は ① 当市における直近10年の農林業被害額及び推移は ② 鳥獣被害の発生原因をどう考えるか (3) 森林を守るために ① 当市の水源林地域の針葉樹林と広葉樹林の割合は ② 直近10年の水源地域における植林された樹種とそれぞれの本数とその割合は ③ 近年において被害に遭った植栽木は植栽された木の何割に当たり、50年後被害に遭わない木はどれほど残っていると考えるか ④ 水源地や水源林の規制に関する市の取組は ⑤ 森林を守っていくために必要な市の取組は

No.	氏 名	項 目 ・ 要 旨
15	野 崎 直 仁 ( 無 会 派 )	<p>1 昨今の米不足、価格高騰と食料安全保障について</p> <p>(1) この1年ほどの間に米を取り巻く状況は激変しているがどのように捉えているか</p> <p>(2) 飯田市における米不足と価格高騰の状況は</p> <p>① スーパー等の在庫状況及び価格の推移は</p> <p>② 農協直売所の在庫状況及び価格の推移は</p> <p>③ 飯田市(JAみなみ信州)以外の農協ではどうか</p> <p>(3) 飯田市の米の生産量が激減している状況について</p> <p>① 1年間で8.6%もの生産減となった点について</p> <p>ア 考えられる原因は</p> <p>イ 今後もこのような減少傾向が続くと考えるか</p> <p>ウ 市として何か対策を考えているか</p> <p>② 実質的な減反政策と言われている転作奨励の状況について、A飼料用米、Bその他小麦や蕎麦等の田んぼに戻せる農作物、Cネギやズッキーニ等の畑作物の3分類のそれぞれの状況は</p> <p>③ 農業人口の急激な減少の中、田んぼから何倍も手間のかかる畑への転作は耕作放棄地を加速度的に増やすことになるのでは</p> <p>ア 耕作放棄地の現状と今後の推移の見通しは</p> <p>イ 耕作放棄地解消のための政策は</p> <p>④ 耕作放棄地を増やさないためには、田んぼは田んぼのまま維持することが良いと考えるがどうか</p> <p>⑤ 移住者にとって魅力ある田舎の景観を維持する上でも田んぼのまま維持することが良いと考えるがどうか</p> <p>(4) 昨年6月に食料・農業・農村基本法が改正され、食料安全保障の確保が加わったことについて</p> <p>① 飯田市としての対応は</p> <p>② 飯田市では市民の食べる米を賄うだけの量が生産されていないが、これをどう捉えるか</p> <p>③ 農協はライスセンターを次々に廃止しているが、これをどう考えるか</p> <p>④ 米政策に関して、飯田市と農協の連携の現状は</p> <p>(5) 市民の安定的な米の確保に関して市は何ができるかと考えるか</p>

③ 令和7年飯田市議会第3回定例会一般質問通告表

令和7年9月9日、10日

No.	氏 名	項 目 ・ 要 旨
1	長 谷 部 春 生 ( 会 派 き ぼ う )	<p>1 飯田学園構想と学校施設整備について</p> <p>(1) 飯田学園構想の現在地は</p> <p>① 4月から現在までに明らかになった学園構想の課題は</p> <p>② 児童、保護者からの評価、意見、要望は</p> <p>(2) 学校施設・設備の状況は</p> <p>① 学校プールの在り方は</p> <p>ア プールの現状は</p> <p>イ プールの今後の活用方法は</p> <p>② 学校体育館の在り方は</p> <p>ア 体育館の現状は</p> <p>イ 体育館の暑さ対策に対する課題認識は</p> <p>ウ 学校以外の飯田市所有の社会体育施設の体育館の状況は</p> <p>2 特定ごみの処理について</p> <p>(1) リチウムイオン電池の廃棄方法は</p> <p>① 具体的な取組の状況は</p> <p>② 広報の方法は</p> <p>ア アプリ「さんあ〜る」の認知度は</p> <p>イ チラシ等の配布状況は</p> <p>(2) 特定ごみの適正処理は</p>
2	小 平 彰 ( 新 政 い い だ )	<p>1 リニア駅周辺整備について</p> <p>(1) リニア駅前広場整備について</p> <p>① 一部供用開始までのスケジュールは</p> <p>② どのような施設や整備を行うか</p> <p>ア 建設費及び年間維持費は</p> <p>③ 大屋根の整備について</p> <p>ア 建設費及び維持管理は</p> <p>イ 木材で作らない場合を検討したのか</p> <p>ウ 市民の意見はどのように捉えているか</p> <p>④ 運営事業体の考え方は</p>

No.	氏 名	項 目・要 旨
	小 平 彰 ( 新 政 い い だ )	⑤ 賑わい創出施設とは ア 建設費は イ どのような構想で賑わいを創出するか (2) 駅前広場を除くりニア駅周辺のまちづくりについて ① 駅周辺のまちづくりをどのように考えているか ② リニア駅と周辺へのアクセスはどのように考えるか
3	古 川 仁 ( 日 本 共 産 党 )	1 安心・安全なまちづくりについて (1) 災害時における地下水利用は ① 国は、「災害時地下水利用ガイドライン～災害用井戸・湧水の活用に向けて～」をこの3月に示したが市の対応は ア ガイドラインの概要は イ 井戸所有の企業との協定締結を積極的に進めるとあるが現状はどうか ウ ガイドラインを進める上での課題は 2 飯田市地域ポイント付与による地域通貨実証実験事業について (1) 実態を把握し、効果検証につなげるためのアンケートを実施したが市民の反応は ① この事業をさらに広めるためには
4	森 本 紘 司 ( 新 政 い い だ )	1 地域医療・医師確保について (1) 市内にある診療所における地域医療体制について ① 診療所数の推移は ② 医師の年齢の推移は ③ 若い医師のIターンやUターンの実績は ④ 医師不足に対し市の対策は ⑤ 閉院予定の医師と開業希望の若い医師とを繋ぐマッチング事業の取組は (2) 休日夜間急患診療所について ① 現在の利用実績は ② 医師や看護師の勤務体制は ③ 専属の医師を雇用する考えは 2 子育て支援について

No.	氏 名	項 目 ・ 要 旨
	森 本 紘 司 ( 新 政 い い だ )	<p>(1) 屋内での遊び場設置について</p> <p>① 設置に向けた現在の取組状況は</p> <p>② 今後の取組計画は</p> <p>ア 市民を交えたプロジェクトを立ち上げる考えは</p> <p>イ 整備のスケジュールをどう考えるか</p>
5	岡 村 弘 子 ( 公 明 党 )	<p>1 飯田市における持続可能な医療提供について</p> <p>(1) 少子高齢化が進む中で、持続可能な医療について支えられる側・支える側からも不安の声が上がっている。今の地域医療について市はどう認識し受け止めているか</p> <p>(2) 飯伊地区包括医療協議会や地域医療構想調整会議の役割と現状、それに関わる市の連携は</p> <p>(3) 地域の病院や診療所等の、医師の確保に対する市の取組の効果と問題点、それを踏まえた今後の取組は</p> <p>(4) 人手不足や物価高騰など持続可能な医療提供には今後も課題は続くと思われるが、財政支援を含め、医療従事者や市民の不安解消に向けた具体的な取組はあるか</p> <p>2 看護師不足について</p> <p>(1) 地域の病院や診療所等(福祉的職場を含む。)の看護師の働く職場で、人手不足の実態把握と課題認識は</p> <p>(2) 看護師の数を増やしていくための取組として、地域への就職や復職支援は</p> <p>(3) 市立病院の看護師の働き方について</p> <p>① 勤務体制や長時間労働に対する配慮は</p> <p>② メンタルヘルスなど職場環境に対する取組は</p> <p>③ これらの取組に対する職員の評価は</p> <p>(4) 看護師をはじめ働く女性を応援する取組について、市の考えは</p>
6	宮 脇 邦 彦 ( 公 明 党 )	<p>1 こどもを地域で育てる取組について</p> <p>(1) 子育ての孤立化を防止する地域社会へ</p> <p>① 少子化の中で、子育て世帯を孤立化させないためにどう寄り添うか</p> <p>(2) 「こども誰でも通園制度」の活用について</p> <p>① 「こども誰でも通園制度」の概要は</p> <p>ア 現行の「一時預かり事業」との違いは</p> <p>② 試行的事業における、利用登録者数及び延べ利用者数、利用者からの反応など、その実態把握と受け止めは</p>

No.	氏 名	項 目 ・ 要 旨
	宮 脇 邦 彦 ( 公 明 党 )	③ 「こども誰でも通園制度」の意義について ア こどもの成長から見た場合の捉え方は イ 利用する保護者にとっての捉え方は ウ 現場を預かる保育者にとっての捉え方は エ 運営に携わる事業者にとっての捉え方は ④ この制度の意義を実現するための自治体の役割とは ⑤ 今年度の本格導入を踏まえて、当市での実施方法・規模などその方向性は ⑥ 保育人材等、その受け皿確保への取組は ⑦ 要支援家庭のほか、障がいがあるなど特別な支援ニーズがある場合の受け入れ体制は ⑧ 保育者間のコミュニケーションや情報共有の在り方をどう考えるか ⑨ 「こども誰でも通園制度」の本格導入に際して、市長の見解は
7	大 平 雲 龍 ( 会 派 き ぼ う )	1 スタートアップ支援制度及び誘致について (1) 市のスタートアップ支援体制は十分か ① 市のスタートアップ支援制度の設計・情報発信・伴走支援体制はどうか ② 他地域と比較して十分か (2) 他の支援制度との比較はどうか ① 「信州スタートアップステーション」などの起業支援拠点や「創業支援事業補助金」など他の事例をどう評価し、参考になっているか ② 市として、類似拠点の開設や支援制度の構築をどう検討しているか (3) 地域資源を活用した新規事業への支援は十分か ① 市を通じて国に申請する助成金等の支援制度に対し、市はどこまで把握し、情報発信や伴走支援体制を確立しているか ② 市内事業者の申請状況(相談も含む。)と採択事例はどうか 2 若者の定着を促進するための環境づくりについて (1) 若者のUターンや定着の現状と課題はどうか ① 若者の流出入の実態は ② 現状をどう評価し、課題をどう認識しているか (2) 夢を地域で実現できるキャリア形成の道筋はどうか ① 教育・産業・地域コミュニティと連携したキャリア形成の道筋をどう描いているか

No.	氏 名	項 目・要 旨
	大 平 雲 龍 ( 会 派 き ぼ う )	(3) Uターンした若者が挑戦できる「フィールド」の整備について、若者が「帰って挑戦したい」と思える具体的な仕組み(資金支援、拠点整備、企業連携プラットフォーム等)をどのように検討しているか
8	福 澤 克 憲 ( 会 派 き ぼ う )	<p>1 地域内経済の循環、地域循環型農業から見た飯田市の「畜産業」について</p> <p>(1) 第1次産業(畜産業)の重要性の考え方は</p> <p>(2) 畜産業の現状について</p> <p>① 農業産出額における畜産の割合は</p> <p>② 畜産農家数と飼育頭数は</p> <p>③ 畜産業の流通(生産から食卓までの流れ)の状況は</p> <p>(3) 今後に予定されている長野県食肉公社(松本市)閉鎖の影響について</p> <p>① 飯田市営と畜場(S35～55年)から始まり現在の状況となった経過は</p> <p>② 長野県食肉公社のR6年度と畜頭数(牛・豚)と南信州地域からの豚の出荷頭数は</p> <p>③ 長野県内唯一の食肉処理施設となる北信食肉センター(中野市)の現状は</p> <p>(4) 喫緊の課題について</p> <p>① と畜の空白期間を避けるための代替策は</p> <p>② 輸送費支援、輸送時間の考え方は</p> <p>③ 内臓(ホルモン)、カシラ、豚トロなどの流通確保は</p> <p>(5) 今後の方向性について</p> <p>① 長野県の支援、飯田市としての施策の必要性は</p>
9	市 瀬 芳 明 ( 日 本 共 産 党 )	<p>1 地域全体の防災力向上を目指した学校と地域が連携した取組の強化は</p> <p>(1) 市内小中学校における学年に応じた体験的な防災教育の取組と防災訓練の実施状況について</p> <p>① 年間の訓練回数や実施内容の標準的な取組状況はどうか</p> <p>② 消防署や防災士など外部機関と連携した授業はどの程度実施されているか</p>

No.	氏名	項目・要旨
	市瀬 芳明 (日本共産党)	<p>③ 避難所運営体験など、実践的な学習をさらに広げる考えはあるか</p> <p>(2) 家庭や地域への波及効果について</p> <p>① 地域防災訓練に児童・生徒が参加している実績と評価はどうか</p> <p>② 児童・生徒が学んだ内容を家庭に持ち帰り、家族と避難計画を立てる取組はあるか</p> <p>③ PTAや地域住民と連携した防災教育の強化について、市の考えは</p> <p>(3) まちづくり委員会間での防災協定の必要性は</p> <p>2 よりよい介護の環境を目指した取組を今後どのように考えていくか</p> <p>(1) 要介護認定について</p> <p>① 市における要介護認定の決定までに要する日数の平均はどのくらいか</p> <p>② 認定が遅れることによる影響について</p> <p>ア 申請者への影響は</p> <p>イ 事業者への影響は</p> <p>③ 影響をどのように受け止め、迅速化に向けた取組をどう考えるか</p> <p>(2) 介護予防の現状と今後の展開について</p> <p>① 事業内容と効果について</p> <p>② 今後の方向性について</p> <p>(3) 介護職員へのカスタマーハラスメント防止対策について</p> <p>① 市における介護職員へのカスハラが発生状況や相談件数をどのように把握しているか</p> <p>② 市独自の実態調査を行う考えはあるか</p> <p>③ 介護事業所への支援について、介護事業所におけるカスハラ防止マニュアルの整備や職員研修の実施を、市としてどのように支援しているか</p> <p>④ 2025年の労働施策総合推進法改正により、全ての事業者にカスハラ防止措置が義務化されることを踏まえ、市としてどのような対策を進めていくか</p>
10	正木 利幸 (新政いいだ)	<p>1 2028国民スポーツ大会開催と市民とスポーツの関わりについて</p> <p>(1) 国民スポーツ大会開催に向けて市の取組は</p> <p>(2) 「国民体育大会」から「国民スポーツ大会」へと名称が変更したことを、どのように捉えているか</p> <p>(3) 飯田市の「生涯学習・スポーツ課」が市民に果たしていく役割は何か</p> <p>(4) 改めて、令和の時代に即した国民スポーツ大会を、どのように考えるか</p> <p>2 農業の地域経済循環の推進について</p> <p>(1) 「飯田市地域循環型農業推進方針」の策定背景は</p> <p>(2) 給食施設から循環へ回る食品残さの量や割合は</p>

No.	氏 名	項 目 ・ 要 旨
	正 木 利 幸 ( 新 政 い い だ )	(3) 課題をどう捉えているか (4) 「飯田市有機農業実施計画」の策定背景は (5) 循環農業に化学肥料の必要性を認めるか (6) 循環農業を推進していく上で必要な取組は
11	下 平 恒 男 ( 新 政 い い だ )	1 農地の有効活用について (1) 遊休農地削減の取組と効果について ① 当市で把握している農地の中で、耕作されていない農地の面積と割合は ② 遊休農地削減に向けた取組と、農業振興センターを通じた補助事業の状況は ③ 非農地認定の状況は (2) 農業経営基盤強化促進法による利用権設定について ① 令和7年3月をもって、当事者間での設定が廃止となった経過は ② 手続変更後の概要は ③ 令和7年3月以前に利用権設定した方への対応は (3) 当市における国有農地の状況について ① 現状の面積と利用状況は ② 国有農地への市の関わりは ③ 相続土地国庫帰属制度の概要と、農地の関係する事例はあるか (4) 地域計画の策定の進捗状況について ① 各地区の取組状況は ② 地域計画の策定を農地の有効活用にどうつなげるか
12	片 町 元 彦 ( 会 派 き ぼ う )	1 飯田市における「ふるさと納税」の現状とさらなる拡大について (1) 現在までのふるさと飯田応援隊募集事業について ① ふるさと飯田応援隊募集事業の目的は ② どのような手段で寄附ができるか ③ 返礼品提供事業者数の推移は ④ 過去3年間の返礼品トップ5品目は (2) ふるさと納税の使い道について ① 今年度の寄附金額の目標と見通しは ② 寄附金はどの分野で使われるか

No.	氏 名	項 目・要 旨
	片 町 元 彦 ( 会 派 き ぼ う )	(3) 今後の取組について <ul style="list-style-type: none"> <li>① 選ばれるための広報活動は</li> <li>② 産地管理チェック体制は</li> <li>③ 新企画の考えは</li> </ul>
13	松 岡 秀 治 ( 会 派 き ぼ う )	1 再生可能エネルギー問題について <ul style="list-style-type: none"> <li>(1) 里山の資源を財産と捉えた取組について               <ul style="list-style-type: none"> <li>① 里山や竹林等の課題に対する市の考えは</li> <li>② 里山の資源を財産と捉え、経済的に循環を促す新たな取組は</li> </ul> </li> <li>(2) 太陽光パネルの普及に伴う影響について               <ul style="list-style-type: none"> <li>① 森林を伐採し太陽光パネルを設置することについて市の考えは</li> <li>② パネル設置者による適正な管理を確保する方法は</li> <li>③ パネルの処分方法について市は把握しているか</li> <li>④ 今後廃棄処分される量の把握と受け入れ体制は</li> <li>⑤ 設置者による適正な廃棄を担保する仕組みは</li> <li>⑥ 通信障害や不審な通信機器による影響の把握と対応策は</li> <li>⑦ 火災発生時の緊急対応は</li> <li>⑧ 災害時における対応について市の考えは</li> </ul> </li> </ul>
14	水 月 レ イ ( 会 派 き ぼ う )	1 新型コロナウイルス感染症について <ul style="list-style-type: none"> <li>(1) 新型コロナが流行してからの状況は               <ul style="list-style-type: none"> <li>① 飯田市における死亡者数は                   <ul style="list-style-type: none"> <li>ア ワクチン接種が始まった2021年前後の死亡者数の推移は</li> <li>イ 年代別の死亡者数の推移の状況は</li> </ul> </li> </ul> </li> <li>(2) 新型コロナワクチン接種について               <ul style="list-style-type: none"> <li>① 飯田市での接種状況は                   <ul style="list-style-type: none"> <li>ア 年代別の接種状況は</li> <li>イ こども若者の接種状況は</li> <li>ウ 重症化しないと言われているこどもや若者にも接種したことについてどう考えるか</li> </ul> </li> <li>② 新型コロナワクチン接種後の副反応について</li> </ul> </li> </ul>

No.	氏 名	項 目・要 旨
	水 月 レ イ ( 会 派 き ぼ う )	<p>ア 全国的に新型コロナワクチン接種後の体調不良や死亡報告があるが、救済制度の申請及び認定状況は</p> <p>イ 認定者のmRNAワクチンと組み換えタンパクワクチンの接種の内訳は</p> <p>③ 予防接種健康被害救済制度について市は市民に周知しているか</p> <p>ア 新型コロナワクチンとの因果関係を疑う方が救済制度を利用しやすくなるように、市としてできることは何か。また、現在の相談状況は</p> <p>イ 大阪府泉大津市では市独自の救済制度を設けているが、飯田市でも同様の取組が必要と考えるかどうか</p> <p>(3) 今後の対応について</p> <p>① 新たなウイルス等が流行した場合に市独自で市民の命を守る対策が必要とを感じるがどのように考えるか</p> <p>② 泉大津市は市独自で新型コロナワクチンについて、市民に必要な情報提供をしてきた。飯田市でもこの手法を参考に、市民に情報提供をしっかりと、判断、選択をしてもらうための取組は</p> <p>③ 感染症に対する市民の自己免疫を上げるため、市として考えることは何か</p>
15	遠 山 雄 ( 会 派 き ぼ う )	<p>1 環境文化都市の取組について</p> <p>(1) ソーラーパネルの更新によって排出されるパネルの環境、災害、自治体への影響と住民負担は</p> <p>① ソーラーパネルに含まれる物質や製造過程で排出されるCO<sub>2</sub>の環境負荷をどう捉えているか</p> <p>ア 環境に与えるリスクを防ぐ具体的な策はあるか</p> <p>イ 電気料金にはその分の負担を生じさせているが、このことをどう捉えるか</p> <p>② 環境文化都市の取組の実績とソーラーパネルなど海外製造された製品の購入は</p> <p>ア 再生可能エネルギー推進によるCO<sub>2</sub>削減実績の具体的なデータはあるか</p> <p>イ データは、市民が確認することができるか</p> <p>ウ 人権問題を踏まえたソーラーパネル調達方針を策定する考えはあるか</p> <p>2 来訪者を増やすための情報発信について</p> <p>(1) 飲み歩き文化を観光の軸とする取組は</p> <p>① 「丘のまちバル」のような飲食店を中心にしたイベントの今後の展開は</p>

No.	氏 名	項 目 ・ 要 旨
	遠 山 雄 ( 会 派 き ぼ う )	<p>(2) 外部インフルエンサー活用の現状と課題は</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>① インフルエンサー活用の現状は</li> <li>② 地元出身の著名人やインフルエンサーとの提携も重要だが更に外部インフルエンサーを登用する考えはあるか</li> <li>③ 予算、人的資源、戦略の優先順位などの考えは</li> <li>④ 外部インフルエンサーの活用が若者への訴求や地元離れの防止につながると思うがどうか</li> </ul> <p>3 人口減少対策移住促進の取組について</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>(1) 飯田市の人口減少、特に若い世代の流出に対する現状と要因は</li> <li>(2) 市の移住促進の取組は <ul style="list-style-type: none"> <li>① ターゲットは</li> <li>② 移住定住の外部リーチを最大化するためのデータ分析、目標数に向けた情報発信の状況は</li> </ul> </li> <li>(3) 観光や移住定住などの情報を総合的に発信する計画は</li> </ul>
16	野 崎 直 仁 ( 無 会 派 )	<p>1 リニア駅周辺整備と土地利用計画・都市計画について</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>(1) リニア駅周辺整備について <ul style="list-style-type: none"> <li>① リニア駅前の土地取得の目処が立ったが、売却していただいた移転者への思いは</li> <li>② 移転が多く必要となるような場所に駅の設置が決まった経緯は</li> <li>③ 土地区画整理事業で整備しなかったのはなぜか</li> <li>④ 岐阜県では県が主導して土地区画整理事業を企画していたが、飯田市における県との連携はどのようなものがあったか</li> <li>⑤ リニア駅周辺整備についてJR東海との連携が十分であったか</li> </ul> </li> <li>(2) リニア開業の遅れに対する対応について <ul style="list-style-type: none"> <li>① 2021年1月に市民有志の都市計画勉強会「伊那谷の新しい地図をつくる会」が開業の遅れを見通して市長に整備計画の見直しを提言した件について <ul style="list-style-type: none"> <li>ア 提言の内容をどう受け止めたか</li> <li>イ この段階でリニア開業の遅れを考慮して整備計画を見直せば整備費のより効率的な運用ができたとは考えないか</li> </ul> </li> <li>② リニア駅周辺整備事業公民協働ブランドクリエイティブプロジェクトについて <ul style="list-style-type: none"> <li>ア リニア開業が遅れることが決定したにもかかわらず当初の開業予定に沿って公民協働ブランドクリエイティブプロジェクトを継続しているが、中止すべきではないか</li> <li>イ 継続した場合は、当面はリニア駅前ではない ただの広場での事業になるが、応募者及び採算の見込みはあるのか</li> </ul> </li> </ul> </li> </ul>

No.	氏 名	項 目 ・ 要 旨
	野 崎 直 仁 ( 無 会 派 )	<p>③ リニア開業が10年以上先になることから少なくとも向こう10年間の広場の有効活用として「道の駅」が考えられるが、これについてはどうか</p> <p>(3) 飯田市土地利用計画審議会・都市計画審議会について</p> <p>① 市民一般公募枠3名について</p> <p>ア 過去3回連続して定員に満たないが、応募人数と採用人数については</p> <p>イ 1名のみ採用に留まり他の応募者を採用しなかったことがあるのはなぜか</p> <p>ウ 現在の公募委員の選出に問題があるとは考えないか</p> <p>② より多くの市民が興味を持ち積極的に関わりたいと思えるような取組は考えられないか</p> <p>(4) 飯田市の土地利用計画・都市計画について</p> <p>① 今まではリニア駅周辺にはまちを作らないとの方針であったが、高さ規制も含めてこれを全面的に見直す考えはないか</p>

④-1 令和7年飯田市議会第4回定例会会派代表質問通告表

令和7年12月3日、4日

No.	氏 名	項 目 ・ 要 旨
1	福 澤 克 憲 ( 会 派 き ぼ う )	<p>1 長期的視点に立った飯田市のまちづくりについて</p> <p>(1) 広域的・全市的な視点に立った土地利用の考え方、具体的な計画の方向性は</p> <p>(2) 自治基本条例の自治活動組織について、その役割への理解を深め、協力いただける環境を整えるためには</p> <p>(3) 今年度事業展開されている地域分析(人口診断分析・地域関係相関図)の取組状況、市民の反応は</p> <p>(4) 今後10年間の財政見通し、長期的視点に立った大規模事業の実施時期の考え方は</p> <p>(5) 実質公債費比率・将来負担比率のピークの見込みは</p> <p>2 リニア中央新幹線開業と三遠南信自動車道の開通を見据えたまちづくりについて</p> <p>(1) リニア駅周辺の2028年度一部供用開始に向けた整備は</p> <p>(2) リニア開業前の整備と開業後の整備についての方向性、開業時を見据えた事業展開は</p> <p>(3) 交流拠点(天龍峡、遠山郷)のさらなる活用の考え方は</p> <p>(4) 交通の結節点、中心市街地の交通、交通弱者対策等を視野に入れた持続可能な地域公共交通の考え方は</p> <p>3 環境に配慮したまちづくりについて</p> <p>(1) ゼロカーボンシティ実現に向けての方向性は</p> <p>(2) 環境文化都市の実現に向けての市民意識の醸成は</p> <p>4 活力ある産業振興と地域活性化について</p> <p>(1) 「地域内経済の循環」の取組状況は</p> <p>(2) 長野県食肉公社(松本市)閉鎖に伴う、飯田市の食肉流通の確保と焼肉文化の振興の考え方は</p> <p>(3) 第2次中山間地域振興計画の中期計画(2022～2025年度)の検証は</p> <p>(4) 老朽化して危険な空き家の解消と、使用可能な空き家の活用の状況、今後の方向性は</p> <p>(5) 働くことを軸とする安心社会の実現に向けて</p> <p>① 地元企業の労働環境をどのように分析しているか</p> <p>② より一層の市民サービスの向上につなげていくための市役所の事務処理軽減の考え方は</p> <p>(6) 中心市街地の活性化について</p>

No.	氏 名	項 目 ・ 要 旨
	福 澤 克 憲 ( 会 派 き ぼ う )	<ul style="list-style-type: none"> <li>① 中心市街地通行量調査の状況は</li> <li>② 桜並木・中央公園・りんご並木・動物園を中心とする区域の整備(旧飯田市公民館を含む)の考え方は</li> </ul> <p>5 医療・福祉・介護・子育て環境の充実について</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>(1) 医療・福祉・介護職場における人材確保の考え方は</li> <li>(2) 医療機関の経営状況の課題への考え方は</li> <li>(3) 「地域共生社会」の実現に向けての考え方は</li> </ul> <p>6 安全・安心なまちづくりについて</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>(1) 市民要望の多い道路・河川の維持補修や雨水対策についての考え方は</li> <li>(2) 児童生徒の教育現場、指定避難施設にもなっている小・中学校体育館の空調設備の整備の考え方は</li> <li>(3) 防災・減災、国土強靱化の推進において、地方自治体にとって有利な起債の活用の考え方は</li> </ul>
2	下 平 恒 男 ( 新 政 い い だ )	<p>1 飯田市の総合政策について</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>(1) 地域自治組織の在り方について <ul style="list-style-type: none"> <li>① 組合未加入の状況と、自治基本条例にうたわれている市民の役割をどう捉えるか</li> <li>② 地域コミュニティーの構築には公民館活動が重要であると考えが市の考えは</li> </ul> </li> <li>(2) リニア駅周辺の有効な土地利用の基本的な考え方は</li> <li>(3) 「日本一の焼肉の街」を観光誘客や、地域の活性化にどう活かすか</li> </ul> <p>2 産業振興への取組について</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>(1) 農業振興ビジョンの推進について <ul style="list-style-type: none"> <li>① 農業振興センターを軸とした協働体制を十分に機能させるためには</li> <li>② 農業の担い手確保や遊休農地の解消につながる、地域計画の有効活用とは</li> </ul> </li> <li>(2) 林業の活性化と野生鳥獣の対策について <ul style="list-style-type: none"> <li>① 森林整備計画を進める上で、林業事業者との協力体制はどうか</li> <li>② 猟友会の活動状況とクマによる被害への対応は</li> </ul> </li> <li>(3) 当市の魅力を活かした観光誘客と、南信州観光公社で行う民泊の状況は</li> </ul> <p>3 こども、子育て支援への取組について</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>(1) 小中学生の学習環境の整備と、児童生徒それぞれに対応した支援体制は</li> <li>(2) 学園構想のねらいと地域の果たす役割は</li> </ul>

No.	氏 名	項 目・要 旨
	下 平 恒 男 ( 新 政 い い だ )	<p>(3) 核家族化、共働き世帯が増加するなかで、子育て世代に寄り添った支援の在り方とは</p> <p>4 医療、福祉政策について</p> <p>(1) 市立病院において市民が安心して医療を受けられる体制を維持するための取組と、経営改善に向けた戦略は</p> <p>(2) 独居や高齢者、要支援者世帯を支えるために「住民支え合いマップ」活用の考え方は</p> <p>5 安全安心な社会基盤整備への取組について</p> <p>(1) 大規模災害への備えについて</p> <p>① 住宅耐震化の進捗状況と「事前復興」についての研究状況は</p> <p>② 日頃の備えについて各世帯への啓発はどうか</p> <p>(2) 支障木や放置竹林などの整備に向けた、市としての考え方は</p>
3	小 林 真 一 ( 公 明 党 )	<p>1 市政運営について</p> <p>(1) いいだ未来デザイン2028後期計画4年間のスタートとしての感触は</p> <p>(2) 第3回定例会市長あいさつでの思いは</p> <p>(3) 令和8年度予算編成の基本方針の『「10年先」を見据えたまちづくり』では次期総合計画も視野に入ってくるが、その考えは</p> <p>2 財政運営について</p> <p>(1) 令和8年度当初予算の規模をどう見るか</p> <p>(2) 長期財政見通しを組み立てた視点として</p> <p>① 令和10年度以降の財政運営目標をどう見るか</p> <p>② 財政健全化判断比率の指標2項目をどう予想するか</p> <p>(3) 行財政改革における事務・事業の分析の見直しによる整理または廃止の具体的な検討状況は</p> <p>3 環境文化都市である飯田市が環境におけるさらなる先進地となるために</p> <p>(1) 「2025年いいだゼロカーボンシティ宣言」の取組の現状は</p> <p>(2) グリーン水素の活用を目指し水素タウン取組計画の現状は</p> <p>(3) 環境文化都市として気候変動に伴う取組の現状と課題は</p> <p>4 市民一人ひとりの「結い」や「ムトス」の精神に火をともしていくために</p> <p>(1) 自治基本条例の学び直しから今後の展望と市民に期待することは</p> <p>(2) 地域に誇りと愛着を持ち住民同士の結びつきをどう構築するか</p> <p>① 地域に誇りと愛着を持つとは</p> <p>② ゆるやかなつながりに向けた取組状況は</p>

No.	氏 名	項 目・要 旨
	小林 真一 (公明党)	<ul style="list-style-type: none"> <li>③ 地域内移住についての現状は</li> <li>④ 飯田の魅力の一つである言葉の文化「方言」の大切さをどう考えるか</li> <li>(3) 都市間交流のこれまでとこれからの考えは</li> <li>5 未来を担う子ども達のために <ul style="list-style-type: none"> <li>(1) いいだ型自然保育の取組の現状と課題は</li> <li>(2) 「特色ある学園の構想を推進する」具体的な取組は</li> </ul> </li> <li>6 防災対策と有事の際に想定される対応について <ul style="list-style-type: none"> <li>(1) 防災アセスメント調査の結果として見えてきたものは</li> <li>(2) 自治体間の防災協定の現状は</li> <li>(3) 災害時に口腔ケアを行える環境整備の取組は</li> </ul> </li> <li>7 飯田市の強みに光を当て持続可能なまちとするために <ul style="list-style-type: none"> <li>(1) 三遠南信自動車道を活用した面的なツーリズムの取組は</li> <li>(2) リニア開業までの期間を考慮した駅周辺の整備を多角的に取り組む考えは</li> <li>(3) さらなる地域内経済循環を目指した取組の考えは</li> </ul> </li> <li>8 どこまでも自分らしく暮らすために <ul style="list-style-type: none"> <li>(1) 終活支援についての検討と取組の考えは</li> <li>(2) 医療的ケア児・者の支援体制の現状は</li> <li>(3) さまざまな感染症への対応と支援の現状は</li> </ul> </li> </ul>
4	市瀬 芳明 (日本共産党)	<ul style="list-style-type: none"> <li>1 市政運営・予算編成の基本方針について <ul style="list-style-type: none"> <li>(1) 市民生活と市政運営の基本姿勢について <ul style="list-style-type: none"> <li>① 物価高騰下における市民生活の状況を市はどのように捉えているか</li> <li>② 飯田市公共施設等総合管理計画が最終年度となるが、次期計画では住民福祉の向上をどのように考えているか</li> </ul> </li> <li>(2) 令和8年度予算編成について <ul style="list-style-type: none"> <li>① 令和8年度予算編成方針で示された「持続可能な行財政」の重点はどこか</li> <li>② 「選択と集中」による事務・事業の再構築、見直し、縮小の検討状況は</li> </ul> </li> </ul> </li> <li>2 地域福祉・地域医療について <ul style="list-style-type: none"> <li>(1) 課題となっているエッセンシャルワーカーの担い手不足への緊急対策と地域医療支援体制についてどのような支援が考えられるか</li> <li>(2) 障がい福祉・生活困窮者支援について</li> </ul> </li> </ul>

No.	氏 名	項 目 ・ 要 旨
	市 瀬 芳 明 ( 日 本 共 産 党 )	<p>① 障がい者総合支援法における就労支援と地域生活支援事業の方向性は</p> <p>② 生活困窮者の伴走支援をどう強化していくか</p> <p>③ こども食堂・こどもの居場所づくりを行政が仕組みをつくって支援していく考えは</p> <p>3 教育・学園構想・スポーツについて</p> <p>(1) 教育施策の現状と課題について</p> <p>① 児童数の減少や学校施設の老朽化など、多岐にわたる課題を踏まえ、市として学園構想は今後どのような方向性を目指して進めようとしているのか</p> <p>② こどもの学びと地域の在り方をどのように両立させるビジョンを持っているのか</p> <p>③ 教員の多忙を解消するために、更なる市独自のスクールサポート支援が必要と考えるがどうか</p> <p>④ 学校や特別支援教育のICTの活用と環境整備の現状と、現状に課題はあるか</p> <p>(2) スポーツ振興について</p> <p>① 部活動の地域展開後も子ども達が文化・芸術・スポーツに参加できる体制の構築状況は</p> <p>② 体育館・グラウンド等の老朽化対応と今後の更新・整備計画は</p> <p>4 環境文化都市の推進について</p> <p>(1) 環境政策の総合評価について</p> <p>① 21'いいだ環境プランの6つのゴールへの取組のうち、どこが遅れていると考えるか</p> <p>② プラスチック資源分別の効果検証(回収量・リサイクル率等)は進んでいるか</p> <p>③ 海洋プラ削減に寄与する「内陸・源流都市モデル」構想を考えられないか</p> <p>(2) 脱炭素・地域エネルギーについて</p> <p>① 資源を活用した地域エネルギー(小水力・バイオマス等)の方向性をどのように考えているか</p> <p>5 林業・農業政策、地域産業について</p> <p>(1) 林業構造の再生について</p> <p>① 森林環境譲与税を活用した間伐・路網整備の重点方針とあわせて、公共建築の木造化やバイオマス利用を進めることで地域材利用率や需要をどのように拡大していくか</p>

No.	氏 名	項 目 ・ 要 旨
	市 瀬 芳 明 ( 日 本 共 産 党 )	<p>(2) 森林保全・環境再生と森林の教育について</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>① 所有者が不明の放置林など荒廃が進む森林の再生計画をどのように進めるか</li> <li>② 森林教育をエコパーク・ジオパークとの学習につなげていく考えは</li> </ul> <p>(3) 農業の担い手・気候変動対策について</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>① 気候変動により集中豪雨やひょうが降るなどし、農作物への被害が今後も考えられるが、対策に要する費用など支援体制について考えは</li> </ul> <p>(4) 農地・農福連携・販売力強化について</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>① 耕作放棄地・荒廃農地の再生を地域とどう進めるか</li> <li>② 農福連携を産業として育成するための支援策は</li> <li>③ 農産物販売力強化のためのAI需要予測やEC(電子商取引)支援の方向性は</li> </ul> <p>6 リニア中央新幹線について</p> <p>(1) 静岡工区の遅延が本市計画へ与える影響について</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>① リニア工事の遅延が本市へ与える影響を市はどのように認識しているのか</li> <li>② 地下水・残土・騒音など環境影響に関する調査や改善要求の現状を踏まえ、市として住民説明会を主体的に開催する考えは</li> </ul> <p>(2) 駅周辺整備と財政負担について</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>① リニア開業の大幅な遅延が確実視される中で、駅周辺整備における市の財政負担をどのように捉えているか</li> <li>② 開業時期の変動により前提条件が大きく変わった交流人口や経済波及効果について、市独自の試算を行う考えは</li> </ul> <p>7 AI活用と観光振興について</p> <p>(1) AIの観光振興活用について</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>① 動線分析や混雑予報などAI導入の検討をどのように進めているか</li> <li>② 体験型観光を活用していくためのデジタルコンテンツづくりや来訪者の回遊性を高めるAI観光案内が有効と考えるが今後の方向性は</li> </ul>

④-2 令和7年飯田市議会第4回定例会一般質問通告表

令和7年12月4日、5日

No.	氏名	項目・要旨
1	宮脇邦彦 (公明党)	<p>1 未来を担う世代が安心して成長していける社会環境について</p> <p>(1) 不登校児童・生徒への取組について</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>① なぜ不登校が増えているか、現状の受止めは</li> <li>② 学校生活での行動のノルマ化などが不登校の環境的な要因と考えるがどうか</li> <li>③ みんなと同じように出来なくてはいけないという、子どもが持つ意識に対して配慮が必要と考えるがどうか</li> <li>④ 義務教育の段階では、子どもは学校に行かなければならないのか</li> <li>⑤ 子どもが学校へ行く目的とは何か</li> <li>⑥ 「教育機会確保法」の基本的な考え方は何か</li> <li>⑦ 教育支援センター「びーいんぐ」の取組と特徴は</li> <li>⑧ 「びーいんぐ」の今後の在り方は</li> <li>⑨ 当市の社会資源を活用した不登校などへの支援は</li> </ul> <p>(2) 若者が集い、交流し、学び、相談できる居場所について</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>① ひきこもり等の困難を抱える若者への支援の現状は</li> <li>② 県の「地域発元気づくり支援金」などを活用し、「ユースセンター」設置へ取り組む考えは</li> </ul>
2	岡村弘子 (公明党)	<p>1 飯田市の女性活躍について</p> <p>(1) 女性が安心して住み続けたいと思えるような取組は</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>① 住民自治活動組織(まちづくり委員会)や審議会・委員会等への女性参画の現状は</li> <li>② 女性参画による好事例は</li> <li>③ 女性の意見を取り入れるための今後の取組は</li> </ul> <p>(2) 女性の就労支援について</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>① 女性のデジタルスキルアップのための養成講座の周知方法、受講者の年齢と当事者の声は</li> <li>② 受講者の就労実態と就労希望者に対する伴走支援は</li> </ul> <p>(3) 女性のウェルビーイングを向上させ、住み続けたい飯田市を目指して、市長の考えは</p>

No.	氏名	項目・要旨
3	片町元彦 (会派きぼう)	<p>1 飯田食文化に根差した「カーボンニュートラル食育戦略」について</p> <p>(1) いいだ未来デザイン2028 基本目標5「誰もが多様な働き方で活躍でき、次世代につながる魅力ある産業をつくる」の推進に向けて</p> <p>① 2024年オーガニックビレッジ宣言によるオーガニック給食の提供は、将来を担う子ども達の体づくり、食育「食を大切に、生涯にわたり健康で豊かに暮らす」そして自然と共生する環境のまちづくりを牽引する重要な役割であると認識しているが、2024年3月に計画された有機農業実施計画(5か年)の現状は</p> <p>ア 有機米栽培の進捗状況は</p> <p>イ 今後の方向性は</p> <p>(2) 有害鳥獣のジビエ利活用について</p> <p>① 食育及び飯田市の伝統的な食文化の視点から有機農業と共にカーボンニュートラルに貢献できるジビエの学校給食の活用は</p> <p>ア 地域内でのジビエの消費拡大(域産域消)を推進するための具体的な取組は</p> <p>イ オーガニック給食にジビエを組み合わせ提供することは有効と考えるかどうか</p>
4	岡本恒和 (新政いいだ)	<p>1 放置竹林の整備</p> <p>(1) 放置竹林について</p> <p>① 整備が必要とされる放置竹林の把握状況は</p> <p>② その課題認識は</p> <p>③ 竹林整備は継続的な取組が重要であり、「多様な主体による協働」による初期整備後の管理も意識する必要がある。地権者のみの対応では困難な場合が多く、再び荒廃竹林化する懸念があるが、市の考えは</p> <p>④ 地権者をはじめ、広く市民への予防啓発を強化する必要があるが、市の考えは</p> <p>(2) 放置竹林整備を核とした地域活性化について</p> <p>① 伐採からブランド化までを一貫した6次産業化につなげた先進的な市内の取組がある。これらの水平展開や地域の竹の特性(種類)に応じた展開をするなど市の方針は</p> <p>② 体験型コンテンツを観光資源として位置づけ、SNS等を活用した発信力強化の考えは</p> <p>③ 次世代の若者への対応は</p> <p>ア 教育プログラムの状況は</p> <p>イ 今後の方針は</p>

No.	氏 名	項 目 ・ 要 旨
5	佐々木博子 (新政いいだ)	<p>1 「福祉」「交通」「自治」がつながる移動支援について</p> <p>(1) 公共交通について</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>① 市の考える公共交通と、その利用対象者は</li> <li>② 公共交通の利用対象者は</li> <li>③ 公共交通となるサービスは</li> <li>④ 市が公共交通政策として考えることはなにか</li> <li>⑤ 公共交通の適正な運賃に対する市の考えは</li> <li>⑥ 免許返納者への支援が一度きりとなっているのはなぜか</li> </ul> <p>(2) 福祉から考える移動支援について</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>① 福祉の視点から考える移動支援の対象者は</li> <li>② 要支援・要介護の認定はないが、公共交通を使うのが難しい人の日常生活を支える支援について市の考えは</li> <li>③ 公共交通と連携した高齢者の外出支援について検討する考えは</li> </ul> <p>(3) 住民互助による移動支援について</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>① 地域の助け合いによる移動支援について検討する考えは</li> </ul> <p>(4) 制度をまたいだ移動支援への対応について市の考えは</p> <p>2 20地区田舎へ還ろう戦略について</p> <p>(1) 地区別人口診断について</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>① 数値目標をどう捉えたら良いか</li> <li>② 具体的な取組に対して、市からの支援はどんなことを考えているか</li> </ul>
6	関島百合 (会派きぼう)	<p>1 図書館の役割とソフト面について</p> <p>(1) 読書会について</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>① 飯田市にはどのような読書会が、どれくらいあるか</li> <li>② 役割をどのように捉えているか</li> <li>③ 広めるためには何が必要か</li> </ul> <p>(2) 幅広い市民のニーズに応えられる取組は</p> <p>(3) 図書館利用が困難な方への対応は</p> <p>(4) 中央図書館で開催された「としょかんマルシェ」について</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>① 成果をどのように捉えているか</li> <li>② 得たものを今後どう活かしていくか</li> </ul> <p>(5) 居場所としての役割への新たな考えは</p>

No.	氏 名	項 目 ・ 要 旨
	関 島 百 合 ( 会 派 き ぼ う )	<p>(6) 全国に誇れる郷土資料をどう守り、どう活かしていくか</p> <p>(7) 図書館司書の役割をどう考えているか</p> <p>2 飯田市の民俗芸能について</p> <p>(1) 民俗芸能の現状は</p> <p>(2) 市の文化財としてどう傳承し、守っていくのか</p>
7	水 月 レ イ ( 会 派 き ぼ う )	<p>1 飯田市の産後ケア事業について</p> <p>(1) 産後ケア事業には宿泊型、デイケア(日帰り)、訪問型の3種類があるが、産後ケアに対する認識はどうか</p> <p>① 産後ケア事業の目的は何か</p> <p>② 事業の利用状況は</p> <p>ア 利用者数はどうか</p> <p>イ 宿泊型利用に補助金があるが、なかなか利用の浸透には至っていない。補助額の上限を上げることは検討しているか</p> <p>③ 宿泊型よりもデイケアの方が利用しやすいと考えるが、市の考えは</p> <p>ア デイケアの必要性をどのように捉えているか</p> <p>イ デイケア利用に対して補助制度が整っている町村もあるが、市の補助制度の今後の方向性は</p> <p>④ 産後ケア事業を利用するための手続は</p> <p>ア 申請の流れはどうなっているか</p> <p>イ 令和6年度から国のガイドラインが変わり、対象者の範囲が拡大されたが、ケアを受けたい方が申請すれば全員利用できるようになっているか</p> <p>ウ 面談の在り方はどうか</p> <p>エ 今後電子申請も可能となるか</p> <p>(2) 産後サポートの取組は</p> <p>① 産後の家事サポートや、母乳育児相談の補助券の存在や利用方法を知らない人がいた。もっと周知や補助券配布の方法を工夫できないか</p> <p>② 産後のニーズに合わせたサービス提供をどう考えるか</p> <p>2 飯田市の産後のお祝いの品について</p> <p>(1) 4ヶ月訪問のときに渡すものは</p> <p>① 燃やすゴミ袋のサイズを市民が選択することを考えられないか</p> <p>② ママたちへのこんなものがもらえたらいいなのアンケート等を実施したり、ニーズに合わせた内容の対応も考えてはどうか</p>

No.	氏 名	項 目 ・ 要 旨
8	松 岡 秀 治 ( 会 派 き ぼ う )	<p>1 野生動物との共存について</p> <p>(1) ツキノワグマとサル、ニホンジカの個体数の状況は</p> <p>(2) 「長野県第二種特定鳥獣管理計画(第5期ツキノワグマ保護管理)」に関して</p> <p>① 本市ではクマゾーニング管理実施計画を立てているか</p> <p>② 緩衝帯整備事業の取組は</p> <p>ア いつから行われているか</p> <p>イ どこでどれぐらいの広さが行われたか</p> <p>ウ 誰が、どのようなことを行ってきたか</p> <p>③ それぞれのエリアを選択した理由は</p> <p>ア 課題や戦略は明確か</p> <p>イ 効果と今後の取組は</p> <p>ウ 効果的な取組は</p> <p>④ 将来的に対策をどのように進めていくか</p> <p>⑤ 緩衝帯整備事業はどのような団体や組織が取り組めるか</p> <p>⑥ 森林ボランティア等の参画はどのように考えているか</p> <p>⑦ いいだWebマップと緩衝帯整備事業を照らし合わせたら効果や次への対策や課題などが明確になり、戦略を立てやすくなると考えるがどうか</p>
9	遠 山 雄 ( 会 派 き ぼ う )	<p>1 飯田市章、日本国旗掲揚について</p> <p>(1) 飯田市の行事において飯田市章、国旗の掲揚の考え方は</p> <p>① 市章や国旗が掲げられている行事とそうでない行事があるがどういった場合に掲げられるか</p> <p>② 市章や国旗を掲げる場合はどのような基準があるか</p> <p>③ りんご並木をモチーフにしたシンボルマーク「時の番人」があるが、市章はどのような位置づけと考えるか</p> <p>④ 近年の国旗損壊罪の動きや、国旗の強制掲揚反対意見など社会的な問題もあるが行政の立場としてどう考えているか</p> <p>⑤ 飯田市議会において議場への市章や国旗の掲揚を検討する必要があると考えるがどうか</p>

No.	氏 名	項 目 ・ 要 旨
	遠 山 雄 ( 会 派 き ぼ う )	<p>2 SDGsの推進について</p> <p>(1) 飯田市のSDGsの取組は</p> <p>① 国では政権が変わり、SDGsに対する姿勢も「多様性・脱炭素・国際主義」中心の取組を一部見直す可能性を示唆しているが、市としてはどう捉えるか</p> <p>② 地方行政は国の下請け機関ではなく、独自の自治権を持つと認識しているが市としての認識は</p>
10	野 崎 直 仁 ( 無 会 派 )	<p>1 道の駅の現状と今後のあり方について</p> <p>(1) 「遠山郷道の駅」の再整備の経緯と現状は</p> <p>① 10億円程の改修費について</p> <p>ア 耐用年数がきた建物を建設時と同程度の費用をかけて改修した理由は</p> <p>イ 維持管理費を考えると今よりこじんまりとした施設に建て替えるか、あるいは減築することは考えなかったか</p> <p>ウ 費用対効果、特に飯田市全体における経済効果をどの様に見積もっているか</p> <p>② 施設の採算性、及び指定管理のあり方について</p> <p>ア 予定来場者数に対して施設規模が大きいと考えるが、採算が取れるか</p> <p>イ 赤字額の見積もりが小さすぎて指定管理料が低すぎないか</p> <p>ウ 指定管理者は過去の実績等を考慮して選定すべきではないか</p> <p>(2) 飯田市にとっての理想的な道の駅とは</p> <p>① コロナ禍で市内には団体客の立ち寄れる施設が少なくなったが、その点からも集客力のある豊丘村の道の駅のような施設は、飯田市にとっても有効と考えるがどうか</p> <p>② 農産物を前面に押し出した豊丘村の道の駅のような施設は、ふるさと納税や田舎に還ろう戦略との相乗効果が見込めると考えるがどうか</p> <p>③ 飯田市全体への経済波及効果や市民の利便性を考えた時の道の駅は、幹線国道沿いのインターからもアクセスの良い場所が最適と考えるがどうか</p> <p>④ 市長が考える理想の道の駅とはどういうものか</p>

## (6) 本会議傍聴状況(R7)

会 期	年 月 日	傍 聴 人 数
第 1 回定例会	令和7年2月27日	4
	令和7年3月4日	11
	令和7年3月5日	25
	令和7年3月21日	4
第 1 回臨時会	令和7年5月12日	4
	令和7年5月13日	2
第 2 回定例会	令和7年6月5日	5
	令和7年6月12日	24
	令和7年6月13日	16
	令和7年6月27日	2
第 3 回定例会	令和7年9月2日	3
	令和7年9月9日	35
	令和7年9月10日	37
	令和7年9月29日	4
第 4 回定例会	令和7年11月26日	12
	令和7年12月3日	11
	令和7年12月4日	13
	令和7年12月5日	5
	令和7年12月19日	3
計		220

#### 4 市議会のあゆみ（昭和46年から）

年	議会の動き
昭和46年 (1971年)	<ul style="list-style-type: none"> <li>・飯田の常備消防を廃止し、飯田市・鼎町・上郷町消防組合へ全面移管するための規約改正を可決</li> <li>・議長 近松宗一、副議長 今村輝男を選出</li> <li>・昭和45年から始まったコメの減反政策について多くの質問があった</li> <li>・鼎、上郷との合併を積極的にすすめるよう質問があった</li> <li>・中央自動車道の早期着工と四車線化を求める意見書を可決</li> <li>・中央道遺跡発掘に伴う埋蔵文化財を収蔵・展示する資料館の建設を求める質問があった</li> <li>・日中国交回復を求める決議がされた</li> <li>・アメリカのドル防衛措置に対して、地元産業の育成策をただす質問があった</li> <li>・県下に先がけて「モーテル建築の規制に関する条例」を可決</li> </ul>
昭和47年 (1972年)	<ul style="list-style-type: none"> <li>・市民憲章の制定について質問があった</li> <li>・市立病院運営審査特別委員会が市立病院の総合病院化を目指す必要性を検討</li> <li>・P C Bなど公害の検査機能の充実を求める質問があった</li> <li>・国民体育大会のラグビー等の競技を飯田において開催できるよう県に対して陳情を行った</li> <li>・飯田市公民館の全面改築を求める陳情を採択</li> <li>・乱開発による環境破壊を防止して郷土の自然を守るため、「自然環境保全条例」を可決</li> <li>・中津川線の見通しと中央新幹線構想についての質問があった</li> <li>・市議会議員補欠選挙</li> <li>・松澤市政の誕生に伴い、その政治姿勢について、活発な質問がなされた</li> <li>・中央自動車道関連の道路整備などを要望する質問があった</li> <li>・福祉や教育施策充実を要望する質問があった</li> </ul>
昭和48年 (1973年)	<ul style="list-style-type: none"> <li>・老人医療費を無料化する対象年齢を69歳に引き下げる条例を制定</li> <li>・飯田に大学を設立すべきとする質問があった</li> <li>・市議会議員一般選挙 議長 伊原悦雄、副議長 新井安男を選出</li> <li>・中央道開通後予想される騒音、排気ガス、電波障害等の公害対策について質問があった</li> <li>・老朽化がすすむ小中学校の早期改築を求める質問があった</li> <li>・オイルショック、物価高、モノ不足に対する対策を求める質問が集中</li> <li>・鼎、上郷との合併の推進を求める質問が集中</li> <li>・石油危機打開を求める意見書を可決</li> <li>・中央新幹線の早期建設と飯田への駅設置を求める意見書を可決</li> </ul>

年	議会の動き
昭和49年 (1974年)	<ul style="list-style-type: none"> <li>・一般会計予算に関して予算審査特別委員会で賛否の結論が出ず、「六月段階で措置されるよう市長に要望する」という議長斡旋で收拾され、可決</li> <li>・廃棄物の処理及び清掃に関する条例案に関して、し尿の収集料金の改定について意見が分かれ、最終日を迎えても結論が出ないため、議会の会期を延長して審査を行い、委員会修正案を可決</li> <li>・国保税率の決定にあたって、特別委員会の意見を踏まえ、市長が税率を下方修正する原案の訂正を行って可決</li> <li>・中央道開通を間近に控え、地場産業振興や観光振興策、あるいは公害対策を求める質問があった</li> <li>・教育文化センター（新飯田市公民館）の建設構想について質問があった</li> <li>・西部統合中学の計画について、地元対策をただす質問があった</li> <li>・東中学校の火災で緊急に議会全員協議会が開かれた</li> <li>・飯田市民の消費生活を守る条例を可決</li> </ul>
昭和50年 (1975年)	<ul style="list-style-type: none"> <li>・中央道の恵那山第二トンネルの早期着工を求める意見書を可決</li> <li>・中津川線の建設見通しをただす質問があった</li> <li>・議長 伊原悦雄、副議長 林 昌平を選出</li> <li>・中央道開通に伴う飯田 I C 周辺の道路整備、公害対策、観光開発、産業振興策について多くの質問がされた</li> <li>・窮迫した地方財政のもとでの市行政について集中論議が行われた</li> <li>・開通した中央道の恵那山、網掛トンネル前後の40キロ規制の緩和を求める意見書を可決</li> <li>・風越高校の跡地利用について質問があった</li> <li>・中央道の騒音公害対策や天竜峡付近の交通渋滞の解決を求める質問があった</li> </ul>
昭和51年 (1976年)	<ul style="list-style-type: none"> <li>・深夜から未明に及ぶ議会において、市議会議員の定数をそれまでの36名から30名に減少する条例が可決された。一口に「暁の本会議」と言われている</li> <li>・市長が提案した国保税率の引上げ率が下方修正して可決</li> <li>・付加価値税新設に反対する意見書を可決</li> <li>・工場再配置補助金問題調査特別委員会と駅前観光案内所問題調査特別委員会を設置</li> <li>・市議会議員補欠選挙</li> <li>・ニホンカモシカの食害対策を求める意見書を可決</li> <li>・風越高校跡地利用に関して、警察署の建設と、東中学校の建設を求める陳情が出され、その対応で慎重な審査がされた</li> <li>・メッキ工場の建設を求める質問があった</li> </ul>

年	議会の動き
昭和52年 (1977年)	<ul style="list-style-type: none"> <li>・老人医療費特別給付金の一部改正条例を修正可決</li> <li>・市議会議員一般選挙 議長 林 昌平、副議長 松江良夫を選出</li> <li>・広域水道の統合について質問があった</li> <li>・飯田駅前再開発を求める質問があった</li> <li>・円高不況対策について質問があった</li> </ul>
昭和53年 (1978年)	<ul style="list-style-type: none"> <li>・長姫高校の移転を想定した跡地利用について質問があった</li> <li>・水道事業の統合が特別議決をもって可決</li> <li>・中央新幹線・中津川線建設促進特別委員会を設置</li> <li>・市立図書館の改築について質問があった</li> <li>・合併促進特別委員会が設置された</li> <li>・国道153号線バイパスの建設促進を求める意見書を可決</li> <li>・中学生が教師を殴打した事件について質問が集中</li> </ul>
昭和54年 (1979年)	<ul style="list-style-type: none"> <li>・老人医療費の無料化を65歳までとする条例を可決</li> <li>・国際児童年に対する取組について質問があった</li> <li>・議長 林 昌平、副議長 片桐 勲を選出</li> <li>・地震防災対策強化地域の指定に関して質問があった</li> <li>・駅前、知久町、銀座、本町など旧市街地の再開発について質問があった</li> <li>・果樹共済制度の改善に関する意見書を可決</li> <li>・モデル定住圏の指定に関して質問があった</li> <li>・県営野球場の誘致と総合運動公園の整備について質問があった</li> <li>・一般消費税創設反対に関する意見書を可決</li> <li>・市立病院の総合病院化について質問があった</li> </ul>
昭和55年 (1980年)	<ul style="list-style-type: none"> <li>・国鉄経営再建促進特別措置法案の見直しを求める意見書を可決</li> <li>・中津川線を断念し、中央新幹線建設促進に乗換えたかどうかとする質問があった</li> <li>・土地買収に関する土地開発公社の不手際等について調査特別委員会を設置</li> <li>・大韓民国と朝鮮民主主義人民共和国の自主的平和統一に関する意見書を可決</li> <li>・カモシカの食害防止策についての意見書を可決</li> <li>・西部統合中学の改築計画の進捗状況について質問があった</li> <li>・土地開発公社をめぐる不祥事について質問が集中</li> <li>・アメリカシロヒトリの防除対策について質問があった</li> <li>・B型肝炎への対策について質問があった</li> <li>・市議会議員補欠選挙</li> </ul>

年	議会の動き
昭和55年 (1980年)	<ul style="list-style-type: none"> <li>・北方領土の返還促進などを求める意見書を可決</li> <li>・川路、龍江の天竜川流域の災害危険区域条例撤廃に関して質問があった</li> </ul>
昭和56年 (1981年)	<ul style="list-style-type: none"> <li>・地場産業振興センターの建設について質問があった</li> <li>・市議会議員一般選挙 議長 林 昌平、副議長 松江良夫を選出</li> <li>・国際障害者年に際しての取組について質問があった</li> <li>・中央新幹線、飯田線の強化、中津川線問題を審議する鉄道問題特別委員会を設置</li> <li>・婦人に対するあらゆる形態の差別撤廃に関する条例の早期批准を求める意見書を可決</li> <li>・国鉄飯田線の合理化計画撤回等に関する意見書を可決</li> <li>・若者が定着できるよう企業誘致条例の復活を求める質問があった</li> <li>・地元との調整が長引く西部統合中問題について、多くの質問があった</li> </ul>
昭和57年 (1982年)	<ul style="list-style-type: none"> <li>・臨時議会において、伊賀良と山本の両中学校を統合し、昭和60年に新たに西部中学校として発足することが可決</li> <li>・長姫高校跡地のあり方について質問があった</li> <li>・統合中学の進捗状況について多くの質問があった</li> <li>・A議員の問責決議案が可決</li> <li>・市民の直接請求による西部統合中学校を廃止する条例案を否決</li> <li>・飯田市・鼎町合併協議会の設置を可決</li> <li>・飯田線の分割・民営化反対に関する意見書を可決</li> </ul>
昭和58年 (1983年)	<ul style="list-style-type: none"> <li>・市立病院の経営改善と改築について審査するため、病院問題特別委員会を設置</li> <li>・飯田市農協、中央農協の合併の推進について質問があった</li> <li>・議長 松嶋健次、副議長 平沢與一を選出</li> <li>・農畜産物輸入自由化、枠拡大阻止に関する意見書を可決</li> <li>・大中型店の出店の動きと丘の上商店街の活性化について質問があった</li> <li>・美術博物館の構想について質問があった</li> <li>・コンピューター導入に伴うプライバシー保護の問題、あるいは情報公開制度について質問があった</li> <li>・西部統合中学校の名称を「旭ヶ丘中学校」とする条例改正案を可決</li> <li>・10万都市実現のため、鼎、上郷との同時合併を求める質問があった</li> <li>・9月28日の10号台風による災害復旧を検討するため、緊急に臨時議会が開かれ10号台風災害対策特別委員会と、天竜水系治水災害対策特別委員会を設置</li> </ul>

年	議会の動き
昭和58年 (1983年)	<ul style="list-style-type: none"> <li>・40人学級早期実現に関する意見書を可決した</li> <li>・松くい虫対策について質問があった</li> <li>・川路、龍江、竜丘の災害危険区域に関する今後の対応について質問があった</li> </ul>
昭和59年 (1984年)	<ul style="list-style-type: none"> <li>・三遠南信自動車道の実現の可能性について質問があった</li> <li>・非核平和都市宣言を可決</li> <li>・人種差別撤廃条約の早期批准に関する意見書を可決</li> <li>・天竜川治水対策と天竜峡の景観保全について質問があった</li> <li>・鼎町との合併に関する議案審議のため臨時議会が開かれ、12月1日の合併を全会一致で議決</li> <li>・市職員に60歳の定年制を導入する条例を可決</li> <li>・国鉄の分割民営化反対に関する意見書を可決</li> <li>・市議会議員の定数を31名に減少する条例を可決</li> <li>・新しい街づくりの中での鼎地区の位置付けについて質問があった</li> <li>・天竜川の恒久的な治水対策を求める意見があった</li> <li>・テクノハイランド構想について質問があった</li> </ul>
昭和60年 (1985年)	<ul style="list-style-type: none"> <li>・スパイクタイヤの粉じん公害について質問があった</li> <li>・上郷町との早期合併を求める質問があった</li> <li>・市議会議員一般選挙 議長 松嶋健次、副議長 平沢與一を選出</li> <li>・指紋押捺問題に関連して、外国人登録法の改正に関する意見書を可決</li> <li>・ゴミ焼却場移転問題について質問があった</li> <li>・国鉄飯田線の分割民営化の動きに関して質問があった</li> <li>・若者の定住対策と企業の育成策について質問があった</li> <li>・路線バスの廃止問題が質問された</li> <li>・鼎との合併一年後の評価について質問があった</li> <li>・学校の「いじめ」問題について質問があった</li> <li>・世界人形劇フェスティバル開催(1988年)に名乗りを上げることの質問があった</li> <li>・婦人の地位向上のための施策について質問があった</li> <li>・高齢化が一層すすむ中で、在宅福祉について質問があった</li> </ul>
昭和61年 (1986年)	<ul style="list-style-type: none"> <li>・上郷町との合併に向けた取組について質問があった</li> <li>・コンピューター専門学校の建設費について質問があった</li> <li>・市立病院の赤字と院長人事問題で特別委員会を設置</li> <li>・院長解任に伴う市立病院の正常化について質問があった</li> <li>・大型間接税の導入は慎重に対処すべきという旨の意見書を可決</li> </ul>

年	議会の動き
昭和61年 (1986年)	<ul style="list-style-type: none"> <li>・中国引き揚げ孤児の定住援護策について質問があった</li> <li>・美術博物館の性格と財源について質問があった</li> <li>・公文書の公開条例と、個人情報の保護条例を可決</li> <li>・暴力団追放都市宣言を可決</li> <li>・飯田工業高校の移転に伴う跡地利用について質問があった</li> </ul>
昭和62年 (1987年)	<ul style="list-style-type: none"> <li>・売上げ税導入に反対する意見書を可決</li> <li>・美術博物館建設特別委員会を設置</li> <li>・中央新幹線、三遠南信自動車道の建設促進について質問があった</li> <li>・エイズ対策について質問があった</li> <li>・議長 平沢與一、副議長 細田直彦を選出</li> <li>・屋外広告物に係る環境美化等に関する条例を可決</li> <li>・老人福祉の中間施設の計画について質問があった</li> <li>・市政50周年記念事業として、中学生による子ども議会が開かれた</li> <li>・市立病院の移転決定と、地元対策について質問があった</li> <li>・世界人形劇フェスティバルの準備状況と、シャルルヴィル・メジエール市との姉妹都市締結について質問がされた</li> <li>・中央新幹線の飯田経由と駅舎設置に関する決議を行った</li> <li>・東中学校の教師死亡に関して質問があった</li> <li>・人形劇場の入札が保留になったことについて質問があった</li> </ul>
昭和63年 (1988年)	<ul style="list-style-type: none"> <li>・フランスのシャルルヴィル・メジエール市と国際友好都市の締結をすることを可決</li> <li>・美術博物館の職員体制や、運営について多くの質問があった</li> <li>・三遠南信自動車道の竜東地域にインターチェンジを求める質問があった</li> <li>・新しい市立病院の整備方針（マスタープラン）を了承</li> <li>・上郷町との合併協議30項目を了承</li> <li>・天竜川治水対策、四者協議の結論を了承</li> <li>・ギフチョウの保護対策について質問があった</li> <li>・市議会議員補欠選挙 副議長 関島一郎を選出</li> <li>・コメの市場開放阻止に関する意見書を可決</li> <li>・保育園の空き室を託老所にする質問があった</li> </ul>
平成元年 (1989年)	<ul style="list-style-type: none"> <li>・消費税導入に関して賛成、反対の論議が集中</li> <li>・リニア新幹線が停まるまちづくりについて質問があった</li> <li>・市議会議員一般選挙 議長 塩澤 昭、副議長 竹村仁實を選出</li> <li>・土曜閉庁関連条例を可決</li> <li>・新市立病院建設の基本計画を了承</li> </ul>

年	議会の動き
平成元年 (1989年)	<ul style="list-style-type: none"> <li>・有線放送局の不祥事に関して質問が集中</li> <li>・長野の冬季五輪招致への考え方について質問があった</li> <li>・学校教育における日の丸掲揚と君が代斉唱についての考え方について質問があった</li> <li>・天竜川治水対策の基本計画を了承</li> <li>・有線放送を廃止し、オフトーク通信システムを導入することを了承</li> <li>・土地利用計画の策定の必要性について質問があった</li> </ul>
平成2年 (1990年)	<ul style="list-style-type: none"> <li>・消費税導入を想定した新年度予算に関して賛否両論の議論が展開された</li> <li>・有線放送局不正経理事件について質問が多くされた</li> <li>・中国からの帰国者のために日本語学級を開設するよう質問があった</li> <li>・県議会議員の飯田市区定数1名増を求める意見書を可決した</li> <li>・飯田駅貨物用地跡地利用に関して質問があった</li> <li>・天竜峡温泉の交通渋滞の解消、下水道の整備等について質問があった</li> <li>・松尾地区の内水排除について質問があった</li> <li>・登校拒否児童への適切な指導を求める質問があった</li> </ul>
平成3年 (1991年)	<ul style="list-style-type: none"> <li>・議長 竹村仁實、副議長 松江良夫を選出</li> <li>・竜東地区の開発計画について質問があった</li> <li>・農村集落の活性化を図る地域マネジメント事業について質問があった</li> <li>・議長 實原 裕、副議長 内山照美を選出</li> <li>・松くい虫の被害が広がる深刻な事態に対して質問があった</li> <li>・土地利用政策審議会の設置を求める質問があった</li> <li>・りんご並木の整備構想について質問があった</li> <li>・MRSA感染対策について質問があった</li> <li>・看護婦養成のための高等看護学校の誘致を求める質問があった</li> <li>・上郷町との合併時期について市長の政治決断を求める質問があった</li> <li>・平和予算の創設を求める質問があった</li> <li>・信州いいだ農協発足に伴い、行政と農協が一体となった農業振興を求める質問があった</li> <li>・飯田駅貨物用地跡地取得の経過について質問があった</li> </ul>
平成4年 (1992年)	<ul style="list-style-type: none"> <li>・大学誘致についての質問があった</li> <li>・拠点都市地域の指定を目指すことについて質問があった</li> <li>・学校5日制の受け皿について質問があった</li> <li>・オフトークでの議会本会議中継はじまる</li> <li>・若者定着と工業振興について質問があった</li> </ul>

年	議会の動き
平成4年 (1992年)	<ul style="list-style-type: none"> <li>・特別委員会にて大詰めの合併協議が行われた</li> <li>・自然環境の保全と環境に優しい社会の実現を期して、「環境宣言」が決議された</li> <li>・市役所の完全週休2日制の導入について質問があった</li> <li>・エイズに対する予防啓発について質問があった</li> <li>・市議会議員補欠選挙</li> <li>・上郷町と平成5年7月1日に合併することを議決した</li> <li>・拠点都市指定に向けての取組状況について質問があった</li> <li>・中学生の問題行動に対する指導について質問があった</li> </ul>
平成5年 (1993年)	<ul style="list-style-type: none"> <li>・ガットにおけるコメの例外なき関税化の導入を拒否し、基礎的食料の国内自給堅持を求める意見書を可決</li> <li>・地域医療に果たす新市立病院の役割について質問があった</li> <li>・中心市街地のドーナツ化現象への対策について質問があった</li> <li>・市議会議員一般選挙 議長 今村八束、副議長 澤柳辨治郎を選出</li> <li>・上郷との合併関連議案68件を可決</li> <li>・コメの市場開放阻止等を求める意見書を可決</li> <li>・拠点都市の計画策定に関して、高速交通網の整備等について質問があった</li> <li>・上郷合併に伴う議員の増員選挙が行われ、5名が市議会議員に仲間入りした</li> <li>・シャルルヴィル・メジエール市のロジェマス市長が市議会を表敬訪問された</li> <li>・地方拠点都市地域整備促進特別委員会を設置</li> <li>・みどりの基金創設について質問があった</li> <li>・県営サッカー場の誘致について質問があった</li> <li>・不況下での産業振興策について質問があった</li> <li>・天竜川流域にカヌー競技施設の建設を求める意見書を可決</li> <li>・地方分権の実現を求める意見書を可決</li> <li>・コメの市場開放を阻止し、抜本的農業施策実現を求める意見書を可決</li> </ul>
平成6年 (1994年)	<ul style="list-style-type: none"> <li>・飯伊広域行政組合設立に伴う関連議案を可決</li> <li>・4年制大学の誘致について質問があった</li> <li>・市町村の共同出資のバス運行について質問があった</li> <li>・環境、文化、情報化、公共施設の4つのテーマで政策調査研究部会が発足</li> <li>・三遠南信地域に首都機能の移転を目指せという質問があった</li> <li>・サッカーくじ法案化について質問があった</li> <li>・農業集落排水事業実施区域の拡大を求める質問があった</li> <li>・不況下において女性の雇用を守ることを求める質問があった</li> <li>・12年ぶりの水道料金値上げを、建設委員会が3日間にわたる審査のうえ賛成多数で可決した。</li> </ul>

年	議会の動き
平成6年 (1994年)	<ul style="list-style-type: none"> <li>・北信越市議会議長会産業・経済対策特別委員会が天竜峡で開催</li> <li>・議会だより100号記念号発行</li> <li>・今村八束議長が友好都市シャルルヴィル・メジエール市（フランス）を訪問</li> <li>・市民の生活環境の確保と市土の均衡ある発展を図るための国土利用計画（飯田市計画）を可決</li> <li>・水道料金を12年ぶりに改定。平均アップ率18・7%を三日間の審議の末に可決</li> <li>・上郷町との合併により、新たな議員定数を調査研究する「議員定数問題調査特別委員会」を設置</li> </ul>
平成7年 (1995年)	<ul style="list-style-type: none"> <li>・第1回臨時会において、今村八束議長・松島年一副議長を選出</li> <li>・「中国の核実験に抗議し、フランスの核実験再開中止を求める決議」を可決し両大使館に意見書を送付</li> <li>・飯田市における政治倫理の確立のため「市長の資産等の公開に関する条例」を可決。これにより市長は資産等の報告書の作成が義務付けられ、閲覧請求が可能になった</li> <li>・上郷町編入合併に伴い5人増の36人となっていた議員数を定数31人にすることを議決</li> </ul>
平成8年 (1996年)	<ul style="list-style-type: none"> <li>・全議員による「基本構想審査特別委員会」を設置、第四次基本構想・基本計画「環境文化都市を目指して」を可決</li> <li>・第2回定例会において「第四次基本構想に基づく組織機構改革案」を否決。この採決をめぐり最大会派の明政会が分裂し過半数を割ることとなった。この議案は第3回定例会で一部修正のうえ再提案され起立採決の結果賛成多数で可決</li> <li>・飯田市はあらゆる人権侵害の根絶を誓うため、「人権尊重都市宣言」を可決</li> <li>・「病原性大腸菌O157による食中毒対策に関する意見書」を国関係機関に提出</li> <li>・市議会議員補欠選挙で1人選出</li> </ul>
平成9年 (1997年)	<ul style="list-style-type: none"> <li>・市議会改選（投票率81・9%、上郷町と合併後初、特例による議員数36人から議員定数31人に）</li> <li>・第1回臨時会において、小林利一議長・片桐司郎副議長を選出</li> <li>・市立病院と高松病院の機能、役割分担を検討するために「病院問題特別委員会」を設置</li> <li>・風越山麓に計画された送電線建設に対して景観、電磁波、産業振興、飯田市の環境条例などの観点から第2回、第3回定例会において計6件の請願・陳情があり審査・市政に関する独自の調査をし、政策提言をする「政策調査研究部会」（農業振興・交通施策・観光施策の3部会）がスタート</li> </ul>

年	議会の動き
平成10年 (1998年)	<ul style="list-style-type: none"> <li>・議員定数削減に続く財政改革で、「議員の各種審議会報酬を辞退すること」を全会一致で可決。長野県下初であり、全国的にも先駆的な取り組み</li> <li>・「インド並びにパキスタンの地下核実験に対する抗議の決議」を可決</li> <li>・第3回定例会において、人形劇カーニバルのあり方について活発な議論を展開</li> <li>・「大型店の元旦営業自粛に関する決議」を可決し、市内大型店に申し入れ</li> </ul>
平成11年 (1999年)	<ul style="list-style-type: none"> <li>・平成9年にスタートした「政策調査研究部会」が2か年の研究を報告</li> <li>・第1回臨時会において、小林利一議長・中田佳甫副議長を選出</li> <li>・ごみ処理手数料として30円から60円を負担する、「ごみ処理費用有料化」を可決</li> <li>・「公共下水道受益者負担金改定」を可決（面積1㎡当たり現行390円から520円に段階的な引上げ）</li> <li>・「中心市街地総合再生特別委員会」及び「介護保険特別委員会」を設置</li> </ul>
平成12年 (2000年)	<ul style="list-style-type: none"> <li>・「政策調査研究部会」（地方分権・ISO・工業振興3部会）が平成12年度1か年の研究を報告</li> <li>・介護保険制度の施行に伴い関連する12件の条例を可決</li> <li>・国民健康保険税事業から介護保険への移行に伴う、「国保税の引き下げ」を可決</li> <li>・公共下水道（平均9.8%）及び農業集落排水施設（7.2%）の「使用料引き上げの改定」を可決</li> <li>・市議会議員補欠選挙で1人選出</li> </ul>
平成13年 (2001年)	<ul style="list-style-type: none"> <li>・市議会改選（投票率75.3%、議員数31人の内女性議員6人が誕生）</li> <li>・第1回臨時会において、西尾喜好議長・牧内信臣副議長を選出</li> <li>・森林・林業・林産業の活性化と山村振興の推進を図ることを目的に「林業活性化推進飯田市議員連盟」が発足</li> <li>・飯田市地域交流センター設置条例（本町一丁目に建設中の「トップヒルズ本町」に「りんご庁舎」を設置、及びその管理について定めるもの）を可決</li> <li>・水道料金（上水道平均4.0%・簡易水道平均2.7%）の「引き上げの改定」を可決</li> <li>・アメリカでのテロの犠牲者に対し黙祷し、「同時多発テロを強く糾弾する決議」を採択</li> </ul>
平成14年 (2002年)	<ul style="list-style-type: none"> <li>・行政機関の保有する情報の公開に関する法律が施行されたのに伴い「飯田市情報公開条例」を可決</li> <li>・暴走運転をなくし平穏な地域社会を実現するための「飯田市暴走行為を根絶する条例」を可決</li> </ul>

年	議会の動き
平成14年 (2002年)	<ul style="list-style-type: none"> <li>・「飯田市議会の議員の報酬等に関する条例」の一部を改正する条例を可決 (議員の月額報酬3%の引き下げ)</li> <li>・「飯田市議会あり方研究会」を発足</li> <li>・「飯田市差別の撤廃と人権の尊重に関する条例」を可決</li> <li>・菱田春草筆「菊慈童」及び「牧童」を取得することを承認(取得金額3億5千万円)</li> </ul>
平成15年 (2003年)	<ul style="list-style-type: none"> <li>・「飯田市福祉医療費給付金条例」を可決(全県統一の自動給付方式を導入)</li> <li>・第1回臨時会において、議長に岩崎和男氏・副議長に渡淳氏を選出</li> <li>・「合併特別委員会」「土地利用特別委員会」「議員定数特別委員会」を設置</li> <li>・「住基ネット関連2議案」を可決(住基カードを希望者に、1枚500円で交付するための条例改正)</li> <li>・「歴史研究所条例案」を可決(市民の教育及び文化の向上発展などに寄与するための研究所を設置)</li> <li>・「ごみ処理手数料の改定案」を可決(環境保全対策により経費増のため、半分を利用者が負担)</li> </ul>
平成16年 (2004年)	<ul style="list-style-type: none"> <li>・「市議会議員定数を4人減の27人」にすることを可決</li> <li>・「わがまちの“憲法”を考える市民会議」を5月に設置</li> <li>・「飯田市都市計画条例」の一部を改正する条例を可決</li> <li>・「わがまちの“憲法”を考える市民会議」が11月8日、岩崎和男議長に中間報告を提出</li> <li>・「合併関連2議案」を可決(飯田市・上村・南信濃村合併協議会の設置について)</li> <li>・市議会議員補欠選挙で2人選出</li> </ul>
平成17年 (2005年)	<ul style="list-style-type: none"> <li>・「上村、南信濃村との合併関連6議案」を可決</li> <li>・市議会改選(投票率72.3%、議員数27人)</li> <li>・第1回臨時会において、議長に熊谷富夫氏・副議長に林幸次氏を選出</li> <li>・「自治基本条例」「土地利用計画」の特別委員会を設置</li> <li>・「高等学校改革プランの検討に関する意見書」を県に提出(高等学校数の削減を行わないよう求める意見書)</li> <li>・「個人情報保護条例」を可決</li> <li>・一般質問において一問一答方式を試験導入(一括質問一括答弁方式から、一問一答方式に変更)</li> <li>・上村及び南信濃村の編入合併に伴う増員選挙(定数2、投票率82%、特例により議員定数27人から29人に)</li> </ul>

年	議 会 の 動 き
平成17年 (2005年)	<ul style="list-style-type: none"> <li>・ 議会本会議の映像生中継をスタート</li> <li>・ 「男女共同参画推進条例」を可決</li> </ul>
平成18年 (2006年)	<ul style="list-style-type: none"> <li>・ 「国民保護法関連2条例」を可決（武力攻撃事態等における国民の保護のための措置に関する法律に関連する条例）</li> <li>・ 飯田市における土地利用の基本的な指針を策定「国土利用計画」（第2次飯田市計画）を可決</li> <li>・ 第5次基本構想・基本計画の策定にあたり「基本構想基本計画検討委員会」を設置</li> <li>・ 市民・議会・行政の連携により研究を進めてきた「飯田市自治基本条例」を第3回定例会で議員提出議案として全会一致で議決</li> <li>・ 飯田市の各地区に平成19年度から設置される地域自治区について、「飯田市地域自治区の設置等に関する条例案、飯田市公民館条例の一部を改正する条例」を可決</li> </ul>
平成19年 (2007年)	<ul style="list-style-type: none"> <li>・ 温泉宿舎天竜峡を飯田市が購入することを承認</li> <li>・ 「飯田市土地利用基本条例」を可決</li> <li>・ 「環境文化都市宣言」を可決</li> <li>・ 第1回臨時会において、上澤義一議長・矢澤芳文副議長を選出</li> <li>・ 議員定数の削減に向けて「議員定数特別委員会」を設置し定数を23人に決定</li> <li>・ 「第2回マニフェスト大賞審査委員会特別賞」を受賞（飯田市自治基本条例の制定までの取組みが評価される）</li> </ul>
平成20年 (2008年)	<ul style="list-style-type: none"> <li>・ 「飯田市後期高齢者医療制度に関連した条例」を可決（75歳以上の高齢者に新たな負担となるため議論が集中）</li> <li>・ 「飯田市福祉医療費給付金条例の一部を改正する条例」を可決（子どもの支給対象を小学6年生まで引上げ）</li> <li>・ 「飯田市議会の議員の定数を定める条例」を可決（平成21年4月の選挙から定数23人に決定）</li> <li>・ 議会議案検討委員会に置いて、ポイ捨ての規制に関する条例制定の必要性を調査</li> <li>・ 決算認定に結びつける議会の行政評価がスタート（行政評価の手法を用い決算を認定）</li> <li>・ 「庁舎検討委員会」が発足（3回の委員会を経て市側の新庁舎建設の基本的な方針案を了承）</li> <li>・ 市内20地区で初の議会活動報告会を開催（市政懇談会終了後30分間）</li> </ul>

年	議会の動き
平成21年 (2009年)	<ul style="list-style-type: none"> <li>・「副市長の定数を1から2に改める条例」を可決</li> <li>・「土地利用計画特別委員会」を廃止</li> <li>・市議会改選（投票率64・3%、上村・南信濃村との合併特例による議員数27人から議員定数23人に）</li> <li>・第2回臨時会において初の立候補制による正副議長選挙を実施。中島武津雄議長・清水可晴副議長を選出</li> <li>・「リニア中央新幹線の早期実現及び飯田駅設置実現に関する決議」を賛成多数で可決</li> <li>・市内を6ブロックに分け2回目の議会報告会を開催（市民487名が参加）</li> </ul>
平成22年 (2010年)	<ul style="list-style-type: none"> <li>・本庁舎の建替整備に向け調査研究を行うため「庁舎特別委員会」を設置</li> <li>・「飯田市リニア中央新幹線飯田駅整備推進基金条例」を可決（リニア中央新幹線の実現に向けた取り組みを強化）</li> <li>・年度内にルート決定が見込まれる中、調査研究を深めていくため「リニア推進対策特別委員会」を設置</li> <li>・「飯田市福祉医療費給付金条例の一部を改正する条例」を可決（子どもの支給対象を中学3年生まで引上げ）</li> <li>・第3回議会報告会を開催（市民469人が参加）</li> <li>・「飯田市地域自治区の設置等に関する条例の一部改正条例」を可決（上村及び南信濃地区を地域自治区に移行）</li> </ul>
平成23年 (2011年)	<ul style="list-style-type: none"> <li>・第1回定例会において東日本大震災支援のための22年度補正予算を可決</li> <li>・第2回臨時会において、上澤義一議長・村松まり子副議長を選出</li> <li>・東日本大震災支援のための23年度補正予算を可決</li> <li>・「飯田市国民健康保険条例の一部改正条例」を可決 （2年連続平均7%の増額）</li> <li>・損害賠償に係る議会未提出案件（110件）について議会を軽視するものとして市側に改善申し入れ</li> <li>・「第5次基本構想基本計画後期計画」を可決（人口目標10万2千人に）</li> <li>・第4回議会報告会を開催（市民444人が参加）</li> </ul>
平成24年 (2012年)	<ul style="list-style-type: none"> <li>・「議会改革・運営ビジョン」を策定し新たな議会改革の取り組みとして常設の機関「議会改革推進会議」を設置</li> <li>・議会改革の一環として、初の「議長記者会見」を開催、委員会の自由傍聴の実現、本会議のインターネットによる映像配信を開始</li> <li>・新庁舎実施設計を了承</li> </ul>

年	議 会 の 動 き
平成24年 (2012年)	<ul style="list-style-type: none"> <li>・「第7回マニフェスト大賞最優秀成果賞」を受賞（行政評価や議会報告会の実践などが評価される）</li> <li>・第5回議会報告会を開催（市民461人が参加）</li> </ul>
平成25年 (2013年)	<ul style="list-style-type: none"> <li>・市議会改選（投票率58・3%議員数23人）</li> <li>・第1回臨時会において、林幸次議長・木下克志副議長を選出</li> <li>・常任委員会を3委員会とし、議員の複数所属をやめ単独所属とする</li> <li>・より開かれた議会運営のため「広報広聴委員会」を設置</li> <li>・委員会審議において初の「議員間自由討議」を実施</li> <li>・初の政策討論会を開催（不法投棄対策について市長に提言）</li> <li>・「ポイ捨て等防止及び環境美化を推進する市民条例」を可決</li> <li>・「特定秘密保護法案に対する慎重な審議を求める意見書」を国関係機関に提出</li> <li>・議会の行政評価で「天竜峡温泉交流館管理事業」について、廃止を含め指定管理委託など検討を行うよう提言</li> <li>・第6回議会報告会を開催（市民510人が参加）</li> </ul>
平成26年 (2014年)	<ul style="list-style-type: none"> <li>・議会の行政評価において「農業課合同事務所事業」の廃止、「農作物被害対策事業」「リニア推進事業」「小中連携・一貫教育推進事業」の拡大などを提言</li> <li>・天龍峡温泉交流館の指定管理者管理委託を承認</li> <li>・「手話言語法(仮称)等の早期制定を求める意見書」を国及び県の関係機関に提出</li> <li>・第7回議会報告会を開催（市民543人が参加）</li> <li>・第4回定例会終了後、議場の新庁舎移転に伴う「旧議場のお別れ会」を開催</li> </ul>
平成27年 (2015年)	<ul style="list-style-type: none"> <li>・初の議会出前講座を広報広聴委員会が実施（松尾小学校）</li> <li>・県下初の対面式新議場で第1回定例会を開催</li> <li>・社会文教委員会が介護保険条例の一部改正に関して自由討議を実施。議案可決後に委員提案の附帯決議を可決。</li> <li>・第2回定例会から淡路結びの水引を議場に設置</li> <li>・第1回臨時会において、木下克志議長・木下容子副議長を選出</li> <li>・「長期欠席議員の議員報酬の特例に関する条例」を議決</li> <li>・「平和安全法制の慎重かつ適正な運用を求める意見書」を国及び関係機関に提出</li> <li>・「飯田市福祉医療費給付金条例の一部を改正する条例」を可決（支給対象を満15歳から満18歳に引上げ）</li> <li>・木下克志議長が友好都市シャルルヴィル・メジエール市（フランス）を訪問</li> </ul>

年	議会の動き
平成27年 (2015年)	<ul style="list-style-type: none"> <li>・ 第8回議会報告会を開催（市民498人が参加）</li> <li>・ 新教育委員会制度で初の教育長に代田昭久氏を任命することに同意</li> </ul>
平成28年 (2016年)	<ul style="list-style-type: none"> <li>・ 「飯田市議会パネル取扱要綱」、「飯田市議会災害対応指針」を制定</li> <li>・ 基本構想基本計画特別委員会を設置し、次期総合計画「いいだ未来デザイン2028」を審査</li> <li>・ 天龍峡温泉交流館建設に関し、産業建設委員会で自由討議実施後、附帯決議をつけて可決、本会議での委員長報告に対する討論を経て予算案を可決</li> <li>・ 地元産材のPRを目的に飯田市産ヒノキと遠山杉のネームプレートを作成し、全議員が着用を開始</li> <li>・ 議会だより200号記念号を発行</li> <li>・ 7月から9月にかけて議会による行政評価を実施（42施策、19事務事業）</li> <li>・ インターネットで委員会の映像配信を開始（12月12日 総務委員会から）</li> <li>・ 第9回議会報告会を開催（9月～10月、6会場で市民554人が参加）</li> <li>・ 議会議案検討委員会を設置し、議員提出による「飯田産の地酒及び果実飲料で乾杯する条例」を議決</li> <li>・ 議会出前講座を松尾小学校で実施（2回目：2月、3回目：11月）</li> </ul>
平成29年 (2017年)	<ul style="list-style-type: none"> <li>・ 飯田市議会の主催による飯伊市町村議員研修会を開催。藤山 浩氏を講師に迎え、「田園回帰1%戦略」を学ぶ（1月）</li> <li>・ 社会文教委員会が「地域ケアシステムの構築」に関する調査研究を行い、議会全体の政策討論会を経て、議会から市長へ政策提言（3月）</li> <li>・ 産業建設委員会は、「若者定住の促進について」ほか、5つのテーマについて2年間の調査研究活動をまとめ、所管部署へ提案（3月）</li> <li>・ 飯田市スポーツの振興に寄与することを目的に「飯田市議会スポーツ振興議員連盟」が発足（3月）</li> <li>・ 市議会改選（4月16日執行、投票率 57.95%、議員23名うち新人5名）</li> <li>・ 議会出前講座を山本小学校で実施（6月）</li> <li>・ 第5次基本構想の平成28年度分について議会による行政評価を実施（7月～）評価結果に基づく成果や課題を反映させるため、4月からスタートした総合計画「いいだ未来デザイン2028」の戦略計画に対して、市長へ提言（9月）</li> <li>・ 第10回議会報告会を開催（10月、6会場で市民582人参加）</li> </ul>
平成30年 (2018年)	<ul style="list-style-type: none"> <li>・ 議会出前講座を松尾小学校で実施（1月 6年生143人）</li> <li>・ 飯田市議会の主催による飯伊市町村議員研修会を開催。大森 彌氏を講師に迎え、「自治体議会の改革と議員の法的位置づけ」について学ぶ（1月）</li> </ul>

年	議 会 の 動 き
平成30年 (2018年)	<ul style="list-style-type: none"> <li>・ リニア推進特別委員会が、リニア駅周辺整備などをテーマとして、商工会議所支部や地域団体と意見交換会を実施（2－3月）</li> <li>・ リニア推進特別委員会が、リニア駅周辺整備を含むリニア関連事業の進め方等に対する要望書を所管部署へ提出（6月）</li> <li>・ 飯田市議会（リニア推進特別委員会）主催による「リニアを活かしたまちづくり講演会」を開催（7月）</li> <li>・ 飯田市の総合計画「いいだ未来デザイン2028」に対する議会による行政評価がスタート。各常任委員会や合同委員会での大局的な評価（森の評価）を経て政策提言を実施（7月－9月）</li> <li>・ 社会文教員会が、「市内小中学校及び保育園等にエアコン設置を求める要望書」を所管部署へ提出（9月）</li> <li>・ 第11回議会報告会を開催（10月 7会場で市民654人が参加）</li> <li>・ 予算決算委員会の設置に向け、予算決算審査検討プロジェクトを発足（12月）</li> </ul>
平成31年 (2019年)	<ul style="list-style-type: none"> <li>・ 広報広聴委員会、同委員会内の議会だより検討会議により、議会だよりの見直しを図り、リニューアルパイロット版を発行（1月）</li> <li>・ 飯田市議会主催による「飯伊市町村議会議員研修」を開催。山梨学院大学大学院の江藤俊昭教授を講師に招き議会改革について学ぶ（1月）</li> <li>・ 一般質問等における執行機関側の議員に対する「反問権」の行使について定めた、改正飯田市議会会議規則が施行（2月）</li> <li>・ 総務委員会が、市内3か所で「地域コミュニティーの在り方」について意見交換会を実施（2月）</li> <li>・ 第1回定例会において市長が初の反問権を行使（3月）</li> </ul>
令和元年 (2019年5月～)	<ul style="list-style-type: none"> <li>・ 第1回臨時会において、湯澤啓次議長・原和世副議長を選出（5月）</li> <li>・ 第1回臨時会において、予算決算委員会を常任委員会として設置。予算・決算及び行政評価を所管し、今後は分割付託されてきた予算・決算議案について一括で付託を行うこととなった（5月）</li> <li>・ 長野県市議会議長会総会を飯田市で開催。龍谷大学政策学部教授の土山希美枝氏を講師に招き「政策議会をつくる議員力・議会力」を学ぶ（7月）</li> <li>・ 予算決算委員会所管による「議会による行政評価」を実施。9月定例会後、議長から市長に対し評価提言書を手交（7月－9月）</li> <li>・ 議会出前講座を山本小学校で実施（10月）</li> <li>・ 議会報告会を開催（10月 7会場で市民743人が参加）</li> <li>・ 議長、副議長及び事務局長が「地方議会における政策サイクルと評価モデル研究会」に参加（10月－3月）</li> </ul>

年	議会の動き
令和元年 (2019年5月～)	<ul style="list-style-type: none"> <li>・台風第19号で被災地となった長野市へ、長野県市議会議長会を通じて見舞金を送った（11月）</li> <li>・議会報告会で出された「小学校のトイレ環境」に対する意見を受けて、社会文教委員会が市内の小中学校全てのトイレ環境の現状把握と学校職員への聞き取り調査を行い、予算決算委員会での審査、本会議での同意をもって市長に提言書を提出した（12月）</li> </ul>
令和2年 (2020年)	<ul style="list-style-type: none"> <li>・飯田市議会主催による「飯伊市町村議会議員研修」を開催。(株)地方議会総合研究所代表取締役の廣瀬和彦氏を講師に招き「議会の活性化と議会運営」について学ぶ（1月）</li> <li>・市議会災害対策会議を実施（1月ー）</li> <li>・新型コロナウイルス感染症の影響で市の行事が開催中止（2月ー）</li> <li>・第1回定例会で新型コロナウイルス感染症対策についての質問が複数あり（3月）</li> <li>・第1回臨時会を開催し、新型コロナウイルス感染症対策に関する補正予算等を審議（5月）</li> <li>・タブレット端末を活用したペーパーレス会議システムについての全員協議会勉強会を開催（6月）</li> <li>・「子育ての孤立化」をテーマに、社会文教委員会が「課題共有型えんたく会議」を開催（7月）</li> <li>・飯田市の総合計画「いいだ未来デザイン2028」に対する議会による行政評価・提言を行う（9月）</li> <li>・議会報告・意見交換会を開催（10月 7会場で市民420人が参加）</li> <li>・県知事と市長にリニア中央新幹線関連事業等により移転をお願いする皆さんに係る農振除外手続きに関する要望書を提出（12月）</li> </ul>
令和3年 (2021年)	<ul style="list-style-type: none"> <li>・第1回臨時会を開催し、新型コロナウイルス感染症ワクチン接種事業など対策に関する補正予算等を審議（2月）</li> <li>・全議員を対象としてペーパーレス会議システムの研修を実施（2月）</li> <li>・第1回定例会からタブレット端末を活用した議案審議を試行的に開始（3月）</li> <li>・議会、飯田商工会議所、飯田市行政の3者の共同声明として、「ゼロカーボンシティ宣言」を実施</li> <li>・市議会改選（4月25日執行、投票率 60.74%、議員23名うち新人9名）</li> <li>・第2回臨時会において、井坪隆議長・山崎昌伸副議長を選出（5月）</li> <li>・「南アルプスジオパーク」をテーマに議員研修を開催（6月）</li> </ul>

年	議 会 の 動 き
令和3年 (2021年)	<ul style="list-style-type: none"> <li>・新型コロナウイルス感染症デルタ株による急速な感染拡大を踏まえ、議会より市長に対して緊急提言を行う（8月）</li> <li>・新型コロナウイルス感染症対策として、抗原定性検査（簡易キット）を活用した水際対策の有効性を伝え、全国的な展開とその支援を要望するため、国に対して意見書を提出（8月）</li> <li>・飯田市の総合計画「いいだ未来デザイン2028」の中期4年間の内容の評価・検証を行い、評価・提言書として市長へ提出（9月）</li> <li>・社会文教委員会が、日本福祉大学社会福祉学部社会福祉学科の宮國康弘氏を講師に、「フレイル予防対策とその評価について」学ぶ（10月）</li> </ul>
令和4年 (2022年)	<ul style="list-style-type: none"> <li>・飯伊市町村議会議員研修会を開催。同志社大学の新川達郎名誉教授を講師に、「大災害・感染症と議会」について学ぶ（1月）</li> <li>・災害時や新型コロナウイルス感染症の感染拡大状況にあっても議会機能を維持していくため、飯田市議会委員会条例や会議規則などの改正を行い、委員会等の会議におけるオンライン会議の実施を可能とした（2月）</li> <li>・議会として「ロシアのウクライナに対する侵攻を非難する決議」を全会一致で可決。また、戦禍に見舞われたウクライナの人々を支援するため、市議会議員23人全員で、23万円をユニセフ（国連児童基金）に寄付をした（3月）</li> <li>・「地方議会評価モデル」導入に伴うキックオフ講演会を実施。大正大学社会共生学部公共政策学科教授の江藤俊昭氏を講師に、「地域経営における議会の役割と地方議会評価モデル」について学ぶ（3月）</li> <li>・4月から「地方議会成熟度評価モデル」の取り組みを開始。飯田市議会の役割（ミッション）や目指すべき姿（ビジョン）等を策定（令和5年3月）</li> <li>・飯田市議会業務継続計画（議会BCP）の策定（5月）</li> <li>・契約に係る議会未提出案件及び職員の不適切な事務処理等に関する申入書を市長へ提出（6月）</li> <li>・新たな広聴の場として「タウンミーティング」を開催（7月）</li> <li>・「議会報告・意見交換会」をコロナ禍の状況を踏まえ、7ブロック14会場で開催（9月～10月）</li> <li>・飯田市内を会場に、三遠南信地域市町村議会議長協議会及び道路建設促進議員協議会総会を開催（10月）</li> <li>・請願・陳情の手引きを作成（11月）</li> <li>・「リニア駅周辺整備事業土木実施設計に対する政策提言」を市長へ提出（11月）</li> <li>・政治倫理に関する研修会の開催（12月）</li> </ul>

年	議 会 の 動 き
令和5年 (2023年)	<ul style="list-style-type: none"> <li>・「ジェンダー（社会的性別）について共に考える研修会」を下伊那郡町村議会議長会の共催、飯田商工会議所の協力により実施（1月）</li> <li>・飯田市議会個人情報保護に関する条例を制定（3月）</li> <li>・飯田市議会会議規則及び飯田市議会議員の議員報酬の特例に関する条例を改正（本会議や委員会への欠席事由として育児、看護、介護等を明文化するとともに、出産について産前・産後期間に配慮した規定の整備）（3月）</li> <li>・15年振りとなる水道料金の改定に伴う申し入れを議長から市長へ提出（4月）</li> <li>・「オーケストラと友に音楽祭」の15回記念として、議場でのコンサートを開催（4月）</li> <li>・第1回臨時会において、熊谷泰人議長・竹村圭史副議長を選出（5月）</li> <li>・水道料金改定に関わる議案に関し、産業建設委員会で自由討議を実施後、附帯意見をつけて可決（6月）</li> <li>・高校生を対象にタウンミーティングを開催（7月）</li> <li>・議会出前講座を山本小学校（8月）と浜井場小学校（1月）で実施</li> <li>・「議会による行政評価」を実施。議長から市長に評価提言書を手交（9月）</li> <li>・「議会報告・意見交換会」を全7日間・11会場で開催（10月）</li> <li>・社会文教員委員会が「飯田市高齢者福祉計画・介護保険事業計画の策定について」調査研究を行い、健康福祉部長へ政策提案書を提出（12月）</li> <li>・「県施設の整理統合が続く中で、地域の振興に資する施設整備等を求める意見書」を長野県知事及び長野県議会議長へ提出（12月）</li> </ul>
令和6年 (2024年)	<ul style="list-style-type: none"> <li>・飯田市議会主催による「飯伊市町村議会議員研修」を開催。早稲田大学名誉教授、早稲田大学マニフェスト研究所顧問の北川正恭氏を講師に迎え、「2030年地方議会の展望」について学ぶ（1月）</li> <li>・能登半島地震の被災地域へ、北信越市議会議長会を通じて義援金を送る（2月）</li> <li>・住民自治を考える学習活動の一環として、「地域自治組織導入の経過と今日的課題について」をテーマに研究会を開催（5月）</li> <li>・議会日程の見直しの試行開始（6月）</li> <li>・羽場公民館「夏休みこども寺子屋」が飯田市議会へ訪問、主権者教育の一環として実施（7月）</li> <li>・「後期計画に向けた提言書」及び「中期計画にかかる提言書」を市長に提出（9月）</li> <li>・補欠選挙執行（10月20日）</li> </ul>

年	議 会 の 動 き
令和6年 (2024年)	<ul style="list-style-type: none"> <li>・陳情書の取扱いの基準について見直す「飯田市議会会議規則の一部を改正する規則」を制定し、併せて「飯田市議会陳情書の処理に関する規程」を制定（12月）</li> </ul>
令和7年 (2025年)	<ul style="list-style-type: none"> <li>・議会スローガンロゴデザイン決定（3月）</li> <li>・これまで書面・対面に限定されていた手続の一部をオンライン化の対象とすること、及び承認制であった手続を許可制にすること等の見直しを行う「飯田市議会会議規則の一部を改正する規則」を制定（3月）</li> <li>・刑法の改正、マイナンバー法の改正等による「飯田市議会個人情報の保護に関する条例の一部を改正する条例」を制定（3月）</li> <li>・これまで議員が一律に制限されていた市の業務の請負について、一定の金額まで緩和されることに伴い、市民に対し、議会運営の公正性及び透明性を確保するため、議員と市との請負状況を公表する制度を設ける「飯田市議会議員の請負の状況の公表に関する条例」を制定（3月）</li> <li>・令和7年度飯田市病院事業会計予算（案）に対する附帯決議（3月）</li> <li>・市議会改選（4月20日執行、無投票（83年ぶり）、議員23名うち新人10名）</li> <li>・第1回臨時会において、竹村圭史議長・清水優一郎副議長を選出（5月）</li> <li>・法政大学教授の土山希美枝を講師に迎え、「議員と議会と市民と自治体のありかたを考える」を演題に研修会を開催（9月）</li> </ul>
令和8年 (2026年)	<ul style="list-style-type: none"> <li>・「議会・議員の在るべき姿について」をテーマに議会報告・意見交換会を開催（10月）</li> <li>・議会の在り方検討委員会を設置（12月）</li> <li>・飯田コアカレッジでタウンミーティングを開催（1月）</li> <li>・飯田市議会主催による「飯伊市町村議会議員研修」を開催。（2月）</li> <li>・議会出前講座を松尾小学校で実施（3月）</li> </ul>

## VI 参考資料

### 1 都市宣言

#### ① 安全都市宣言

わが国における産業経済の成長と生活文化の向上は、近年著しいものがあり、わが飯田市も近代的生産都市として発展の一翼をにない、市勢も各方面にわたり伸展しつつある。反面、産業災害、交通事故、火災などの各種災害が多発し、日常生活をおびやかされていることは、憂慮にたえないところである。

もとより、災害を防止するための措置は、それぞれの分野において積極的に実施されているが、われわれはさらに進んで市民の生命尊重と、産業文化伸展の理念のもとに、各種の災害をより効果的に防止するため、飯田市各階層を一丸とする市民運動を強力に推進し市民の安全意識の高揚をはかることこそ緊要であると確信する。

われわれは、この際「国民安全の日」制定の意義に沿い、本市における産業・労働・交通・消防・教育・文化・婦人団体など各界の連携をはかり、市民生活のあらゆる面において安全を確保し、明るく住みよい都市建設を目指して、ここに飯田市を「安全都市」とすることを宣言する。

昭和36年6月26日

飯 田 市 議 会

#### ② 明るい選挙都市宣言

民主政治の健全を期するためには、明るい選挙が行わなければならない。即ち、民主政治の基盤は選挙にある。

本市は、さきに公明選挙都市宣言をなし、これが運動を推進し、その実績をあげつつあるとはいえ、なお、遺憾な点なしとはいえない。

よって市民の代表である、本市議会はここに決意を新たにするとともに、市民の希望と熱意を結集し、これが現実を期するため、飯田市を「明るい選挙都市」とすることを宣言する。

昭和40年6月29日

昭和61年6月25日（一部変更）

飯 田 市 議 会

③ 青色申告都市宣言

本市は自主申告納税の理想郷を実現するため、また市民が青色申告の本質を再認識して国民の基本的義務である納税についての思いを新たにし、かつ、その納税意欲の向上をはかって、社会経済の発展に貢献するとともに、市民相互の繁栄と幸福を築くため、ここに飯田市を「青色申告都市」とすることを宣言する。

昭和52年9月21日

飯 田 市 議 会

④ 電波障害防止都市宣言

今日の情報化社会において、テレビ・ラジオは市民生活にとって不可欠のものとなっている。

しかるに、都市の近代化による高層建築物の増加、電気設備などの高度化は電波障害を誘発する要因となっている。

当市議会は、かつて昭和41年9月、他の市町村に先駆けて「電波無雑音都市宣言」を議決し、多大の成果を得て今日にいたっている。

今後、都市の近代化がさらに進む中で発生を免れない電波障害を一掃し、市民の快適な生活環境を築くため、その宣言の精神を一層敷延化して、ここに本市を電波障害防止都市とすることを宣言する。

昭和54年12月21日

飯 田 市 議 会

⑤ シートベルトヘルメット着用都市宣言

飯田市における交通事故は激増の一途をたどり、悲惨な事故のために多くの市民がその犠牲となっており、昭和56年度における人口1万人当りの事故率は55.3人で、県下17市中第1位という極めて憂慮される事態を迎え、事故絶滅は現下の緊急課題である。

交通事故の実態を見ると、シートベルト並びにヘルメットの着用は被害の防止、軽減を図る上で大きな効果が認められているが、その着用率は未だ十分といえない状況である。交通量の増加に伴い、ますます交通事故の危険が迫る現状にかんがみ、運転者のなご一層の交通安全意識を高めるため、ここに「シートベルト並びにヘルメットの着用」を宣言する。

昭和57年12月21日

飯 田 市 議 会

⑥ 非核平和都市宣言

世界の恒久平和は、人類共通の願望である。

しかるに、米・ソ超核大国による核軍拡競争は拡大均衡をめざすという口実でますます激化し、世界の平和と安全に重大な脅威と危機をもたらしている。

わが国は、世界唯一の核被爆国としてこの地球上に広島、長崎の惨禍を再びくりかえしてはならないと訴えるものである。

飯田市は、平和憲法の精神にのっとり、「非核三原則」を将来ともに尊重し、あらゆる国のあらゆる核兵器の廃絶を全世界に強く訴え、核兵器の全面撤廃と軍縮を推進し、もって世界の恒久平和達成をめざすものである。

ここに、飯田市を「非核平和都市」とすることを宣言する。

昭和59年6月28日

飯 田 市 議 会

⑦ 振替納税推進都市宣言

期限内完納の思想の高揚をはかるため、市民が振替納税の本質を理解して国民の基本的義務である納税意識が向上し、社会経済の発展と市民相互の繁栄に貢献することを願い、ここに飯田市を「振替納税推進都市」とすることを宣言する。

昭和60年6月29日

飯 田 市 議 会

⑧ 暴力団追放都市宣言

飯田市は、美しい自然と長い歴史と伝統文化につつまれた人情豊かなまちとして、平和で明るく住みよいまちづくりに積極的に取り組んでいるところである。

しかしながら、暴力団による不法行為は増加の一途を辿り、暴力団同志によるけん銃発砲事件も発生し、善良な市民生活が脅かされるなど、美しい郷土のイメージが損なわれことは、まことに遺憾であり、強い憤りを感じるものである。

善良な市民の平穏な日常生活と安全を守る立場から全市民の総意を結集し、暴力を是認しない地域づくりにつとめ、すべての暴力の根絶を図らなければならない。

よって、本市議会は、犯罪のない平和な住みよい郷土の建設をめざし、暴力行為を壊滅し、すべての暴力団を追放するため、ここに飯田市を「暴力団追放都市」とすることを宣言する。

昭和61年12月22日

飯 田 市 議 会

⑨ 人権尊重都市宣言

私たちは、だれもが人間らしく幸福に生きる権利を有し、だれからも尊重され、親しまれ、愛されながら豊かに暮らすことを求めています。そして、美しい自然と同様に、だれ隔てなく接する思いやりのある美しい心を持つ市民が明るく生活するまちちを目指して努力しています。

しかし、大変残念なことに、現実には偏見による差別など様々な人権侵害が存在しています。このことは、早急に解決しなければならない重要な課題です。

よって、私たちは基本的人権を正しく理解し、尊重し、人権擁護の良き実践者となるとともに、善意を広め、互いに励まし合い、手を取り合っであらゆる人権侵害を根絶することを誓うため、ここに飯田市を「人権尊重都市」とすることを宣言します。

平成8年6月24日

飯 田 市 議 会

⑩ 環境文化都市宣言

私たち飯田市民は、地球環境問題が人類共通の課題であることに着目し、人と自然のかかわりを見つめ直して、日々の生活から産業活動まですべての営みが自然と調和するまちづくりに、先駆的に取り組んできました。

自然環境や生活環境などを取り巻く状況が厳しさの度を増している今日、「持続可能性」と「循環」を基本にして自分たちのライフスタイルから社会の有り様に至るまでをあらためて見直し、「環境に配慮」する日常の活動を「環境を優先」する段階へと発展させながら、新たな価値観や文化の創造へと高めていく必要があります。

私たちは、かけがえのない地球にある生態系の中で自然と共生する地球市民の一員としての原点に立ち返り、先人から受け継いだ美しい自然環境と多様で豊かな文化を活かしながら、市民、事業者、行政など多様な主体の積極的な参加と行動とによって人も自然も輝く個性ある飯田市を築くことを誓い、ここに「環境文化都市」を宣言します。

平成19年3月23日

飯 田 市 議 会

## 2 市政提携に関する覚書

長野県飯田市（以下「甲」という）と岡山県津山市（以下「乙」という）は、市政執行の面において相互に啓発し、いっそう市政の伸展と住民福祉の向上を期するため、緊密に提携することを協定し、当面、この目的達成のため、次の事項を実行することを確認する。

### 記

- 1 この目的達成のため、甲、乙において作成したあらゆる行政事務資料で、相手方の参考になると考えられるものは、相互に送付するものとする。この場合は窓口は、総務課扱いとする。
- 2 甲、乙は、必要に応じて協議の上、相互に研修のため職員を派遣することができる。この派遣職員の滞在に要する経費は、それぞれ派遣する側の負担とする。ただし、執務に要する事務的経費は、委託を受けた側が負担する。
- 3 この協定書以外の特別な事項で必要があると認めるときは、その都度双方協議のうえ、決定する。

以上この協定を証するため、覚書2通を作成し、甲・乙各1通を保有する。

昭和44年3月25日

甲	飯田市長	清水重美
乙	津山市長	生末敏夫

## 3 友好都市締結

### 盟 約 書

日本国長野県飯田市とフランス共和国アルデンヌ県シャルルヴィル・メジエール市は、共に古きよき伝統を有し、人形劇芸術において重要な役割を果たしつつある。

両市の市民と市民が構成するさまざまな組織間の相互理解と友情を深めることにより、日本国とフランス共和国の親善を促進し、世界の平和に貢献することを希求し、ここに両市が友好都市として提携することを盟約する。

昭和63年8月5日

日本国 長野県  
飯田市  
市長 松澤 太郎

フランス共和国アルデンヌ県  
シャルルヴィル・メジエール市  
市長 ロジェ・マス

#### 4 飯田市の主要年表

年 月	事 項
昭和12. 4	飯田・上飯田町合併 飯田市誕生 人口31,289人
5	第1回市議会議員選挙
6	飯田市初議会で、市長に野原文四郎氏を推挙
14. 11	市瀬泰一氏第2代目市長に就任
17. 5	市議選翼賛選挙で無投票当選
18. 8	伊那電鉄など飯田線となる
19. 12	県立飯田保健所開所
21. 4	戦後初の衆議院選挙 飯田市の人口33,772人
7	飯田駅前大火
22. 4	公選による知事、市長選。高田茂氏当選 第4代目市長に
4	飯田市大火 市街地の3分の2を焼失
23. 3	飯田市消防本部、消防署発足
26. 12	飯田市立病院開院
28. 11	りんご並木の植付始まる
29. 4	飯田長姫高校全国高校野球選抜大会で優勝
10	飯田市公民館、復興記念館開館
30. 4	市長選に松井卓治氏当選、第5代目市長に就任
31. 9	飯田市、座光寺村、松尾村、竜丘村、三穂村、伊賀良村、山本村、下久堅村が合併、新飯田市発足
31. 10	合併初の市議会 飯田市公民館で開催、議員数145名 合併後の市長選 松井卓治氏無投票当選
32. 4	松井市長、鼎町と上郷村へ合併を申入れる
34. 7	飯田市下水処理場供用開始。県下初、全国で6番目
35. 7	飯田市民プール完成
36. 3	川路村を合併
6	梅雨前線豪雨伊那谷を襲う 死者11人 行方不明5人
37. 10	建設大臣伊那谷の災害地を視察
11	飯田市役所新庁舎落成
38. 10	低開発地域工業開発地区に指定される
12	りんご並木後援会発足
39. 3	龍江村、千代村、上久堅村を合併
40. 7	市立病院新館落成
9	組合立、飯田衛生センター落成
12	老人ホーム川路寮開設
41. 1	市議会、地財法準用を議決
10	中央自動車道杭打式（今宮球場附近）

年 月	事 項
昭和42. 5	飯田勤労者福祉センター開館
9	飯田市議会 財政再建のため議員報酬5割削減可決
11	りんご並木15周年記念式典を行う
11	市制施行30周年記念式典を行う
43. 4	飯田市・鼎町・上郷村消防組合発足
5	りんご並木、NHK総合テレビで放映される
8	飯田市・鼎町・上郷村下水道組合発足
10	市長選に清水重美氏当選 第6代目市長に
44. 3	岡山県津山市と市政業務提携
8	36年災害復旧状況視察のため皇太子御夫妻来飯
11	飯伊地域広域行政市町村圏協議会設立
45. 2	飯田市・鼎町・上郷村上下水道組合発足
11	大平部落解散式
11	飯田卸売団地開設
46. 3	飯田・鼎・上郷消防組合発足
6	名誉市民日夏耿之介氏死去 行年81才
6	市議会、生活改善推進を議決
8	りんご並木の碑除幕式
47. 4	飯田文化会館竣工
10	市長選に松澤太郎氏当選 第7代目市長に
49. 3	飯田市農業協同組合発足
5	松川ダム完成、妙琴浄水場通水式
50. 1	飯田中央農業協同組合発足
6	飯伊特別養護老人ホーム「飯田荘」完成
8	中央自動車道西の宮線開通（中津川一駒ヶ根間）
51. 2	鼎町・上郷町へ合併の申し入れをする
3	市議会議員定数を30人に削減
10	松尾終末処理場供用開始
11	飯田市公民館竣工
52. 5	飯田市総合運動場、勤労者体育センター完成
6	市民憲章制定
53. 10	第33回国民体育大会「やまびこ国体」開催（ラグビー会場）
12	飯田市基本構想、基本計画策定
54. 7	飯伊モデル定住圏地域の指定を受ける
8	人形劇カーニバル始まる
12	飯田市墓地霊園、桐林に完成

年 月	事 項
昭和55. 3	市営弓道場移転完成
4	橋北コミュニティ防災センター完成
56. 4	飯田地区広域消防組合発足（松川町・喬木村・大鹿村・豊丘村・高森町・清内路村・阿智村が加入）
9	鼎町早期に合併したいとの回答
57. 3	飯田市武道館完成
7	上郷町に再度合併の要請
8	飯田まつりに新曲「りんごん」を踊る
11	中央自動車道西宮線全線開通
12	飯田市・鼎町両議会合併協議会設置を可決
58. 1	第1回飯田市・鼎町合併協議会開かれる
3	飯田市保健センター完成
9	台風10号大きな被害を受ける
59. 2	座光寺小学校完成
3	橋南にコミュニティ防災センター完成 龍江公民館、支所完成
8	飯田市と鼎町との合併調印式
12	鼎町と合併
60. 3	天竜川治水基本協定の調印
4	旭ヶ丘中学校の開校
4	鼎町と合併後初の市議選
5	「三遠南信道路」3県レベル同盟会の設立
10	「美術博物館」基本構想委員会発足
61. 3	座光寺公民館・支所完成
8	人形劇アジア会議開催
10	飯田消防署新庁舎完成
12	北方地区土地区画整理事業着工
62. 1	飯田市立病院新副院長人事発令
2	飯田工業技術センター完成
3	イタチガ沢埋立地完成 丸山地区土地区画整理事業着工
4	飯田コンピュータ専門学校開校
8	飯田市子ども議会開催
10	市制施行50周年記念式典
11	りんご並木ヘニュートンのりんごの木、国道153号線バイパスへりんご植付
12	飯田市基本構想、基本計画策定

年 月	事 項
昭和63.	3 市道知久町中村線・国道153号線バイパス第1工区竣工
	6 飯田市・上郷町両議会合併協議会設置可決
	7 第1回飯田市・上郷町合併協議会開かれる 人形とけい塔ハミングパル並木通りに設置
	8 シャルルビル・メジュール市と友好都市提携 飯田人形劇場開館 世界人形劇フェスティバル開催
	10 飯田市美術博物館10月1日落成式 市長選に田中秀典氏当選 第8代目市長に
平成元.	3 飯田衛生施設組合 桐林クリーンセンター完成 飯田運動公園県営飯田野球場完成
	6 桐林運動広場完成
	8 アフィニスセミナー開催 山梨リニア実験線、建設正式決定 三遠南信自動車道、程野・飯田東IC間のルート公表
1.	9 伊那谷高速交通フェア開催 第2. 4土曜日の閉庁実施
	10 飯田市美術博物館開館
	11 飯田市立病院、総合病院となる
	12 飯田勤労者総合福祉センター完成
2.	3 松尾公民館・支所完成
	4 名勝天竜峡温泉利用開始
	8 新病院本体建設着工
	11 新し尿処理場着工
	12 県議定数（飯田地区）2人から3人に
3.	1 市営駐車場30分無料化
	2 テレトピアモデル都市に指定
	3 千代診療所完成
	7 飯田市斎苑完成、動物炉が新設される
	9 今田人形座が仏国で開催の人形劇世界フェスに出演
	10 飯田工業高校跡地一帯が建設省「平成記念子供のもり公園」に指定される
	12 飯田農協と飯田中央農協が合併「信州いいだ農協」が誕生
4.	2 天竜川治水対策事業起工式が行われる
	3 飯田市で初の「かなえデイサービスセンター」完成 国道153号線バイパス第2工区と飯田下山線開通 飯田運動公園弓道場竣工

年 月	事 項
平成4. 3	飯田市有線放送局閉局
4	オフトーク通信事業開始 かなえデイサービスセンター開所 飯田ふれあい農園開園
6	オフトーク通信による議会本会議生中継開始 緑ヶ丘中学校プール完成
7	新し尿処理場「飯田竜水園」運転開始 伊賀良「育良町」誕生
9	新市立病院竣工式
10	国道153号線バイパス新市立病院まで開通 新市立病院開院（外来診療開始）
12	飯田市・上郷町合併調印式 飯伊地域が地方拠点都市第一次指定される
5. 1	地方拠点都市整備計画策定室設置
2	丸山羽場第2地区区画整理事業起工式
3	男女共同参画型社会をめざして「信州飯田女性プラン」（女性行動計画） まとまる 上久堅福祉企業センター竣工
4	市役所の業務が毎週土曜日閉庁となる
6	飯田駅前にアイパーク竣工
7	上郷町と合併し、人口が106千人となる
8	人形劇カーニバル15周年を迎える アフィニスセミナー5周年を迎える
10	飯田のシンボル「りんご並木」が40周年を迎える 浜松市のフルーツパークに飯田のりんごの苗木が植樹される また両市の美術館で所蔵品の交換展を開催 特別養護老人ホーム第二飯田荘が開所
12	飯伊地方拠点都市地域基本計画が知事承認を受ける
6. 2	三遠南信地域の振興を考える「三遠南信サミット」が浜松で開かれる 天竜川治水対策事業、龍江側で盛土工事本格着工
3	三遠南信自動車道「矢筈トンネル」供用開始 山本公民館、支所竣工
4	今田人形の館竣工 飯伊広域行政組合発足 オフトーク通信事業の放送業務を民間委託
6	ゆとり宣言都市指定モニュメント「ゆとり創造の樹」完成

年 月	事 項
平成6. 9	飯田市議長が友好都市フランスのシャルルヴィル・メジエール市を訪問
10	飯田市議会だより100号記念発行 飯田市総合運動場全面改修工事竣工
12	国土利用計画（飯田市計画）策定議決
7. 2	中心市街地から「西友」撤退 阪神大震災被災地へ支援 飯田市下水道整備計画策定
4	北部・竜東デイサービスセンター開所 天竜峡活性化センター「あざれあ」開館
7	飯田運動公園プール「アクアパーク I I D A」竣工 飯田市立病院に併設の伝染病棟隔離病舎（飯伊広域行政組合）供用開始
8	戦後50年平和祈念事業を開催（8～11月）
10	「三遠南信サミット&シンポジウム i n 飯田」開催 第41回風越登山マラソン開催（7年ぶりに復活）
12	飯田市議会12月定例会で条例定数は現行31人で議決 飯田農業振興地域整備計画を変更、都市計画の用途地域も変更
8. 2	天竜川治水対策事業、川路、竜丘側築堤工事起工式 市民構成劇「かごこし姫となかまたち」上演
3	市議会本会議で「飯田市部等設置条例の一部を改正する条例の規定について」否決
4	飯田市農政プラン策定 第4次基本構想・基本計画「環境文化都市をめざして」策定 飯田市工業振興マスタープラン策定 飯田やまびこマーチ10周年
5	矢高共同調理場竣工
6	人権尊重都市宣言 「飯田市部等設置条例の一部を改正する条例の規定について」可決
7	市役所組織機構改革が実施される（7月1日より）
12	さんとびあ飯田竣工 信州飯田ふるさと大使館開館 21' いいだ環境プラン策定
9. 2	ハートヒル川路竣工
4	市制施行60周年
5	市議会改選
5	市誌編さん委員会誕生
7	太陽光発電に無利子融資

年 月	事 項
平成9.	7 エコタウン地域に指定される
	8 全国夏期巡回ラジオ体操会
	10 世界地方都市十字路会議
	12 J Aみなみ信州発足
平成10.	2 市民バス運行開始
	2 長野オリンピック冬季競技大会開催
	3 長野パラリンピック冬季競技大会開催、飯田市より2人参加
	3 議員の各種審議会報酬辞退を全会一致で可決
	4 天竜川治水対策・龍江側工事完成
	6 飯田市役所ISO14001を取得する方針決定
	第1回飯田市藤本四八写真文化賞 (芳賀日出男さん、宮島功さん、南島孝さん受賞)
	8 第20回人形劇カーニバル (20回を記念して世界人形劇フェスティバル開催)
	第10回アフィニス夏の音楽祭ロストロ・ポーグイチ氏を迎え開催
平成11.	3 市議会「政策調査研究部会」報告(農業振興・交通施策・観光施策3部会の平成9年・10年度の2カ年の研究報告) 病院問題特別委員会審査終了 飯田工業技術研修施設・EMCセンターオープン りんご並木リニューアル
	4 飯伊広域行政組合を継承、発展する形で南信州広域連合設立
	7 よこね田んぼ「日本の棚田100選」に選ばれる
	12 ごみ処理費用負担制度開始
平成12.	1 I S O 14001認証取得
	3 市議会「政策調査研究部会」報告(地方分権・I S O・工業振興3部会の平成12年度の1カ年の研究報告)
	4 介護保険制度がスタート
	7 丸山羽場地区区画整理事業第1地区完成
	10 三遠南信パテントメッセ・EMCシンポジウムと工業技術交流相次ぐ
平成13.	1 観測開始以来の大雪に見舞われ市民生活に大きな影響が出る
	3 政務調査費の交付に関する条例の制定
	4 市議会改選
	7 橋南第1地区再開発ビル「トップヒルズ本町」完成
	8 地域交流センター「りんご庁舎」オープン
	10 いいだFM開局
	11 りんご並木「かおり風景100選」に選ばれる

年 月	事 項
平成14. 4	平成記念かざこし子どもの森公園開園
9	天竜川治水対策事業完成
10	菱田春草作「菊慈童」を購入
平成15. 1	ISO14001自己適合宣言
3	市議会「在り方研究会」「合併問題調査研究会」報告(半年間の研究報告) 「環境首都コンテスト」人口規模別第1位、総合第4位
5	南信州グリーンツーリズム特区取得
8	飯田市・喬木村・上村・南信濃村の4市村、任意合併協議会設立
10	りんご並木50周年記念事業
12	飯田市歴史研究所オープン
平成16. 1	橋南第2地区市街地再開発ビル着工
2	第1回ほんもの体験フォーラムin南信州の開催
3	オーライ!ニッポン大賞グランプリ内閣総理大臣賞受賞
3	飯田お練りまつり盛大に開催
5	「わがまちの“憲法”を考える市民会議」の発足
5	第12回環境自治体会議「いいだ会議」開催
6	自治体環境グランプリ環境大臣賞受賞
7	市立病院が地域医療支援病院として県から承認を受ける
10	飯田市長選で、牧野光朗新市長誕生
平成17. 4	地域経済活性化プログラム2005を策定、農業課と農業委員会の事務所移転
6	国際自転車レース「第9回ツアー・オブ・ジャパン南信州ステージ」を開催
7	高校統廃合問題に関連し、鼎公民館で「高校改革シンポジウム」を開催
10	上村及び南信濃村と合併
10	日独地域国際化サミットを飯田市で開催
平成18. 4	飯田やまびこマーチ20回記念大会 結いターンキャリアデザイン室を設置
6	一般廃棄物最終処分場(千代地区)の建設工事開始
9	飯田市自治基本条例の制定
10	橋南第二地区市街地再開発ビル トップヒルズ第二オープン
平成19. 3	第5次基本構想基本計画と環境文化都市宣言を可決 川本喜八郎人形美術館オープン 市制70周年記念式典を開催
4	飯田市自治基本条例、地域自治区、第5次基本構想基本計画、総合的土地利用計画、行財政改革大綱など地域の自立に向けた新しい枠組みスタート 全国さくらシンポジウムin飯田開催
11	南信濃地域交流センター完成

年 月	事 項
平成19. 11	市議会が、「第2回マニフェスト大賞審査委員会特別賞」を受賞 飯田市自治基本条例の制定の取り組みが評価される
平成20. 4	三遠南信自動車道飯喬道路1工区（飯田山本IC～天竜峡IC）が供用開始
6	天龍峡再生元年として天龍峡百年再生館オープン
7	市政懇談会に合わせて、初の議会活動報告会を市内20地区で開催
8	北京オリンピックに、飯田市出身初の選手として矢澤一輝選手がカヌースラローム競技に出場
	人形劇のまち30年を記念して「世界人形劇フェスティバル・いいだ人形劇フェスタ2008」を開催
	アフィニス夏の音楽祭が20回をもって終了
9	市議会による行政評価が初めて行われ「施策及び事務事業に対する提言書」を市長に提出
10	飯田市・南信州広域連合・みなみ信州農協が共同で運営するマーケティングショップ「南信州ファームプロダクツマーケット」を名古屋市内にオープン、地元旬の農産物の販売や地域への産地ツアーを企画
11	市内を6ブロックに分け、2回目の議会報告会を開催、市民487名が参加
平成21. 1	飯田市が内閣府から環境モデル都市に選定
3	グリーンバレー千代（最終処分場）竣工
4	市内の商工会議所、商工会が統合され新しい飯田商工会議所が誕生
5	オーケストラと友に音楽祭開催
7	飯田下伊那市町村による定住自立圏形成協定書の合同調印式
8	市企画部内に「リニア推進対策室」が設置される
10	飯田北部地区の農免道路が開通（上郷丹保地区～高森町下市田地区） 低炭素社会実現に向け「レンタサイクル事業」開始
11	新型インフルエンザが流行
平成22. 2	メガソーラーいいだ太陽光発電所 飯田市と中部電力(株)で共同建設することについて協定を締結
3	飯田お練りまつり 約32万人 42団体が参加
4	リニア中央新幹線推進本部設置（市役所内）
5	介護保健施設ゆうゆう 竣工
6	日本の環境首都コンテスト2009（第9回）で飯田市が総合2位（昨年3位）
7	集中豪雨による土砂災害（南信濃で昭和58年に次ぐ観測史上2番目となる223mmの降水量 土砂崩れや建物の全壊、床下浸水などの被害）
9	天龍峡盆踊りが25年ぶりに復活
10	定住自立圏全国市町村長サミット2010in南信州が開催
平成23. 1	メガソーラーいいだ太陽光発電所 運用開始

年 月	事 項
平成23.	1 飯田大学連携会議「学輪IIDA」の設立
	3 東日本大震災発生。避難者の受け入れ
	3 飯田市美術博物館デジタルプラネタリウムを導入
	5 国土交通大臣が全国新幹線鉄道整備法に基づき、 リニア中央新幹線の整備計画を決定
平成23.	6 三六災害から50年。三六災害50年シンポジウム開催 日本の環境首都コンテストで「明日の環境首都賞」を受賞
	9 フランス シャルルヴィル・メジエール市に「飯田通り」誕生
	9 菱田春草没後百年 飯田市美術博物館で「没後百年記念特別展」開催
	12 第5次飯田市基本構想後期基本計画策定
平成24.	4 飯田市立動物園リニューアルオープン（ちびっこランド） 8月にはペンギン舎、10月にはコンドル舎がリニューアル
	5 エコハウスがJIA環境建築賞住宅部門で優秀賞を受賞
	7 第10回スローライフまちづくり全国都市会議（スローライフサミット）開催
	8 ロンドンオリンピックに、飯田市出身の矢澤一輝選手がカヌースラローム 男子カヤックシングルで、北京大会に続き出場
	11 市議会が、第7回マニフェスト大賞地方議会部門最優秀成果賞受賞 議会による行政評価及び議会報告会の実施が評価される
平成25.	3 東和町交差点を周辺の改良工事にあわせ、全国で初めて信号機付交差点から ラウンドアバウト方式に変更して整備
	4 「地域環境権」をうたう飯田市再生可能エネルギーの導入による持続可能な 地域づくりに関する条例が施行
	4 市役所新庁舎建設工事着工
	8 人形劇フェスタ15周年を記念しアジア人形劇フェスティバルを開催
	9 リニア中央新幹線のルート及び飯田市内への駅設置の決定が発表される
平成26.	2 観測史上最多の積雪深81cmを記録 中央自動車道の通行止め、農業生産 施設の被害等市民生活に多大な影響を及ぼす
	3 恒川官衙遺跡（座光寺地区）が、国史跡に指定される 飯田市立病院周産期センター、がん診療・緩和ケアセンター竣工
	6 南アルプス（飯田市では上村、南信濃地区）がユネスコエコパークに登録さ れる
	10 航空宇宙産業クラスター拠点工場完成 リニア中央新幹線（品川・名古屋間）の工事实施計画が認可される
	12 市役所新庁舎完成
平成27.	1 市役所新庁舎開庁し業務を開始
	2 長野県内初の左右対面式議席の新たな議場で初めての市議会定例会を開催

年 月	事 項
	3 菱田春草生誕140周年記念事業が行われる、菱田春草生誕地公園が仲ノ町に完成、美術博物館では菱田春草の特別展、ワークショップ、シンポジウム等を開催
	4 パスポート窓口を市役所庁舎内に開設
	4 リニア中央新幹線中心線測量開始
	7 こども家庭応援センター「ゆいきっず」が開所
	9 飯田市長、市議会議長が友好都市フランスのシャルルビル・メジェール市を訪問し、A V I A M A（人形劇の友・友好都市国際協会）総会を招致、平成30年に飯田市で開催されることが決定
	10 マイナンバー制度が始まる
	10 国道152号小道木バイパスが開通
平成28.	3 数えて7年に1度の飯田お練りまつりが開催され、35万の人出で賑わう
	4 教育長に代田昭久教育長が就任
	4 高校生世代までの医療費が無料に（年度末年齢18歳以下の子ども）
	5 飯田市リニア関連事業現地事務所（相談窓口）を上郷飯沼に設置
	6 農地転用許可が市に権限移譲（6月1日付で指定市町村に指定）
	7 「市田柿」が地理的表示（G I）保護制度に県内で初めて登録される
	9 飯田産の地酒および果実飲料で乾杯する条例を市議会が提案し制定
	10 飯田古墳群が国史跡指定、恒川官衙遺跡が追加指定
	10 52年ぶり2期連続無投票で牧野光朗市長が当選。4期目の市政をスタート
	11 市役所庁舎整備事業が全て完了（平成25年4月着工）
	11 天皇皇后両陛下が私的御旅行のため飯田下伊那地域をご訪問（天龍峡、りんご並木、阿智村 満蒙開拓平和記念館）
	12 「地域ぐるみ環境 I S O 研究会」設立20周年記念
平成29.	4 飯田市総合計画「いいだ未来デザイン2028」スタート
	4 旧飯田工業高校施設を活用した「産業振興と人材育成の拠点」において、信州大学航空機システム共同研究講座が開講される
	4 天龍峡温泉交流館リニューアルオープン
	5 上郷北条地区のリニア駅予定地への幅杭設置が開始される
	6 「信州・伊那谷（ローカル）の個性で世界（グローバル）を惹きつけ、世界へ発信する玄関口（ゲートウェイ）」を基本理念としたリニア駅周辺整備基本計画が策定される
	8 市制施行80周年記念事業としてタイムカプセルを掘り起こし
	9 飯田市美術博物館で菱田春草記念常設展示がスタート
	10 市制施行80周年記念式典が開催される
	12 南信州広域連合稲葉クリーンセンター竣工（燃やすごみの処理が桐林クリーンセンターから移行）

年 月	事 項
平成30.	<p>2 市内で最初のリニア工事（中央アルプストンネル松川工区）が着工</p> <p>3 三遠南信自動車道飯喬道路の龍江～上久堅間が開通</p> <p>3 飯田市立病院に放射線治療専門棟（リニアック棟）が竣工し、新たに導入したがん放射線治療装置（リニアック）が稼働</p> <p>4 上村小学校が小規模特認校に認定され、区域外からの児童の通学が始まる</p> <p>8 満18歳までの子どもの医療費の窓口無料化を開始</p> <p>8 新人形とけい塔「ハミングパル」が完成</p> <p>8 世界人形劇フェスティバル開催 （いいだ人形劇フェスタ20周年・前身の人形劇カーニバル飯田から40周年）</p> <p>8 AVIAMA（人形劇の友・友好都市国際協会）総会を飯田市で初開催</p> <p>8 シャルルヴィル・メジュール市との友好都市提携30周年を記念して、「シャルルヴィル・メジュール通り」命名式等の記念式典を開催</p> <p>10 吾妻町と東和町の2つのランドアバウトが2018年度グッドデザイン賞を受賞</p> <p>11 特養飯田荘が「ゆとびいいだ」としてリニューアルオープン</p>
平成31. (2019)	<p>1 南信州広域連合が座光寺の旧飯田工業高校施設を改修・整備し、公益財団法人南信州・飯田産業センターが指定管理者となった、産業振興と人材育成の拠点「エス・バード」が開所 3月にオープニングイベントを開催</p> <p>2 下久堅ふれあい交流館が完成</p> <p>3 上郷自治振興センター・保健センターが完成</p>
令和元. (2019)	<p>7 美術博物館開館30周年 自然・文化展示室がリニューアル</p> <p>9 市長ほか関係者がシャルルヴィル・メジュール市を訪問し、AVIAMA総会に出席 リニア駅周辺整備基本設計（案）が公表 災害時の相互応援協定に基づき台風第15号の被災地である千葉県君津市に災害支援を実施</p> <p>10 飯田市総合運動場がリニューアルオープン 消費税率の引上げにともない飯田市プレミアム付き商品券の販売事業を実施</p> <p>11 三遠南信自動車道天龍峡IC・千代IC・龍江ICが開通 「そらさんぽ天龍峡」「よって館天龍峡」を整備 台風第19号の県内被災地に対して災害支援を実施</p>
令和2. (2020)	<p>2 飯田市新型コロナウイルス感染症対策本部の設置</p> <p>3 都市計画道路羽場大瀬木線（切石～北方工区）の開通</p> <p>5 地域外来・検査センター開所（新型コロナウイルス感染症の検査体制の充実）</p> <p>7 梅雨前線の停滞による豪雨災害（累積で飯田地域に600mm以上、南信濃地区に80</p>

		0mm以上の降雨量 土砂崩れや住宅の半壊、床下浸水などの被害)
	9	市内全小中学生（約8,000名）に学習者用パソコン貸与
	10	市長選に佐藤健氏当選 第10代目市長に リニア事業関連による丹保・北条地区代替地の分譲開始
令和3.	1	E V（電気）バス運行実証開始
	3	2050年いいだゼロカーボンシティ宣言 座光寺スマートインターチェンジの供用開始
	9	リニア中央新幹線 中央アルプストンネル松川工区で作業用トンネル掘削開始
	10	菱田春草没後110年特別展開催
令和4.	4	教育長に熊谷邦千加教育長が就任 恒川史跡公園「清水エリア」供用開始 橋南公民館がりんご庁舎に移転
	5	丘の上結いスクエア内にムトスぷらざがオープン
	6	新文化会館整備検討委員会発足
	8	リニア中央新幹線 中央アルプストンネル松川工区本線トンネル掘削工事開始
	10	マイナンバーカードによるコンビニ交付を開始
	11	脱炭素先行地域に選定
	12	リニア中央新幹線「長野県駅（仮称）」起工式が行われる
令和5.	2	信州ガス㈱と「飯田市地域見守り活動に関する協定」を締結
	3	中部電力㈱と「脱炭素先行地域の構築に係る基本協定」を締結
	4	信州大学ランドスケープ・プランニング共同研究講座を開講
	5	飯田市立動物園70周年記念式典を行う 三遠南信自動車道青崩峠トンネル（仮称）貫通
	8	JR飯田駅開業100周年記念式典を行う リニア中央新幹線 風越山トンネル黒田工区非常口トンネル掘削工事開始
	9	りんご並木70周年記念式典を行う
	11	南信州ナンバープレートの図柄を住民投票で決定
令和6.	2	飯田市 WEB 口座振替受付サービスを開始 歴史研究所設立20周年ワークショップを開催
	3	千代と南信濃を結ぶ林道千遠線が全線開通 新文化会館基本構想がまとまる
	8	ほっ湯アップル開館25周年イベントを開催
	10	風越山トレイルマラソン大会が70回目を迎える 市長選に佐藤健氏当選 旧小笠原書院築400周年記念式典を開催

- |        |  |
|--------|--|
| 令和7. 3 | 三遠南信自動車道青崩峠道路青崩峠トンネル（仮称）工事完成式を行う                         |
| 5      | 南信州ナンバー交付開始  |
| 6      | 信州大学空モビリティシステム共同研究講座開講                                   |
| 10     | 道の駅「遠山郷」グランドオープン<br>三遠南信サミットを飯田で開催                       |
| 11     | エス・バードで信州大学が水素パネル設置に向けて工事を始める<br>中央図書館開館110周年記念シンポジウムを開催 |

# 飯田市市歌

堀内 敬三 作曲  
宮脇 至 作詞  
西條 八十 補

一、山はアルプス赤石の

峰にかがやくしらゆきを

高き心のすがたとあおぎ

かける理想よ我らが飯田

二、谷は伊那谷天竜の

あぐるしぶきにたつ虹を

清き命の泉となして

希望もえたつ我らが飯田

三、南信濃に伝統の

文化花咲く美し町

協す力あわにいぶきも新た

のびよ久遠くおんに我らが飯田

# 飯田市歌

犬塚 利国 作詞  
飯田 景応 編曲

一、山紫やまむらさきに 水明らかに

生業なりわい栄え 人皆和して

希望の光 遍あまねく充てり

げに飯田市の 輝く天地

二、南信濃の 陽は照り映えて

四季行楽に 名を負うところ

観光都市の 誉れも添ひて

げに飯田市の 輝く前途

三、落葉に残す 千古の偉業

烈婦れつぷ偲ぶ 不断の煙り

大儒たいじゆの松風 今なお高し

げに飯田市の 輝く誇り

四、ああ天恵てんけいに 幸負う我等

協同進取の 旗なびかせて

目指すは彼方 久遠くおんの理想

げに飯田市の 輝く使命

## 飯田市議会要覧 令和8年度版

発行日 令和8年6月発行

編集・発行 飯田市議会事務局  
〒395-8501 長野県飯田市大久保町2534番地

TEL 0265-22-4523 (直通)  
0265-22-4511 (代表 内線5611)

FAX 0265-53-8821

E-mail [igikai@city.iida.nagano.jp](mailto:igikai@city.iida.nagano.jp)

URL <https://www.city.iida.lg.jp/>